

コスタリカ国
参加型生物多様性保全推進プロジェクト
中間レビュー報告書

平成 28 年 1 月
(2016 年)

独立行政法人国際協力機構
地球環境部

環境
J R
16-030

コスタリカ国
参加型生物多様性保全推進プロジェクト
中間レビュー報告書

平成 28 年 1 月
(2016 年)

独立行政法人国際協力機構
地球環境部

目 次

目次

プロジェクト位置図

写真

略語表

評価結果要約表

第1章 調査の概要	1
1-1 プロジェクト実施の背景.....	1
1-2 中間レビューの目的.....	1
1-3 調査団構成.....	2
1-4 調査日程	2
1-5 プロジェクトの概要.....	4
1-6 中間レビューの方法.....	5
第2章 プロジェクトの実績と現状.....	7
2-1 プロジェクトの実施体制.....	7
2-2 投入	8
2-3 プロジェクト活動の担当及び関係機関.....	9
2-4 アウトプットの達成状況.....	10
2-5 プロジェクト目標の達成見込み.....	13
2-6 上位目標の達成見込み.....	14
2-7 実施プロセス.....	14
第3章 評価5項目による評価.....	16
3-1 妥当性	16
3-2 有効性	17
3-3 効率性	17
3-4 インパクト.....	17
3-5 持続性	17
3-6 効果発現に関わる貢献・阻害要因.....	18
3-7 結論	19
第4章 提言	20

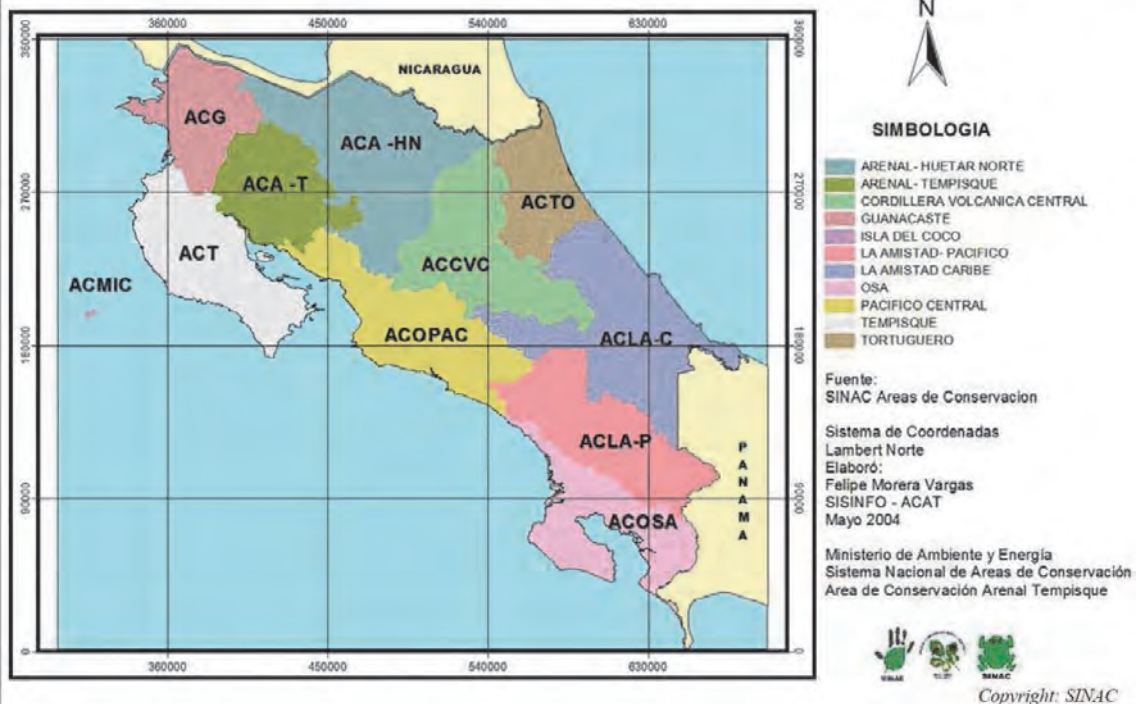
付属資料

1. Minutes of Meeting	23
2. 中間レビュー 評価グリッド	83
3. 中間レビュー時 PDM の改訂 (プロジェクトの要約)	91
4. 中間レビュー時 PDM の改訂 (指標の修正)	97

プロジェクト位置図



SISTEMA NACIONAL DE AREAS DE CONSERVACION



写 真



研修で習得したコンポストについて説明をするパイロット・サイトの統合農家の住民



研修受講前後での農場の変化を説明するパイロット・サイトの統合農家の住民



中間評価のM/M及びPDM改訂案内容検討中の官
団員、現地専門家、カウンターパート



中間評価のM/M及びPDM改定案内容検討中の
カウンターパート



中間評価のM/M及びPDMの改訂について、合同
調整委員会（JCC）で合意に至る



中間レビュー後の日本大使館表敬訪問

略 語 表

略語	英語（スペイン語）	日本語
ACAT	Arenal-Tempisque Conservation Area (Área de Conservación Arenal-Tempisque)	アレナル - テンピスケ保全地域
ACCVC	Cordillera Volcánica Central Proteced Area (Área de Conservación Cordillera Volcánica Central)	中央火山帯保全地域
ACTo	Tortuguero Conservation Area	トルトゥゲーロ保全地域
C/P	Counterpart	カウンターパート
CCAD	Central American Commission for Environment and Development (Comición Centroamericana de Ambiente y Desarrollo)	中米環境開発委員会 (SICAの下部組織)
CGR	(Contraloria General de Republica)	国家行政監査機関
CONARROZ	(Corporación Arrocera Nacional)	全国稲作協会
CORFOGA	(Corporación Ganadera)	農牧協会
FONAFIFO	National Fund for Financing Forest (Fondo Nacional de Financiamiento Forestal)	森林融資国家基金
FUNDECOR	(Fundación para el Desarrollo de la Cordillera Volcánica Central)	中央火山帯地域開発財団
INBio	National Institute of Biodiversity (Instituto Nacional de Biodiversidad)	コスタリカ生物多様性研究所
JCC	Joint Coordinating Committee	合同調整委員会
JICA	Japan International Cooperation Agency	国際協力機構
MIDEPLAN	Ministry of National Planning and Economic Policy	国家計画経済政策省
MINAE	Ministry of Environment and Energy	環境エネルギー省
M/M	Minutes of Meeting	協議議事録、ミニッツ
NGO	Non-Governmental Organization	非政府組織
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス
PES (PSA)	Payment for Environmental Service (Pago por Servicios Ambientales)	生態系サービスに対する支払い (環境サービスに対する支払い)
PO	Plan of Operations	活動計画表
REBACO	Barra del Colorado National Wildlife	バラ・デル・コロラド野生生物

	Reserve (Refugio Nacional Vida Silvestre Barra Del Colorado)	保護区 ※PDM ver. 1.0 はこの記述を用いた
R.N.V.S.B.C.	Barra del Colorado National Wildlife Reserve (Refugio Nacional Vida Silvestre Barra Del Colorado)	バラ・デル・コロラド野生生物保護区 ※PDM ver. 2.0からはこの記述を用いた
R/D	Record of Discussions	討議議事録
SE	Executive Secretariat (Secretaría Ejecutiva)	SINAC本部事務局
SICA	Central American Integration System (Sistema de la Integración Centroamericana)	中米統合機構
SINAC	National System of Conservation Areas (Sistema Nacional de Área de Conservación)	国家保全地域庁

中間レビュー調査結果要約表

1. 案件の概要	
国名：コスタリカ共和国	案件名：参加型生物多様性保全推進プロジェクト
分野：自然環境保全	援助形態：技術協力プロジェクト
所轄部署：地球環境部	協力金額（中間レビュー時点までの実績）：約 3.2 億円
協力期間： (R/D) 2013 年 4 月～2018 年 3 月 31 日	先方関係機関：環境エネルギー省 国家保全地域システム 他の関連協力：技術協力プロジェクト「コスタリカ国 バラ・デル・コロラド生物保護区における住民参加型管理プロジェクト」（2008 年 10 月～2011 年 10 月）
<p>1-1 協力の背景と概要</p> <p>コスタリカ共和国（以下、「コスタリカ」と記す）は、「生物多様性ホットスポット」であるメソアメリカ地域の中でも、生物多様性の保全上、重要な国と位置づけられている。しかし、1940 年に国土の 75%であった森林被覆率は、1987 年には 21%まで減少した。そのため、1980 年代後半より先駆的な森林保全、生物多様性保全のための政策、活動を実施してきた。その活動の結果、森林面積は 2010 年には 52%程度まで回復するに至っている。</p> <p>一方、自然保護区の管理体制については、一部の保護区を除くと、人間活動を排除することを前提とした管理モデルが適用されており、実際の管理活動としては、保護区内及び周辺地域における違法活動の取り締まりが中心である。そのため、保護区によっては、保護区内・周辺住民と保護区行政担当機関の間に軋轢が生じている。そこで独立行政法人国際協力機構（JICA）は、コスタリカ政府の要請に基づき、2008 年 10 月から 3 年間にわたり、「バラ・デル・コロラド生物保護区住民参加型管理プロジェクト」を実施した。その結果、同プロジェクトは保護区における参加型協働管理の基礎的体制を確立するなどの成果を上げ、対象となったバラ・デル・コロラド生物保護区は、コスタリカで参加型管理が実践されているモデル的な保護区とみなされるようになっている。</p> <p>コスタリカにおける先駆的な参加型生物多様性保全に係る経験は、国際的に注目を集めているが、このコスタリカの経験や実績については、体系的な整理や検証が十分なされていない。世界、とりわけ中米のメソアメリカホットスポットにおいて効果的な生物多様性保全を進める上で、コスタリカの経験を知識（Knowledge）として有効活用することが内外から期待されている。このような中、コスタリカ環境エネルギー通信省は、生物多様性保全に係る経験を特に中米地域に共有し国際貢献につなげたいとの考えに基づき、本案件をわが国に要請し、2012 年度に本件が採択された。</p> <p>1-2 協力内容</p> <p>(1) 上位目標</p> <p>コスタリカ及び中米各国における参加型生物多様性保全に関する政策とシステムが、知識（Knowledge）の適切な利用により強化される</p>	

(2) プロジェクト目標

コスタリカにおける参加型生物多様性保全のための知識 (Knowledge) が、コスタリカ国内外に広く共有される。

(3) 成果

- 1: REBACO¹における参加型生物多様性保全が強化され、他の保護区と共有される。
- 2: コスタリカにおける参加型生物多様性保全に関する知識 (Knowledge) が、成功事例の体系化を通して、記録される。
- 3: 参加型生物多様性保全を強化するための政策が提案される。
- 4: 参加型生物多様性保全に関する知識 (Knowledge) が国内外で共有される。

(4) 投入 (中間レビュー時点)

日本側:

- 1) 長期専門家派遣: 3名
- 2) 研修員受入: 39名
- 3) 機材供与: 約 1,589 万円
- 4) ローカルコスト負担: 約 126.3 万 US ドル

コスタリカ側:

- 1) カウンターパート (C/P) 配置: 約 59名
- 2) プロジェクト事務所: 生物多様性研究所 (INBio) 内の事務所及び必要な整備
- 3) ローカルコスト負担: 99,124.71US ドル

2. 中間レビュー調査団の概要

調査団	担当分野	氏名	所属先・職位
	総括	足立 佳菜子	JICA 地球環境部 森林・自然環境グループ 自然環境第二チーム 課長
	生物多様性保全	長谷川 基裕	JICA 国際協力専門員
	協力企画	本田 渉	JICA 地球環境部 森林・自然環境グループ 自然環境第二チーム ジュニア専門員
	評価分析	三島 光恵	OPMAC (株) 事業部 上席コンサルタント

調査期間: 2015年10月19日~11月4日

評価種類: 中間レビュー

3. 調査結果の概要

3-1 実績の確認

投入は日本側、コスタリカ側ともにおおむね計画どおり行われた。活動計画に対する実績の顕著な遅延は、ゾーニングガイドライン作成作業等についてみられるが、その内容について予測外に国家行政監督機関との調整を要したことなどの外部要因に主に影響を受けた。

¹バラ・デル・コロラド野生生物保護区

(1) 各成果の達成状況

成果 1: REBACO における参加型生物多様性保全が強化され、他の保護区と共有される。

成果 1 の当初の計画指標〔統合農家の環境に配慮した生産活動のモデル化支援、集約的生産農業(稲作等)を行っている農家団体や企業との環境に配慮した生産活動の協議、土地調査と登録の相談、環境教育、参加型環境モニタリング等〕に対する進捗状況においては良いと評価される。しかし、この成果は、プロジェクト目標との関係で明確に定義されておらず、達成を判断する指標は、主に活動の進捗の達成を示すのみで、直接的に実施能力の変化を示すものとなっていない。したがって成果 1 の再定義と指標の全面的の見直しが必要である。

成果 2: コスタリカにおける参加型生物多様性保全に関する知識 (Knowledge) が、成功事例の体系化を通して、記録される。

計画としてあげられていた作成予定の報告書数の指標については、おおむね達成されている。計画されていた国家保全地域システム庁 (SINAC) の各保全地域における参加型生物多様性保全の経験の報告書、歴史、エコツーリズム、NGO の役割に関する報告書は作成されて見直し中、残り 2 つのテーマの報告書についても作成中である。2016 年までには全報告書が完成予定となっている。ただし、これらの内容は主に経験の情報収集・整理となっており、普及可能な形で体系化した「知識」とするには、SINAC の能力強化の一環として、それらの報告書を横断分析し、知識を集約することが非常に重要である。

成果 3: 参加型生物多様性保全を強化するための政策が提案される。

指標としてあげていた 6 つの政策のうち、4 つ〔法案改訂、参加型政策草案、ゾーニングガイドライン、環境(生態系)サービスに対する支払い(PES)のモニタリングシステムのデザイン〕の草案は提案された。SINAC 組織改編により、2015 年 7 月に「市民参加とガバナンスのマクロプロセス」の新たなユニットが設置され、同ユニットが参加型アプローチの担当となった。本プロジェクトにおける同ユニットの役割を明確化し、成果 3 の活動や指標を再定義する必要がある。

成果 4: 参加型生物多様性保全に関する知識 (Knowledge) が国内外で共有される。

10 回のセミナー開催計画に対し、コスタリカにおいて 6 回のセミナー及びワークショップが開催された。そのうち、地域セミナー 2 回に関してはアンケート回答者のうち、80%以上が内容に満足したと肯定的な評価を得ている。セミナーの内容については、まだ成果 2 の報告書の内容はほとんど反映されていなかったが、2016 年以降は、成果 2 の成果をベースにセミナーが開催される予定となっている。知識の共有については、セミナー、ワークショップのみでなく、ウェブサイトやソーシャルネットワークを通じた複数の共有経路を検討し、実施すべきである。

(2) プロジェクト目標の達成見込み

プロジェクト目標：コスタリカにおける参加型生物多様性保全のための知識 (Knowledge) がコスタリカ国内外に広く共有される。

計画にある達成度の指標を基にプロジェクト目標の達成度を測ることができない状況である。成果3で提案された政策の実施がプロジェクト目標であったが、成果3を見直す必要があるため、プロジェクト目標指標も見直す必要がある。また、もう1つの指標「セミナー、ワークショップの参加者100人による活動計画の作成」についてはプロジェクト終了時までには実現不可能な指標となっている。まずはプロジェクト目標を適切に測る指標設定をすべきである。

(3) 上位目標の達成見込み

上位目標：コスタリカ及び中米各国における参加型生物多様性保全に関する政策とシステムが知識 (Knowledge) の適切な利用により強化される。

計画された指標に関連する実績はない。プロジェクト目標の指標の見直しに合わせ、上位目標の指標も再設定する必要がある。

3-2 評価結果の要約

(1) 妥当性

本プロジェクトは、コスタリカ及び中米における環境政策、戦略、開発計画における妥当性は高い。しかし、プロジェクト・アプローチとデザインについては再考が求められる。プロジェクト・デザイン・マトリックス (PDM) において、本プロジェクトで目指される「知識」「体系化」の定義に関し、関係者間で共通理解を得るように明確化し、プロジェクト活動から成果の整理、指標の見直しをする必要がある。

(2) 有効性

設定されていたプロジェクト目標及び成果の指標が適切でなかったため、プロジェクト目標達成度の判断が困難となっており、PDMを改訂した後に改めて評価すべき状況となっている。現時点の調査範囲の結果では、各保全地域における参加型生物多様性保全の経験の情報整理作業の過程自体がC/Pや住民組織などの関係者の今後の改善点への気づき等能力向上に有効であったといえる。また、参加型環境モニタリングや環境教育についても地元住民の野生生物保護の意識向上にも有効であったことが示唆された。

(3) 効率性

日本側及びコスタリカ側の投入はおおむね計画どおり(一部C/Pの欠員を除く)であり、投入から活動実施までは効率性は中程度といえるが、活動から成果の達成過程については、PDMにおいて活動から成果への論理的なつながりで不明確な点があったことから、効率性が不十分であった。

(4) インパクト

上位目標の達成見込みについては、まず指標の見直しが必要なことから現時点では判断できない。その他のインパクトとして、情報体系化作業を通じた各保護区における各関係者間の連携強化等のインパクト発現は起こりうる。

(5) 持続性

政策・制度面：2015年7月以降のSINACの新政策で「市民参加とガバナンス」が重点施策の1つであり、この分野で制度的・全国的戦略の実施、モニタリング、評価に取り組むことが表明されている。プロジェクト活動の推進力としての政策的支援の持続性は見込まれる。

組織面：「市民参加とガバナンス」の新ユニットは、本プロジェクトが目指す、参加型生物多様性保全のアプローチの知識の集約・共有・普及の役割を担うことが期待される。一方、同ユニットと地域事務所との業務上連携強化の組織制度の構築が重要である。

予算面：現時点までコスタリカ側から活動に必要な予算は手当されていた。今後の政府予算削減の影響はあり得るが、活動に関係する省庁との調整などを通じて本プロジェクトの活動を継続することは可能とみられる。

技術面：REBACOの職員の関係機関間の調整能力や住民の保全活動への動員の方法について蓄積された知識の他の保全地域への普及が期待される。「市民参加とガバナンス」の新ユニットに関しては、プロジェクト後半での主要なC/Pとなるが、ユニットとしての業務経験の蓄積がないところ、今後、能力強化支援が求められている。

3-3 効果発現に係る貢献・阻害要因

(1) 貢献要因

1) 計画内容に関すること

特になし

2) 実施プロセスに関すること

- ・ SINACの過去の経験の情報の体系化において、多くの関係組織を巻き込んで参加型で行ったことで、国内のさまざまな組織の関係者の知見の共有につながっている。

(2) 阻害要因

1) 計画内容に関すること

- ・ 本プロジェクトで目指される「知識」「体系化」の定義が不明確であったことは、プロジェクトを効率的に実施するために重要な活動の絞り込みや明確な指標設定を妨げる一因となった。
- ・ プロジェクト目標と成果の論理的つながりに不明確な点があったこと、また、それぞれの指標が達成度を測る上で適切でなかったことにより、プロジェクト実

施の効率性が阻害された。

2) 実施プロセスに関すること

- ・ 国家行政監査機関の指摘で、内容調整の検討に時間を要したため、ゾーニングガイドライン作成に遅れが生じた。

3-4 結論

これまでの REBACO の活動、各保全地域での参加型の取り組みの情報整理や国際イベントを通じた情報発信などは一定の進捗と成果がみられている。しかし、プロジェクト目標の達成に向け、知識の集約とその共有・普及を進めるには、今後一層の SINAC の能力強化と中米環境開発委員会 (CCAD) などの地域機関とのパートナーシップ構築が必要で、その方向性が明確になるように PDM を修正して立て直すことが不可欠である。「市民参加とガバナンス」の新ユニットが本プロジェクトによって強化されていくことで、プロジェクト目標とする参加型生物多様性保全について体系化された知識の共有・普及が進み、参加型生物多様性保全の活動が SINAC と関係者の間で定着していくことが望まれる。

3-5 提言

(1) PDM 及び活動計画 (PO) の改訂

中間レビューチームがプロジェクト目標と成果の記述の具体化、指標の明確化、プロジェクトの活動の再整理等を行って提案した PDM ver.2.0 への改訂、また、PDM ver.2.0 に沿った PO の作成が必要である。

(2) SINAC の経験からの教訓の分析

将来的な類似タイプの保全地域の適用を視野に、REBACO の参加型管理の経験の 1 つのモデルケースとして分析や各保全地域の参加型の取り組み等についての報告書からの教訓を横断的に詳細分析すべきである。

(3) 知識の普及の戦略：情報発信ツール・方法の改善

より効率的に本プロジェクトによってまとめられた情報や知識を普及するためには、SINAC ウェブサイト、中央火山帯地域開発財団 (FUNDECOR)²が計画している Green Hub のような情報交換のプラットフォーム、ソーシャルネットワーク等の手段を通じ、対象と目的によって戦略的にいくつかのツールを利用して行うべきである。

(4) 中米地域組織、国際条約事務局、その他ドナーとの協力

CCAD、国際条約事務局、類似事業を行っているドイツやメキシコなどの他ドナーと情報共有や国際セミナー開催において協力を強化することが重要である。

² <http://www.fundecor.org/>

(5) プロジェクト実施体制の強化

「市民参加とガバナンス」ユニットの主要 C/P としての位置づけ、欠員が生じている C/P の補充、調査諮問委員会の目的と役割の明確化、プロジェクト連絡員の継続的なプロジェクトの関与により、プロジェクト実施体制を強化すべきである。

Summary of Mid-term Review Results

1. Outline of Project	
Country: Republic of Costa Rica	Project Title: Project for Promoting Participatory Biodiversity
Issue/Sector: Natural Environment Conservation	Type of Assistance: Technical Cooperation Project
Department in charge: Global Environment Dep.	Total Cost (Actual by the time of Mid-term review): 320 million Yen
Cooperation Period: (R/D) April, 2013–March 31, 2018	Partner Country's Implementing Organization: Ministry of Environment and Energy, National System of Conservation Areas
	Related Cooperation: Technical Cooperation Project "Participatory Management Project in National Refugio Barra Del Colorado" (2008.10–2011.10)
<p>1-1 Background of the Project</p> <p>Republic of Costa Rica (hereinafter "Costa Rica") is considered as an important country in terms of biodiversity conservation in Mesoamerican region where is known as "Hot Spot of Biodiversity". Forest coverage ratio, which was 75% of total country in 1940, was decreased to 21% by 1987. Because of this situation, Costa Rica has implemented policies and activities for advanced forest and biodiversity conservation since the latter half of the 1980's. As a result of those efforts, forest area recovered to approximately 52% of total land by 2010.</p> <p>On the other hand, with respect to management system of nature Conservation Areas, a model on the premise of excluding human activities was applied, except for a part of Conservation Areas. Thus, actual management activities focused on controlling illegal activities within and surrounding of Conservation Areas. Due to this, depending on Conservation Area, there was conflict between local residents within and around Conservation Area and governmental agency in charge of administration Conservation Areas. In this situation, based upon the request by the Costa Rican government, Japan International Cooperation Agency (JICA) conducted "Project for Participatory Management of the Barra del Colorado National Wildlife Refuge" for three years from October, 2008. As a result, the project brought outcomes such as establishing basic system of participatory management and project target area of Barra del Colorado National Wildlife Refuge is deemed as a kind of model Conservation Area where participatory management is implemented.</p> <p>Experiences on advanced participatory biodiversity conservation in Costa Rica have been attracting attention internationally; however, those experiences and outcomes are not always organized systematically and examined sufficiently. In the world, especially in order to promote effective biodiversity conservation in Mesoamerican hot spot in central America, it is expected to utilize experiences in Costa Rica effectively as knowledge inside and outside of Costa Rica. In this situation, Ministry of Environment, Energy, and Telecommunication requested this project to the Japanese government based on concept that experiences on biodiversity conservation are to be shared especially in Central America, ultimately leading to international contribution. The project was adopted by the Japanese government in Japanese Fiscal Year 2012.</p> <p>1-2 Project Overview</p> <p>(1) Overall Goal The policy and systems of participatory biodiversity conservation will be strengthened making good use of the knowledge in Costa Rica and Central American countries.</p> <p>(2) Project Purpose The knowledge of participatory biodiversity conservation in Costa Rica will be broadly shared within and outside of the country.</p> <p>(3) Outputs: 1: The participatory management of the biodiversity in Barra del Colorado National Wildlife</p>	

- Refuge will be strengthened and shared with other protected areas.
- 2: Document the knowledge about the participatory biodiversity conservation of Costa Rica, by systematizing the successful experiences.
 - 3: Policies for improving participatory biodiversity conservation will be proposed.
 - 4: Share the knowledge on participatory biodiversity conservation within and out of the country.

(4) Inputs (as of the Mid-term Review)

Japanese side:

- 1) Long-term experts: 3
- 2) Trainees received in Japan: 39
- 3) Equipment: Approx. 15.89million yen
- 4) Local Cost: Approx. 1,263 thousand US dollars

Costa Rican side:

- 1) Assignment of Counterpart: 59
- 2) Project Office: office in National Institute of Biodiversity (INBio) and its facilities
- 3) Local Cost: 99,124.71 US dollars

2. Outline of the Mid-term Review Team

Mid-term Review Team	Job Title	Name	Occupation
	Leader	Ms. Kanako Adachi	Director, Natural Environment Team 2, Forestry and Nature Conservation Group Global Environment Department, JICA
	Biodiversity Conservation	Mr. Motohiro Hasegawa	Senior Advisor, JICA
	Cooperation Planning	Mr. Wataru Honda	Associate Expert Natural Environment Team 2, Forestry and Nature Conservation Group Global Environment Department, JICA
	Evaluation & Analysis	Ms. Mitsue Mishima	Principal Consultant, OPMAC Corporation

Period of Evaluation: 19 October to 4 November, 2015 Type of Evaluation: Mid-term Review

3. Summary of Mid-term Review Results

3-1 Progress of the Project

Inputs from Japanese and Costa Rican sides are implemented generally as planned. Remarkable delay in actual activities in comparison to the plan are observed in drafting zoning guideline and others that is caused mainly by external factors such as unpredicted coordination on the content with Contraloria General de República (General Comptroller of Republic).

(1) Achievement of Outputs

Output 1: The participatory management of the biodiversity in the R.N.V.S.B.C. (Barra del Colorado National Wild Refuge) will be strengthened and shared with other protected areas.

Progress in planned indicators of the Output 1 are evaluated to be positive (support for formulating a model of production activities with environmental considerations by integrated farms, discussions with agriculture cooperatives and enterprises of intensive agricultural production such as rice cultivation to promote production activities with environmental considerations, consulting the issues with land survey and registration, environmental education, participatory monitoring, etc.) However, this output is not well-reflected in relation to Project Purpose and all indicators show progress of activities but do not indicate directly changes in the management capacity. Therefore, it is necessary to redefine the Output 1 and revise indicators entirely.

Output 2: Document the knowledge about the participatory biodiversity conservation of Costa Rica, by systematizing the successful experiences.

The Output 2 is almost achieved in term of indicators on number of planned reports. Reports on Sistema Nacional de Áreas de Conservación (SINAC) experiences of participatory biodiversity conservation in each Conservation Area, SINAC history, eco-tourism, and role of Non-Governmental Organizations (NGOs) are already prepared and reviewed, and remaining two thematic reports are being drafted. All reports are scheduled to be finalized by 2016. Content of those reports are, however, information collection and organization of experiences. In order to make such information to be “knowledge” systematized in a form to be able to disseminate, it is very important that SINAC conducts cross-analysis on those research outputs as part of capacity development process, and then integrates knowledge from the outputs.

Output 3: Policies for improving participatory biodiversity conservation will be proposed.

4 out of 6 planned policies including revision on the law, participatory policy draft, zoning guideline, and Payment for Environmental Services (PES) monitoring system design are already proposed; however, due to SINAC reorganization, “unit” of “Macro Process of Citizen’s Participation and Governance” was established in July 2015 and this “unit” becomes in charge of activities of participatory approach. To clarify the role of the “unit” in the project, the activities and indicators for the Output 3 are necessary to be redefined.

Output 4: Share the knowledge on participatory biodiversity conservation within and out of the country.

While 10 events were planned, the project conducted 6 seminars and workshops in Costa Rica. Among them, regarding two regional seminars, participants evaluated them positively since approximately more than 80% of questionnaire respondents are satisfied with the seminar. The reports of the Output 2 did not yet reflected mostly on the content of the seminars, thus it is planned that seminars will be held based on the reports after 2016. As for means of sharing knowledge, not only seminars or workshops, but also other several channels such as website and social networks should be considered and utilized.

(2) Prospect for achieving Project Purpose

Project Purpose: The knowledge of participatory biodiversity conservation in Costa Rica will be broadly shared within and outside of the country.

Achievement of Project Purpose cannot be measured at the moment based on the planned indicators. It is planned to be evaluated based on implementation of policies proposed under the Output 3 of the project, however, the activities and indicators for the Output 3 are necessary to be revised; therefore, the indicator for Project Purpose should be reconsidered. Other indicator “100 participants of the events create proposals for the action plans” is not a realistic figure which can be achieved by the end of the project. Therefore, first of all, indicators to measure the achievement of Project Purpose should be set appropriately

(3) Prospect for achieving Overall Goal

Project Purpose: The policy and systems of participatory biodiversity conservation will be strengthened making good use of the knowledge in Costa Rica and Central American countries.

There is no actual result in respect to planned indicators. The indicators for overall goal are to be reviewed and revised.

3-2 Summary of Evaluation Results

(1) Relevance

Relevance is high in terms of environment policy, strategy, development Plan in Cost Rica and Central America at the time of mid-term review. However, the project approach and design should be reviewed and revised in due course. It is necessary to clarify the definition of “knowledge” and “systematization” envisaged by the project for common understanding them among stakeholders, to reorganize the project activities to outputs and to revise the indicators.

(2) Effectiveness

The effectiveness of the project cannot be prospected at this timing because indicators for the outputs and project purpose are not adequate to measure achievement. The effectiveness should be monitored and assessed after the revision of the Project Design Matrix (PDM). As a result of survey at this moment, it should be noted that process itself of collecting and organizing the information on experiences of biodiversity conservation was effective for counterparts and stakeholders in organizations of local residents to enhance their capacity in finding the points of improvement in the future. Moreover, participatory environment monitoring and environmental education seems to be also effective to enhance the consciousness of local residents about wild life conservation.

(3) Efficiency

Efficiency of the project is fair in terms of inputs from both Japanese and Costa Rican sides, which are basically provided as planned (except for the absence of Counterparts (C/Ps) in some positions) and led to the project activities. In process of achievement of the outputs from activities, the efficiency was insufficient because there were some uncertain points in logical relationship between activities and outputs in PDM.

(4) Impact

At this moment, it is difficult to foresee future achievement of the overall goal because revision on indicators is necessary at first. As other impacts, some positive impacts may be expected to emerge, such as strengthening interaction among stakeholders of local level in each Conservation Area towards biodiversity conservation through the work systematizing information of their experiences.

(5) Sustainability

Policy and institutional aspects: “Citizen’s participation and government” is one of priorities in SINAC’s new policy after July in 2015, and under this issue, SINAC addressed implementation, monitoring and evaluation of institutional and national strategy. Thus, policy support is expected as a driving force for project activities.

Organizational aspect: It is expected that the “unit” of Citizen’s Participation and Governance is expected to have a role of consolidating, sharing and disseminating knowledge on participatory biodiversity conservation, which the project aims. On the other hand, it is critical to establish the organization system to strengthen the cooperation work of this “unit” and the regional offices.

Financial aspect: Local operation cost has been allocated by the Costa Rican side. There may be some influence on project activities by governmental budgetary cut hereafter; however, it is possible to continue project activities by funding arrangement partly with related government organizations and others.

Technical aspect: It is expected that skills of counterparts in R.N.V.S.B.C. will be sustained and they transfer their skills on inter-agency coordination and the local people’s mobilization to other areas. The “unit” of Citizen’s Participation and Governance, a main counterpart for the latter half of the project period, does not have accumulated work experiences in this field, thus it is required to support this new “unit” with focus on strengthening their capacity.

3-3 Factors that promoted/inhibited realization of effects

(1) Promoting factors

1) Factors concerning Planning

None

2) Factors concerning Implementation Process

- Process of systematizing the information on SINAC’s experiences in the past involved many stakeholders as participatory approach. This leads to information sharing among

stakeholders of various organizations in the country.

(2) Inhibiting factors

1) Factors concerning Planning

- Unclear definition of “knowledge” and “systematization” envisaged by the project impeded selection and concentration of important project activities and establishment of tangible indicators.
- Uncertain points in logical relationship between the Project Purpose and the Outputs and also inappropriate indicators to measure the achievement impeded the efficiency of project implementation.

2) Factors concerning Implementation Process

- As for zoning, it was required to have a time to examine the necessity for coordinating the content under instruction by Contraloría General de República. This caused delay in drafting the zoning guideline.

3-4 Conclusion

Progress and its positive results on the activities are observed such as a series of activities in R.N.V.S.B.C., systemization of the information on the past experiences in each Conservation Area, and information sharing through international events. To achieve the project purpose of “knowledge sharing and dissemination,” it is required further to enhance the capacity of SINAC as well as to establish the partnership with regional initiatives such as Central American Commission for Environment and Development (CCAD). In order to clarify this direction, readjustment and revision on the PDM is indispensable. Through strengthening the new “unit” of Citizen’s Participation and Governance by the project, it is expected to promote sharing and dissemination of systematized knowledge on participatory biodiversity conservation, which is envisaged by the project, and then to sustain activities for participatory biodiversity conservation in a consolidated manner among SINAC and related people and organizations.

3-5 Recommendations

(1) Revision of PDM and Plan of Operations (PO)

It is necessary to revise as PDM ver. 2.0 proposed by the Mid-term review team, with more specific description of the project purpose and the outputs, establishment of clear verifiable indicators, and reorganization of project activities and so on. Then, it is also required to revise the plan of operation in accordance with PDM ver. 2.0.

(2) Analysis on lessons learned from the experiences of SINAC

With a view to applying lessons learned in past experiences to similar type Conservation Areas in the future, it is recommended to analyse participatory management in R.N.V.S.B.C. as one of model cases and also to conduct detailed analysis throughout all lessons learned from the experience described in reports of SINAC experiences on all Conservation Areas and others.

(3) Strategy for knowledge dissemination: Improvement of information dissemination tools and methods

In order to disseminate more efficiently information and knowledge compiled by the project, it is recommended to utilize several tools strategically depending on target persons and purpose, through such means as SINAC website, an information exchange platform like “Green hub” planned by Fundación para el Desarrollo de la Cordillera Volcánica Central (FUNDECOR), and social network and so on.

(4) Cooperation with regional organizations, secretariat of international treaties and other donors

In terms of sharing information and holding international seminars, it is important to strengthen cooperation with CCAD, the secretariat of international treaty, and other donors implementing similar projects such as Germany and Mexico.

(5) Strengthening project implementation structure

It is recommended to strengthen project implementation structure by assigning “unit” of Citizen’s Participation and Governance as main C/Ps, supplementing the vacancy of C/P post, defining clear objective and role of research coordination committee, and involving continuously project liaison officers in Conservation Areas

第1章 調査の概要

1-1 プロジェクト実施の背景

コスタリカ共和国（以下、「コスタリカ」と記す）は、「生物多様性ホットスポット」であるメソアメリカ地域の中でも、生物多様性の保全上、重要な国と位置づけられている。しかし、1940年に国土の75%であった森林被覆率は、1987年には21%まで減少した。そのため、1980年代後半より先駆的な森林保全、生物多様性保全のための政策、活動を実施してきた。その活動の結果、森林面積は2010年には52%程度まで回復するに至っている。

一方、自然保護区の管理体制については、一部の保護区を除くと、人間活動を排除することを前提とした管理モデルが適用されており、実際の管理活動としては、保護区内及び周辺地域における違法活動の取り締まりが中心である。そのため、保護区によっては、保護区内・周辺住民と保護区行政担当機関の間に軋轢が生じている。そこで独立行政法人国際協力機構（Japan International Cooperation Agency：JICA）は、コスタリカ政府の要請に基づき、2008年10月から3年間にわたり、「バラ・デル・コロラド野生生物保護区（Refugio Nacional Vida Silvestre Barra del Colorado：R.N.V.S.B.C.）（以下、スペイン語の略語で記す）住民参加型管理プロジェクトを実施した。その結果、同プロジェクトは保護区における参加型協働管理の基礎的体制を確立するなどの成果を上げ、対象となったR.N.V.S.B.C.は、コスタリカで参加型管理が実践されているモデル的な保護区とみなされるようになっていく。

コスタリカにおける先駆的な参加型生物多様性保全に係る経験は、国際的に注目を集めているが、このコスタリカの経験や実績については、体系的な整理や検証が十分なされていない。世界、とりわけ中米のメソアメリカホットスポットにおいて効果的な生物多様性保全を進める上で、コスタリカの経験を知識（Knowledge）として有効活用することが内外から期待されている。このような中、コスタリカ環境エネルギー通信省は、生物多様性保全に係る経験を特に中米地域に共有し国際貢献につなげたいとの考えに基づき、本案件をわが国に要請し、2012年度に本件が採択された。

なお、生物多様性保全はJICAの自然環境保全協力の中の重点の1つであり、コスタリカを中心とする中米はその重点地域となっており、本プロジェクトは中米における生物多様性保全の中心的案件となっている。

1-2 中間レビューの目的

2015年9月に協力期間の半分が終了したことを踏まえ、コスタリカ側との合同評価調査団により、プロジェクトの中間時点の進捗状況をモニタリングし、今後の実施方針について協議することを目的とする。具体的には、以下を実施することを目的とする。

- (1) これまで実施してきた協力活動全般（プロジェクトの実績、実施プロセス、運営管理状況等）について、計画に即して達成状況や成果、課題を整理・把握する。
- (2) 関係者との意見交換により、後半の協力期間に取り組むべき事項及び今後の方向性（プロジェクト終了後の持続性確保も含む）について明らかにする。
- (3) これらの結果を整理し、合同調整委員会（JCC）において関係者に報告し、合意を得る。

- (4) カウンターパート (C/P) と協議のうえ、必要に応じてプロジェクト・デザイン・マトリックス (PDM)、活動計画 (PO) の変更に合意する。

1-3 調査団構成

調査団の構成は以下のとおりである。

表1 終了時評価調査団の構成

日本側

担当分野	氏名	所属先・職位
総括	足立 佳菜子	JICA 地球環境部 森林・自然環境グループ自然環境第二チーム課長
生物多様性保全	長谷川 基裕	JICA 国際協力専門員
協力計画	本田 渉	JICA 地球環境部 森林・自然環境グループ自然環境第二チーム ジュニア専門員
評価分析	三島 光恵	OPMAC 株式会社 上席コンサルタント

1-4 調査日程

コスタリカにおける中間レビュー調査は2015年10月18日から11月5日の期間で実施された。詳細スケジュールは以下のとおりである。

表2 調査日程・内容

日付		活動内容
10/18	日	三島氏(評価分析コンサルタント)到着
10/19	月	日本人専門家(大澤チーフアドバイザー、菊池専門家、小川専門家)とのミーティング
		JICA コスタリカオフィスでの打合せ
		国家保全地域地域庁(SINAC)への中間レビューブリーフィング Mr. Julio Jurado Fernandez, SINAC 長官/ Mr. Luis Roja, プロジェクトマネージャー/ Ms. Laura Rivera, Field Coordinator, トルトゥゲーロ保全地域(ACTo) ディレクター/ Ms. Lesbia Sevilla, Cooperation and Project Coordinator/ Ms. Magally Castro, Head, 市民参加ガバナンスユニット
		C/P インタビュー (SINAC Mr. Luis Rojas, Ms. Laura Rivera)
10/20	火	調査諮問委員会メンバーインタビュー〔国家森林融資基金(FONAFIFO)〕 Ms. Carmen Roldan)
		C/P インタビュー (SINAC Ms. Gidgett Ramirez, リーガルアドバイザー/ 野生生物保護区委員会)
		C/P インタビュー (SINAC Ms. Lesbia Sevilla, Cooperation and Project Coordinator, Ms.

日付		活動内容
		Cecilia Montero Vargas,市民参加ガバナンスユニット)
		Santa Elena (Monteverde)へ出発、到着
10/21	水	現地調査:C/P 及び関係者インタビュー〔アレナル-テンピスケ保全地域(ACAT) Santa Elena 事務所、ACAT 保全地域事務所 Mr. Alexander Leon Campos ディレクター/Mr. German Aguilar, project liaison officer, Manager of Participation and Governance)
10/22	木	現地調査:C/P 及び関係者インタビュー(アレナル-北ウエタール保全地域(ACAHN)事務所 Mr. Rogelio Jimenez, ディレクター/Ms. Lirae Sanches Chacon, project liaison officer, environment education/Ms. Sandra Días Alvarado, Researcher/Mr. Gerardo Blanco Alvarado, officer, Juan Carlos Blanco National Park)
10/23	金	現地調査:関係者インタビュー: 教員、住民(R.N.V.S.B.C.)、San Jose に向けて移動
10/24	土	サンホセ到着、資料整理、ミニッツ(M/M)案準備
10/25	日	資料整理、M/M 案準備
10/26	月	C/P インタビュー〔SINAC Ms. Yocelyn Rios and Mr. Gustavo Induni 参加型環境モニタリング担当, Ms. Sonia Lobo、生態系サービスへの支払い(PES)モニタリング担当, Mr. Gerardo Altavia, Citizen's Participation and Governance Unit 主催者担当〕
		調査諮問委員会メンバーインタビュー〔中央火山帯地域開発財団(FUNDECOR) Mr.Felipe Carazo, エグゼティブディレクター)
10/27	火	JICA 官団員到着、団内打ち合わせ
		JICA コスタリカ支所 での打合せ (JICA 官団員、日本人専門家、評価分析コンサルタント、JICA コスタリカ支所スタッフ)
10/28	水	諮問委員会メンバーインタビュー(MAG Ms.Rodcio Aguilar, Organic Agriculture Coordinator, Dept. of Conservation Agriculture) (三島のみ)
		表敬訪問〔Ms. Saskia Rodriguez, 国家計画経済政策省(MIDEPLAN)〕
		関係者及び C/P インタビュー〔中央火山帯保全地域(ACCVC)〕, Mr. Rafael Gutierrez, ACCVC ディレクター, 前 SINAC 長官/Ms. Olga Duran, Environment Education Coordinator /Ms. Aimara Espinoza, San José Office Director, 前プロジェクト調査コーディネーター/Mr. Gustavo Jimenez, project liaison officer, 参加型環境モニタリング
		関係者インタビュー〔コスタリカ環境エネルギー省(MINAE) Ms. Patricia Campos, 中米環境開発委員会(CCAD)フォーカルポイント〕
		表敬訪問(環境大臣 Mr. Edgar Gutierrez)
10/29	木	C/P インタビュー(SINAC Ms. Ana Maria Monge Ortiz, 前 R.N.V.S.B.C.環境教育及び参加型環境モニタリング担当)
		現地調査: R.N.V.S.B.C.

日付		活動内容
10/30	金	現地調査: R.N.V.S.B.C.
10/31	土	M/M 準備
11/1	日	M/M 準備
11/2	月	M/M 準備
		M/M 会合
11/3	火	M/M 会合
11/4	水	JCC: M/M の署名・捺印
		在コスタリカ日本国大使館報告、JICA コスタリカ支所報告
11/5	水	サンホセ発(三島のみ、官団員は 11 月 7 日まで別件調査継続)
11/6	木	本邦着(三島)
11/9	土	サンホセ発(官団員)
11/10	日	本邦着(官団員)

1-5 プロジェクトの概要

プロジェクトの概要は以下に示す通りである。本プロジェクトのプロジェクト・デザイン・マトリックス (Project Design Matrix : PDM) は詳細計画時に作成し、討議議事録 (Record of Discussion : R/D) で合意された PDM Ver.1.0 (2013 年 1 月作成) から、2013 年 12 月の JCC で合意された PDM Ver.1.1 へと修正された。中間レビュー時点では、PDM Ver. 1.1 に沿ってプロジェクトが実施されていた。PDM Ver. 1.1 は付属資料 1 の M/M Annex 2 の通りである。

上位目標

コスタリカ及び中米各国における参加型生物多様性保全に関する政策とシステム³が、知識 (Knowledge) の適切な利用により強化される。

プロジェクト目標

コスタリカにおける参加型生物多様性保全のための知識 (Knowledge) ³が、コスタリカ国内外に広く共有される。

成果

1. REBACO⁴における参加型生物多様性保全が強化され、他の保護区と共有される。
2. コスタリカにおける参加型生物多様性保全に関する知識 (Knowledge) が、成功事例の体系化を通して、記録される。
3. 参加型生物多様性保全を強化するための政策が提案される。

³ 詳細計画策定時、本プロジェクトの「知識 (Knowledge)」とは、「生物多様性保全にかかる政策や取り組みが実施されるに至った背景、その後の実施プロセス、実施とその結果、生物・社会・経済的効果・影響、課題、教訓、今後の改善の方向性などを体系的に整理したもの」と定義されていた。

⁴ REBACO＝バラ・デル・コロラド野生生物保護区。今回の中間レビューで、SINAC 側から、同保護区の略称は R.N.V.S.B.C. が公式なものとして指摘されたため、中間レビュー報告書においては R.N.V.S.B.C. の略称でなるべく統一した。

4. 参加型生物多様性保全に関する知識 (Knowledge) が国内外で共有される。

活動

- 1-1 統合農家の活動を強化する。
- 1-2 バラ・デル・コロラド野生生物保護区内の集約型農牧業（中・大規模農家）に対する持続的生産システムを促進する。
- 1-3 バラ・デル・コロラド野生生物保護区内の土地所有制度とその利用について改善する。
- 1-4 参加型環境モニタリングを改善する。
- 1-5 環境教育活動を改善する。
- 1-6 地方評議会の活動を改善する。
- 1-7 管理計画を見直し改善する。
- 1-8 バラ・デル・コロラド野生生物保護区の経験を他の野生生物保護区と情報交換をするためのワークショップを行う。
- 2-1 調査諮問委員会を設立する。
- 2-2 コスタリカの経験を体系化するためのテーマを調査諮問委員会のアドバイスの下、確定する。
- 2-3 体系化を行うためのコンサルタントを契約する。
- 2-4 コンサルタントの監督を行う。
- 2-5 調査報告書を作成する。
- 3-1 参加型を焦点にした「環境サービスへの支払い」制度の生物的、社会経済的インパクトモニタリング方法を作成する。
- 3-2 自然保護区内にある国家自然財産における他の利用許可に関する提言を作成する。
- 3-3 SINAC の中に地域活動プログラムを設立する。
- 3-4 全国レベルで参加型環境モニタリングを実施する。
- 3-5 「自然保護区管理計画作成ガイドライン」に沿った各ゾーンの利用に関する規則が作成される。
- 4-1 セミナー、ワークショップのテーマを決める。
- 4-2 セミナー、ワークショップのプログラムを確定する。
- 4-3 セミナー、ワークショップのためのマテリアルを作成する。
- 4-4 セミナー、ワークショップを実施する。

1-6 中間レビューの方法

本調査は、『JICA 事業評価ガイドライン』に基づいて、以下の手順によって実施された。

- (1) 最新の PDM Ver. 1.1 と PO その他関連書類に示されるプロジェクトの計画の進捗と達成状況の検証
- (2) プロジェクト実施プロセスを検証し、進捗を阻害あるいは貢献した要因の特定
- (3) 評価 5 項目によるプロジェクトの分析
- (4) プロジェクトの残りの期間におけるプロジェクトの改善事項にかかる提言の作成

本調査においては、下記の手法により定量的及び定性的なデータ・情報の収集を行った。

- プロジェクトで作成された報告書及び関連文書のレビュー
- 日本人専門家、SINAC の各担当分野の主要 C/P 及び関係者への質問票調査及びインタビュー

プロジェクトの分析に用いた評価 5 項目とその視点は以下の通りである。

(1) 妥当性

プロジェクト目標及び上位目標は、コスタリカの開発政策及び開発ニーズ、中米地域政策、日本の対コスタリカ援助政策に合致するものであったか。

(2) 有効性

中間レビュー調査時点における成果の達成状況から見て、プロジェクト目標はプロジェクト終了時点までに達成見込みはあるか。

(3) 効率性

計画された成果の達成状況と日本側及びコスタリカ側の投入の量、質、タイミングにかんがみて、投入は成果に効率的に転換されているか。

(4) インパクト

プロジェクトの成果として、プロジェクトの意図する正のインパクトである上位目標の達成見込みはあるか。また、それ以外に、プロジェクトによる直接的・間接的な正負のインパクトはあるか。

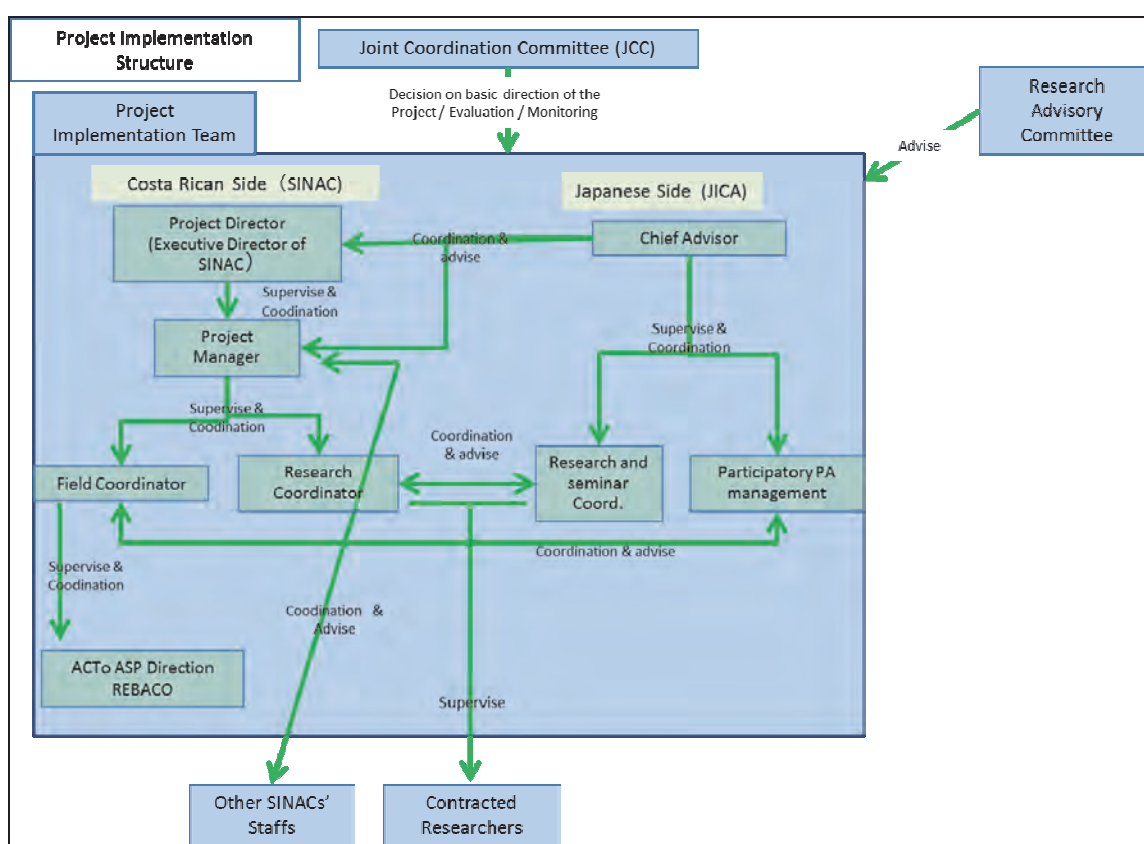
(5) 持続性

制度、組織、財務、及び技術的観点から、プロジェクト終了後にプロジェクトの正の効果及び便益は持続するか。

第2章 プロジェクトの実績と現状

2-1 プロジェクトの実施体制

本プロジェクトは、R/D で合意されたとおり、図1に示すと通りの体制で実施された。コスタリカ側は、SINACを主要C/P機関として、日本側は長期専門家がプロジェクト実施を支援、調査や研修についてはローカルコンサルタントを雇用して実施し、調査テーマの検討や調査内容の精査は調査諮問委員会（Research Advisory Committee）が行う体制で実施されてきた。全体のプロジェクト活動の方針の決定とモニタリング評価は、コスタリカ側と日本側の代表からなるJCCが行っていた。



出所：Annex 3、Record of Discussions on “Project for Promoting Participatory Biodiversity Conservation” in Republic of Costa Rica（2013年2月4日）

図1 プロジェクトの実施体制

2-2 投入

本プロジェクトの中間レビュー時点までの投入実績は、表3の通りである。

表3 本プロジェクトの投入（2015年9月時点）

日本側	コスタリカ側
<ul style="list-style-type: none"> ● 専門家派遣:長期専門家 3名(チーフアドバイザー、業務調整/参加型保護区管理、業務調整/リサーチ・セミナー調整) ● 本邦研修:39名(2013年度3名、2014年度17名、2015年度19名) ● 機材供与:約 1,589万円(車両、トラップカメラ、双眼鏡、コンピューター、プロジェクター等) ● 活動費用(在外事業強化費):約 126.3万USドル 	<ul style="list-style-type: none"> ● C/P配置:59名(交代した職員も含む、主にSINAC職員) ● コスタリカ生物多様性研究所(INBio)にプロジェクト・オフィスと設備の提供 ● ローカルコスト:9万9,124.71USドル

(1) 日本側

日本側の投入はおおむね計画通りに行われた。日本人専門家の長期専門家3名、分野はチーフアドバイザー、リサーチ・セミナー調整、参加型保護区管理の担当が配置された。チーフアドバイザー及び成果2~4の活動を担当するリサーチ・セミナー調整担当は、INBioのオフィスに、参加型保護区管理の担当は、主に成果1の活動を担当し、R.N.V.S.B.C.の活動を担当するACTo事務所配置されている。

なお、詳細計画策定時においては、必要に応じ、参加型環境モニタリング、湿地の賢明な利用、保護区管理とゾーニング、地理情報システム(Geographic Information System:GIS)等の分野に短期専門家が派遣する記述があったが、中間レビュー段階において実績としては派遣されていない。

本邦研修については、「湿地帯生態系の生物多様性のコミュニティベースの持続的利用と保全」「日本の保護地域システムとゾーニング」「生物多様性情報システムに利用されるGISとリモートセンシングと生物多様性保全行動に向けての参加型アプローチ」「参加型環境モニタリング」「生物多様性保全の環境教育技術の向上」などのテーマの研修へSINACのC/P及び関係機関の職員39名が参加した。

機材については、プロジェクト活動に必要な車両、コンピューター、プロジェクター、コピー機、トラップカメラ、双眼鏡などが投入された。

プロジェクトの活動費用として、ワークショップ実施支援や調査研修を委託するローカルコンサルタント雇用、セミナー・ワークショップ実施費用、旅費、広報費用などに約126万USドルの費用が投入された。

(2) コスタリカ側

コスタリカ側の投入は、当初計画通りに配置されたが、中間レビュー時点で職員が異動し、後任不在のポスト(リサーチ・コーディネーター及びR.N.V.S.B.C.の環境教育・参加型環境モニタリング担当)以外については、おおむね計画どおりであった。

コスタリカ側のC/Pは交代した要員も含め、中間レビュー時点で主にSINAC職員からなる全59名となっていた。分野別に以下の人員とともに活動を行ってきた(担当業務を兼務している2名がいるため、以下の人数の合計は延べ61名)。

- プロジェクト・マネジメントチーム4名：プロジェクト・ディレクター、プロジェクト・マネージャー、リサーチ・コーディネーター、参加型管理コーディネーター
- R.N.V.S.B.C.担当の8名
- 各保全地域における活動の中心職員となっているプロジェクト連絡員12名
- 各保全地域における参加型環境モニタリングコーディネーター16名
- ズーニングガイドライン開発のコーディネーター2名
- 環境サービス（生態系）に対する支払い（PES）4名、うち2名はFONAFIFOの職員。
- 国家野生生物保護区委員会9名
- 市民参加ガバナンスユニット6名（中間レビュー時点で追加）

プロジェクト活動に必要なプロジェクト・オフィス及び設備はINBioの中に提供された。また、車両維持費、プロジェクト・オフィス維持費、旅費などプロジェクトに必要な活動費約9.9万USDが投入された。

2-3 プロジェクト活動の担当及び関係機関

プロジェクト活動の実施においては SINAC の担当を中心に各関係機関やプロジェクト内外の委員会にも働きかけて実施されてきた。各成果に関する活動について SINAC 内の担当、関係機関を整理すると下表のとおりである。

表4 SINACの担当、関係機関

プロジェクトの成果	SINACの担当	委員会/関係機関
1. REBACO における参加型生物多様性保全が強化され、他の保護区と共有される。	参加型管理コーディネーター（= ACTo 事務所所長）、R.N.V.S.B.C.担当のC/P	調査諮問委員会、地方委員会
2. コスタリカにおける参加型生物多様性保全に関する知識（Knowledge）が、成功事例の体系化を通して、記録される。	プロジェクト・マネージャー、リサーチ・コーディネーター、各保全地域のプロジェクト連絡員	調査諮問委員会、地域審議会、地方委員会など
3. 参加型生物多様性保全を強化するための政策が提案される。	プロジェクト・ダイレクター、プロジェクト・マネージャー、リサーチ・コーディネーター、本部事務局PES担当C/P、ズーニング担当C/P、野生生物保護区委員会C/P	調査諮問委員会、国家保全地域委員会、FONAFIFO、国家法務局（PGR）、国家行政監査機関（CGR）
4. 参加型生物多様性保全に関する知識（Knowledge）が国内外で共有される。	プロジェクト・マネージャー、リサーチ・コーディネーター等	調査諮問委員会

プロジェクト活動実施に関与している全関係者について、コスタリカ国内の中央、地方、村落・住民組織レベルで整理し、また、国外への知識の普及の対象となる中米各国と中米地域機関との関係は図2に示すとおりである。

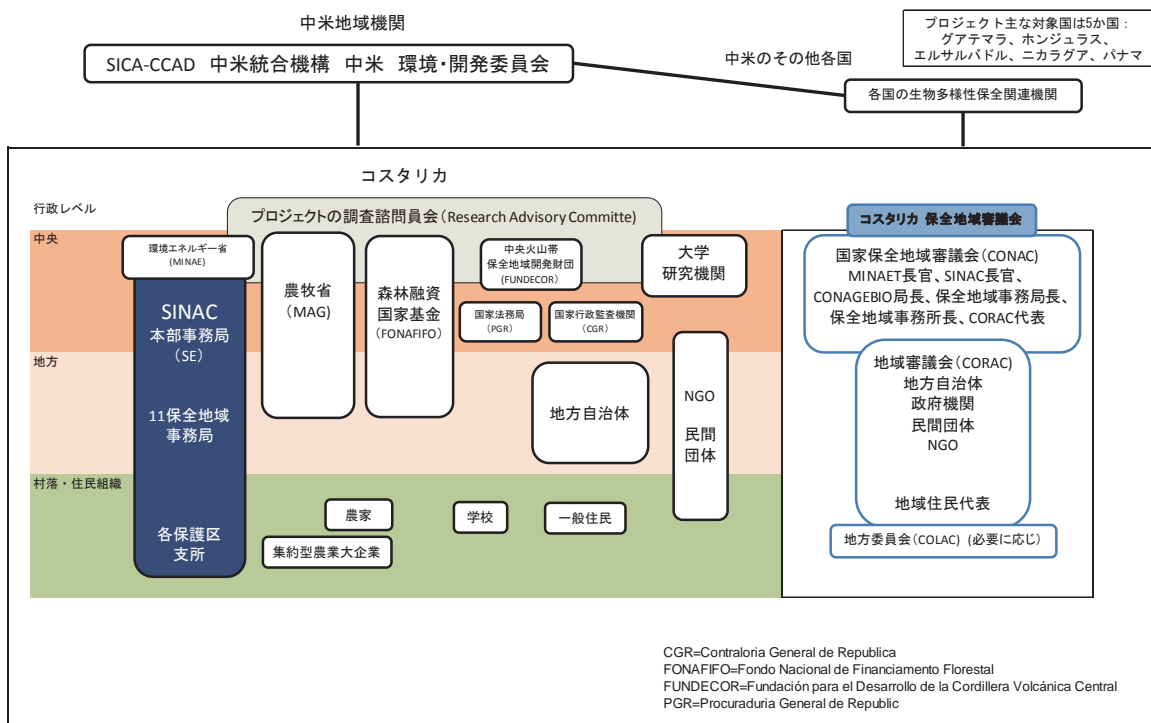


図2 プロジェクト活動実施上の関係者・関係機関

2-4 成果の達成状況

2015年10月時点の本プロジェクトの成果1~4の達成状況は以下のとおりである。

(1)成果1

成果1の当初の計画指標（バイオジェネレーター、有機肥料、胡椒栽培、エコツーリズムの取り組み等、統合農家⁵の環境に配慮した生産活動のモデル化支援、集約的生産農業（稲作等）を行っている農家団体や企業との環境に配慮した生産活動の協議、土地調査と登録の相談、環境教育、参加型環境モニタリング等）に対する進捗状況は良いと評価される。

しかし、この成果は、プロジェクト目標との関係で明確に定義されておらず、設定された指標もプロジェクト目標達成との関連で因果関係が遠く、主に活動の進捗の達成を示すのみで、直接的に実施能力の変化を示すものとなっていない。中には農家収入の向上の目標のように本プロジェクトの投入のみで達成困難とみられる指標や土地所有に関する相談者人数など実績値の収集が面倒な指標も含まれている。プロジェクト目標との関連での成果の再定義と指標の全面的見直しが必要である。

⁵ 一軒の農家の中で、家畜や農作物を多様化することによって、農家内の物質エネルギーの流れを循環型にし、化学肥料や農薬等の外部からのインプットを最小限に抑え、環境への負のインパクトを減らすことを目指す農業経営手法。

表5 成果1の達成状況

成果1：REBACOにおける参加型生物多様性保全が強化され、他の保護区と共有される。	
<p>指標 1-1： 統合農家システムを採用している組織に属している 33 農家の収入が少なくとも 20% 向上する。</p>	<p>状況：現時点で 33 農家が本プロジェクトに先だって実施された関連プロジェクト（「バラ・デル・コロラド生物保護区における住民参加型管理プロジェクト」）でトレーニングを受け、統合農家システムの研修で習得した方法を 1 以上実施している。それらの農家のうち、15 農家については、それぞれ異なった特徴を持ち、統合農家の方法を教えられるキャパシティがある。15 農家のうち、7 農家については統合農家の手法に積極的に取り入れており、モデル農家として位置づけられている。</p> <p>統合農家として登録された 33 農家は、資金力が異なるため、全農家が同じレベルで活動を実施するのは困難である。また、収入増には、国内の経済状況等のコントロールできない外部要因があるため、この指標は見直すべきである。</p>
<p>指標 1-2： 少なくとも 5 つの集約的農家（大規模農家）がプロジェクト終了時まで最低 1 つの持続可能な生産技術を取り入れている。</p>	<p>状況：集約的農業経営を行っている大規模農家の協会である農牧協会（CORFOGA）、全国稲作協会（CONARROZ）、アブラヤシ栽培の大規模企業 Palma Tica とコンタクトし、持続可能な生産技術を促進することに関して合意を得た段階である。</p>
<p>指標 1-3： 2016 年以後、毎年 150 人の住民が土地の利用と所有に関する手続きの対応を受けている。</p>	<p>状況：この指標の実績データは統計をとっておらず、入手できなかった。本指標に関しては、土地調査の結果で地域住民が R.N.V.S.B.C.における土地権利と利用に関し、所有範囲の境界線等の正確な情報を得ることで、SINAC が地域住民とのコミュニケーションがよくなり、保護区管理を行いやすくなるねらいがあった。本プロジェクトで取り組んでいる統合農家の活動のパイロット地域の 1 つである Llanura del Gaspar の一部で土地調査を行った。土地調査は終了しており、結果は地域住民に共有された。担当する C/P へのインタビューでは、この土地調査の活動を通じて ACTo の職員と地域住民は土地の境界線の管理の仕方についてよりよい知識を得ることができ、C/P は他の土地の土地調査においてもこの活動で学んだことが応用できたと述べていた。この土地調査結果が地域住民と共有された結果、SINAC に土地利用と所有に関して相談する住民の数が増加したと報告されている。</p>
<p>指標 1-4： 環境教育の研修を受けた保護区内とその周辺地区の教育施設の教員が、2015 年以後、少なくとも毎年 4 つの環境教育の授業を行っている。</p>	<p>状況：この指標に対する正確な実績値は確認できないが、プロジェクト事務所の記録によると、本プロジェクトによる研修を受けた教員のうち、7 学校の教員は 2015 年 8 月までに 14 回環境教育の授業を行ったことが報告されている。環境教育の研修コースは小学校及び中学校（スペイン語の Colegio）教員に対して実施され、2014 年に 3 回、2015 年 8 月までに 2 回実施された。R.N.V.S.B.C.にある 16 の学校のうち、11 学校の先生が研修を受講している。</p>
<p>指標 1-5： 2015 年以後、毎年少なくとも 1 回、参加型環境モニタリングの報告書が発行されている。</p>	<p>状況：参加型環境モニタリングの活動は既に開始されており、2015 年以降に報告書をまとめることができる状況である。2013 年度及び 2014 年度において鳥類観察のイベントが国内 NGO の協力で開催された。2014 年度は、地域住民ボランティアの参加により、鳥類識別の調査研修が 11 回実施されて、全部で述べ 107 名が参加した。2015 年からはトラップカメラを使って、鳥類、哺乳類、その他の動物のモニタリングが開始されている。</p>
<p>指標 1-6： 2014 年以後、地方委員会が毎年少なくとも 2 つのプロポーザルを作成もしくはイベントを開催している。</p>	<p>状況：現時点で、R.N.V.S.B.C.には 2 つの地方委員会が形成されている。2014 年 11 月に Llanura del Gaspar の地方委員会が、統合農家活動も含めた活動計画を策定した。もう 1 か所の地方委員会である Marino Costero は 2015 年 8 月に設立されたばかりであり、今後活動計画の策定に着手する予定である。</p>
<p>指標 1-7： 2015 年に管理計画が承認、実施に移されている。</p>	<p>状況：R.N.V.S.B.C.の 5 年管理計画の更新作業が行われおり、2016 年までには終了する予定である。当初の計画から遅れたのは、国家行政監査機関（CGR）の要求に応じ、環境指標について管理計画に含めるか否かの決定を待っている。</p>

成果1：REBACOにおける参加型生物多様性保全が強化され、他の保護区と共有される。	
	ためである。管理計画の更新においては、本プロジェクトで推進されている参加型生物多様性活動も含まれている。
指標 1-8： 2017年9月にバラ・デル・コロラド野生生物保護区の経験を反映した「野生生物保護区参加型管理マニュアル」が存在している。	状況：この活動に関連する指標が現時点の活動計画にない。これまでの参加型生物多様性保全活動の経験をとりまとめられた報告書は成果2にてとりまとめられている。

(2)成果2

計画としてあげられていた作成予定の報告書数の指標については、おおむね達成されている。計画されていた SINAC の各保全地域における参加型生物多様性保全の経験の報告書、歴史、エコツーリズム、NGO の役割に関する報告書は作成されており、見直し中である。残り2つのテーマ、環境意識の向上過程の体系化に関する事例整理、持続可能な生産活動に関する事例整理に関する報告書についても作成中であり、2016年までには完成予定となっている。これらの内容は主に経験の情報収集・整理となっており、普及可能な形で体系化した「知識」とするには、SINAC の能力強化の一環として、それらの経験に関する報告書を横断分析し、知識を集約することが重要となる。成果2には、そのための活動と成果を追加すべきである。

表6 成果2の達成状況

成果2：コスタリカにおける参加型生物多様性保全に関する知識（Knowledge）が、成功事例の体系化を通して、記録される。	
2015年の終わりまでに少なくとも以下の17の報告書が存在している。 ● SINACの経験をまとめた12の報告書。 ● 生物多様性法の成立に関する報告書。 ● 4つのテーマ別報告書。	状況：以下の調査報告書が作成された。 ● SINACの経験をまとめた20の報告書（11の保全地域と本部事務局の経験） ● 生物多様性法策定も含む、SINACの創設と発展過程についての1報告書 ● 2015年に2つのテーマ、NGO、エコツーリズムに関する報告書

(3) 成果3

指標としてあげていた6つの政策のうち、法案改訂、参加型政策草案、ゾーニングガイドライン、PES のモニタリングシステムのデザインの4つについては、草案が提示された。その後、草案提示後に SINAC 組織改編により、2015年7月に「市民参加とガバナンスのマクロプロセス」の新たなユニットが設置され、同ユニットが参加型アプローチの担当になるという大幅な体制の変更があった。したがって、この新体制の下、本プロジェクトにおける同ユニットの役割を明確化し、成果3の活動や指標を再定義する必要がある。

表7 成果3の達成状況

成果3：参加型生物多様性保全を強化するための政策が提案される。	
プロジェクト終了時までには少なくとも6つの政策が保全地域国家評議会によって承認されている。	<p>状況：政策、法令改訂、モニタリングシステム等、以下の5項目に関してプロジェクトとして取り組まれた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「野生生物保護法」第82条改定案は既に作成されているが、森林法などの一連の関連法案の改正の方が優先されて作業が行われることとなり、この改訂案の承認に向けての作業は止まっている。 ● SINAC 参加型生物多様性推進の政策と組織戦略案は既に作成され、2015年3月にSINACの上層部に提出されている。 ● 保護区におけるゾーニングガイドライン案の策定は、CGRの求めに応じ、同案に環境指標を入れるか否かの判断を待っていたため、作業が遅れている。 ● コスタリカにおけるトラップカメラを利用した基本データ収集についての報告書は、コンサルタントによってまとめられている。参加型モニタリングの研修については、実施中である。 ● PESのインパクトモニタリングシステム：2015年10月にシステムデザインのプロポーザルまではまとめられている。この提案に基づいて今後システムが構築される予定である。

(4)成果4

10回のセミナー開催計画に対し、コスタリカにおいて6回のセミナー及びワークショップが開催された。そのうち、2回の地域セミナーに関してはアンケート回答者のうち80%以上が内容に満足したと肯定的な評価が得られている。これまでのセミナー、ワークショップの内容については、まだ成果2の知識の体系化の作業中であったため、ほとんど反映されておらず、2016年以降は、成果2でまとめた内容をベースにセミナーが開催される予定となっている。知識の共有については、セミナー、ワークショップのみでなく、ウェブサイトやソーシャルネットワークを通じた複数の経路もあるため、他の共有方法も検討し、効果的に実施すべきである。

表8 成果4の達成状況

成果4：参加型生物多様性保全に関する知識（Knowledge）が国内外で共有される。	
指標4-1：プロジェクト実施中に知見を共有するイベントが少なくとも10実施されている。	<p>状況：プロジェクトは6つのイベントを開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 3 全国フォーラム (national forums) - 2 地域セミナー (regional seminars) - 1 国際セミナー (international seminar) <p>また、プロジェクトは他機関が開催した地域あるいは国際セミナーに5回参加し、コスタリカの経験が参加者に共有された。</p>
指標4-2：イベントの参加者の評価がポジティブである。	<p>状況：2回の地域セミナーで実施したアンケートの結果から、約80%～90%の回答者はセミナーの内容に満足している。したがって、これら2回のセミナーについては、参加者の評価がポジティブであると判断される。</p>
指標4-3：実施した少なくとも10のイベントについての報告書ができています。	<p>状況：2回の地域セミナーの報告書ができています。しかし、この指標は、知識共有の直接的な根拠とはなっていない。</p>

2-5 プロジェクト目標の達成見込み

プロジェクト目標の記述は、「成果4：参加型生物多様性保全に関する知識（Knowledge）が国

内外で共有される。」との違いが明確でない。

また、計画にある達成度の指標を基にプロジェクト目標の達成度を測ることができない状況である。プロジェクト目標達成は、成果3で提案された政策の実施となっていたが、成果3の指標は前述のとおり、見直す必要があり、その内容に従ってプロジェクト目標指標も見直す必要がある。また、もう1つの指標「セミナー、ワークショップの参加者100人によるアクションプランの作成」については、現在のプロジェクトの投入と活動の可能な範囲をかんがみると、プロジェクト終了時までには実現不可能な指標となっている。まずはプロジェクト目標を適切に測る指標設定をすべきである。

表9 プロジェクト目標の達成状況

プロジェクト目標: コスタリカにおける参加型生物多様性保全のための知識(Knowledge)がコスタリカ国内外に広く共有される。	
指標 1: 保全地域国家評議会によって承認された政策のうち少なくとも3つが実施されている。	状況: 成果3の政策や法改定案などのどれもが最終化され、承認の段階までいたっていない。また、この指標は、プロジェクト目標達成の直接的根拠となっておらず、再考すべきである。
指標 2: 少なくとも100名のプロジェクトで実施したセミナー等の参加者が、セミナーで共有した知識を活用したアクションプランを作っている。	状況: イベントの参加者はセミナーで発表された知識を共有したとはいえ、これまでのセミナー内容ではアクションプラン案作成は含まれておらず、参加者がセミナーで得た知識をアクションプランに活用するとは限らない。コスタリカ内外の100名以上がアクションプランを作成するという計画も根拠がないため、この指標についても再検討することが必要である。

2-6 上位目標の達成見込み

計画された指標に関連する実績はない。プロジェクト目標の指標の見直しに合わせ、上位目標の指標も再設定する必要がある。

表10 上位目標の達成状況

上位目標: コスタリカ及び中米各国における参加型生物多様性保全に関する政策とシステムが知識(Knowledge)の適切な利用により強化される。	
指標 1: プロジェクトによって提案された全ての政策が実施に移されている。	状況: この上位目標の指標の達成に向けた活動はなく、上位目標につながるアウトカムの発現もみえない。プロジェクト目標の指標の見直しに伴い、上位目標指標も見直す必要がある。
指標 2: プロジェクトで実施したセミナーの参加者が作ったアクションプランが少なくとも、5つ実施されている。	状況: 同上

2-7 実施プロセス

(1) 実施体制

中間レビュー時点で以下の点について、課題がみられた。

1) C/Pの欠員

2015年2月以降、リサーチ・コーディネーターの担当が別部署に移動し、後任が配置されておらず、欠員が生じたままである。また、中間レビュー時の2015年10月にR.N.V.S.B.C.の環境教育・参加型環境モニタリング担当1名が部署を移動し、欠員が生じたが後任の配置はなかった。これらに対する人員の補充が必要である。

2) 調査諮問委員会の機能

調査諮問委員会の目的・機能をより明確化する必要性について、プロジェクト関係者や調査諮問委員会のメンバーから指摘があった。調査諮問委員会は、環境副大臣が委員長、SINAC 長官といった政府機関の上層部と各大学や研究機関の研究者が委員となっており、委員会の討議目的によって召集の委員を検討すること等の提案があった。例えば、これまでの活動の中で詳細計画時に調査諮問委員会の役割として期待されていた「調査方法や調査結果に対するアドバイス」については、委員会活動としてのアドバイスは限定的で、実際には個別の委員への相談によりアドバイスが行われていた。その背景としては、調査諮問委員会メンバーに調査を委託するコンサルタントが入っていたことがあげられる。

3) SINAC の政策・組織改編

SINAC 本部事務局 (Secretaría Ejecutiva : SE) 全体の組織改編があり、2015 年 7 月に「市民参加とガバナンスのマクロプロセス」担当の新ユニットが設置された。参加型の生物多様性保全の取り組みにおいて、プロジェクト期間後半業務において主要な C/P としての位置づけとなる。同部署の C/P を加えた今後の実施体制の見直しが必要となる。

また、2015 年 9 月、環境大臣から国家保全地域審議会へ今までの SINAC 保全地域 11 カ所の区分けから、MIDEPLAN の 6 地域区分に合わせて統合する方針が公式文書で示された。もし、今後、この保全地域区分の変更に伴う職員の異動により、プロジェクトの C/P 人員配置への影響を受けるような場合は、対応策が必要となる。

(2) 実施方法

本プロジェクトでは、研修や調査業務にさまざまなローカルコンサルタントを雇用して実施したことが実施の効率性につながっている一方、そのサービスや成果物の質の管理については常に課題である。ローカルコンサルタントが実施した業務の一部についてはプロジェクト関係者から改善余地があるとの指摘があり、今後、サービスと成果物の質の管理については特に重視して行う必要がある。

R.N.V.S.B.C.における、農牧省、教育省、その他の関係組織との連携のあり方は、共有されるべき経験に基づく知識の 1 つとなっている。また、統合農家のモデル化を進め、それらのモデル農家を通じて他の農家への技術の普及を目指す取り組みは、知識の普及のアプローチの一例として期待される。

第3章 評価5項目による評価

3-1 妥当性

本プロジェクトは、中間レビュー時点のコスタリカ及び中米における環境政策、戦略、開発計画における妥当性は高い。しかし、プロジェクト・アプローチとデザインについては再考が求められる。PDMにおいて、関係者間での本プロジェクトで目指される「知識」「体系化」の定義に関し、関係者間で共通理解を得るように明確化し、プロジェクト活動から成果の整理、指標の見直しをする必要がある。

(1) コスタリカの開発政策・計画との整合性

本プロジェクトは、コスタリカの国家開発計画（2015-2018）と国家生物多様性保全戦略（2015-2030）と合致している。国家開発計画（2015-2018）の環境分野関連の章では、環境保全活動において公式な市民社会の参加の必要性が述べられ、参加型ガバナンスに焦点があてられている。国家生物多様性保全戦略（2015-2030）の4つの政策軸のうち、3つ政策軸には市民社会の参加の視点が含まれている。

(2) 中米地域政策との整合性

本プロジェクトは、中米統合機構（Sistema de la Integración Centroamericana : SICA）の中米環境開発委員会の「2015-2020 地域環境戦略の枠組み」と合致している。同戦略で目指されている5つの成果のうちの1つは「生物多様性保全が参加型の方法で推進される」こととなっている。

(3) 日本の対コスタリカ援助政策との整合性

本プロジェクトは、外務省の「対コスタリカ共和国 国別援助方針」（2012年4月）及び「対コスタリカ共和国 事業展開計画」（2014年5月）との整合性がある。対コスタリカの援助政策の重点分野の1つは環境問題であり「環境分野を中核とした持続的発展への支援」となっている。また、援助方針では、コスタリカへの二国間援助を通じ、中米地域への支援を推進することも言及されており、その方向性にも合致している。

(4) プロジェクト・アプローチとデザインの適切性

プロジェクト・アプローチにおいて、SINAC及び他の関係機関にとってこれまでの参加型生物多様性保全の取り組みの経験を文書化することは重要なプロセスであった一方で、その作業で抽出される「ナレッジ (knowledge)」とナレッジの「体系化 (systematization)」の定義やプロジェクト目標・上位目標があいまいになっており、より一層明確にすることが求められる。また、本プロジェクトで体系化された知識の普及に向けての活動強化が必要である。さらに、現行のPDMにあげられているいくつかの活動については非常に詳細な記述となっており、活動計画の方に移すこと、成果指標のいくつかは活動レベルの指標があり、指標も再整理し、修正すべきである。以上、PDMは全体的に見直す必要がある。

3-2 有効性

設定されていたプロジェクト目標及び成果指標が適切でなかったため、それぞれの達成度の判断が困難で、中間レビュー時点で有効性の見込みの判断ができなかった。PDM を改訂した後に改めてモニタリングし、評価すべきである。

現時点では、C/P や R.N.V.S.B.C. の地域住民などへのインタビューを通じて判明したことは、各保全地域における参加型生物多様性保全の経験の情報整理作業の過程自体がプロジェクト連絡員等の C/P の文書作成及び将来的な活動計画の改善の能力向上に有効であったことである。この作業は、地域住民組織などの各保全地域の関係者も参加して実施するプロセスがとられており、知識の普及というプロジェクト目標の達成には、まずはこのように、個別の経験について各関係者も巻き込んで包括的な分析を行ったことはさまざまな組織の関係者間の知見の共有という点においても意義がある。また、今次インタビューで意見徴収して確認した範囲では、参加型環境モニタリングや環境教育についても地元住民の野生生物保護の意識の向上に有効であったことが示唆された。

3-3 効率性

プロジェクト活動実施に向けての日本側及びコスタリカ側の投入についての効率性は中程度といえる。しかし、活動から成果の達成過程については、PDM において活動から成果への論理的なつながりで不明確な点があったことから、効率性が不十分であった。

日本側及びコスタリカ側双方の投入については、現時点での C/P の配置の欠員をのぞく、量・質の点において、基本的に計画どおりであった。概して、投入は活動に結びついている。しかしながら、活動の成果への貢献については、例えば成果 1 の内容がプロジェクト目標の関連性での位置づけが不明確であったことは、成果達成に向けた活動の効率的な実施の妨げとなったといえる。また今後に関しては、「2-7 実施プロセス (1) 実施体制」で述べたように保全地域区分は変更になり、プロジェクト連絡員の配置に影響がある場合、プロジェクト実施上のコミュニケーションに影響するとプロジェクト活動の効率性が阻害され得る。

3-4 インパクト

(1) 上位目標の達成状況

現時点では、上位目標の達成見込みを述べるのが困難である。まず達成度を示す指標の見直しを行った PDM の修正後に改めて分析されるべきである。

(2) その他のインパクト

その他のインパクトとして、プロジェクト活動の中で参加型生物多様性保全の経験についての情報体系化作業を通じ、各保護区における各関係者間の連携強化などの正のインパクトは発現し得ることが予測される。

3-5 持続性

中間レビュー時点において、政策・制度、組織、財務、技術面に関する本プロジェクトの持続性については以下の点が短期的には予見される。

(1) 政策・制度面

2015年7月以降のSINACの新政策としてマクロプロセスと呼ばれる5つの政策のうち、「生物多様性と自然資源の保全と持続的利用の主張と住民参加」があげられており、「市民参加とガバナンス」が重点施策のうちの1つとなっている。具体的には「市民参加とガバナンス」の分野で制度的・全国的戦略の実施、モニタリング、評価を行うことが述べられている。このようにSINAC本部で全国的に取り組む政策の柱として参加型の取り組みが表明されており、プロジェクト活動の推進力としての政策的支援の持続性は見込まれる。

(2) 組織面

SINACの新政策の下で「市民参加とガバナンス」の新ユニットが既に設立されており、同ユニットは、本プロジェクトが目指す、参加型生物多様性保全のアプローチの知識の集約・共有・普及の役割を担う、本プロジェクトの主要C/Pとなることが期待される。一方、各保全地域事務所の職員の中で、参加型生物多様性保全の経験の継続的な情報の体系化・共有の担当を任命することなどにより、本部事務局の同ユニットと業務上の連携を強化するような組織制度の構築が重要である。

(3) 財務面

現時点までコストリカ側から活動に必要な予算は手当されていた。今後の政府予算削減によるSINACへの影響はありうるが、SINACへ配分される通常の政府予算の他、プロジェクト活動に関係する省庁や民間組織との調整などを通じて本プロジェクトの活動資金をある程度手当し、継続することは可能である。現時点では、財務面で持続性に深刻な影響をもたらす要因は特定されていない。

(4) 技術面

R.N.V.S.B.C.の職員の関係機関間の調整能力や住民の保全活動への動員の方法については、知識が蓄積しており、他の保全地域への普及が期待される。「市民参加とガバナンス」の新ユニットに関しては、プロジェクト後半でのプロジェクトのマネジメント及び実施において主要なC/Pとなるが、ユニットとしての業務経験の蓄積がないところ、持続性を高めるには、今後、プロジェクト活動を通じた同ユニットに所属する職員の能力強化支援が求められている。

3-6 効果発現に関わる貢献・阻害要因

(1) 貢献要因

1) 計画内容に関すること

特になし

2) 実施プロセスに関すること

- SINACの過去の経験の情報の体系化において、多くの関係組織を巻き込んで参加型で行ったことで、国内のさまざまな組織の関係者の知見の共有につながっている。

(2) 阻害要因

1) 計画内容に関すること

- 本プロジェクトで目指される「知識」「体系化」の定義が不明確であったことは、プロジェクトの効率的な実施のために重要な活動を取捨選択して絞り込んで集中的に行うこと、そして、プロジェクト関係者が共通理解を得るように指標を明確に設定することを妨げる一因となった。
- プロジェクト目標と成果の論理的なつながりに不明確な点があったこと、また、それぞれの指標は達成度を測る上で適切でなかったことにより、プロジェクトが効率的に実施される上での妨げとなった。

2) 実施プロセスに関すること

- 国家行政監査機関の指摘で、内容調整の検討に時間を要したため、ゾーニングガイドラインの作成に遅れが生じた。

3-7 結論

中間レビューの結果として、これまでの R.N.V.S.B.C.の活動、各保全地域での参加型の取り組みの情報整理、国際イベントを通じた情報共有などは一定の進捗と成果がみられている。しかし、「知識の共有と普及」というプロジェクト目標の達成に向け、知識の集約とその共有・普及を進めるには、今後一層の SINAC の能力強化と CCAD などの地域機関とのパートナーシップ構築が必要となる。その方向性を明確にし、プロジェクト目標達成に向けて、すべての活動と成果を整理し、PDM を修正して立て直すことは不可欠である。参加型生物多様性保全活動が SINAC とその他関係者間で更に強固に実施されるように「市民参加とガバナンス」の新ユニットの能力強化が求められる。プロジェクト目標の参加型生物多様性保全の知識の体系化、その共有・普及が進み、参加型生物多様性保全の活動が SINAC と関係者の間で定着していくことが望まれる。

第4章 提言

中間レビューの結果、以下について提言する。

(1) PDM 及び PO の改訂

プロジェクト目標を明確化するために、PDM の修正を提案する。提案する PDM Ver.2.0 は添付資料 1 の Annex 3 のとおりである。PDM のプロジェクトの要約は、プロジェクト目標と成果の意味を具体的に記述するように修正した。プロジェクト活動については再整理をしている。以上の修正に従い、全指標について達成度を測定できるものに見直しをした。

提案した PDM Ver.2.0 の修正に沿って、活動計画 (PO) も見直す必要がある。

(2) SINAC の経験からの教訓の分析

国立野生生物保護区の生物多様性保全に用いることができる参加型アプローチを検証するために、R.N.V.S.B.C.の参加型管理の経験をモデルケースの 1 つとして分析し、開発すべきである。関係機関の巻き込みや農家支援の方法とプロセスといった R.N.V.S.B.C.のアプローチは他の国立野生生物保護区の良い参照例となり得る。R.N.V.S.B.C.の活動は良い成果をいくつか示しているが、そのインパクトはまだ限られている。活動拡大とインパクトの増大の手段について考慮されるべきである。例えば、モデル農家の発展推進、国内あるいは国際農産物証明書の情報提供、大規模土地所有者が環境保全意識を向上させる規定などが考えられる。それらの参加型保全を推進する、それらの方針や共通事項は、異なる体系化された知識のケースを通じて得られ、それらが共有されるように、検証され、特定されなければならない。さらには、地方委員会とその他の類似委員会は組織間協力を推進するために支援を依頼すべきである。

また、知識の共有と普及のためにプロジェクトでまとめられた一連の調査報告書、各保全地域の参加型の取り組みの情報と教訓については、将来的な他の類似タイプの保全地域への適用を視野に入れて、詳細分析されるべきである。

(3) 知識の普及の戦略

より効率的に知識を普及するためには、対象と目的によって戦略的にいくつかのツールを利用して行うべきである。例えば、SINAC のウェブサイト、FUNDECOR の Green Hub⁶などは、プロジェクトの報告書の共有のために利用可能である。ソーシャルネットワークサービスは保護地域の環境保全に従事している関係者間のネットワーク構築に良いツールとなり得る。

(4) 中米地域組織、国際条約事務局、その他ドナーとの協力

各国のフォーカルポイントやその他の経路を通じた CCAD との情報共有の強化は中米各国へのプロジェクトの成果普及のために重要である。その目的から、プロジェクトの成果は CCAD の

⁶ 環境エネルギー省 (MINAE) のリーダーシップで、FUNDECOR が森林融資国家基金 (FONAFIFO) や熱帯農業研究教育センター (CATIE) などの関連機関の支援とともに、持続的熱帯林管理と環境サービスにおけるコスタリカの長年の経験に基づいた知識や教訓を共有するための革新的なグローバルスキームを構築しようとしている取り組み。データネットワークの共有や関係者の交流センターとなることが目指されている。

付 属 資 料

1. ミニッツ及び合同評価報告書
2. 評価グリッド
3. PDM 改訂（プロジェクトの要約）
4. PDM 改訂（指標の修正）

MINUTES OF MEETINGS
BETWEEN
THE JAPANESE TEAM OF THE MID-TERM REVIEW
AND
THE AUTHORITIES CONCERNED OF
THE GOVERNMENT OF THE REPUBLIC OF COSTA RICA
ON
THE PROJECT FOR PROMOTING PARTICIPATORY BIODIVERSITY
CONSERVATION
IN
REPUBLIC OF COSTA RICA


The Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as “JICA”) sent a team headed by Ms. Kanako ADACHI to conduct the mid-term review on the “PROJECT FOR PROMOTING PARTICIPATORY BIODIVERSITY CONSERVATION” (hereinafter referred to as “the Project”) from 19 October to 4 November 2015.

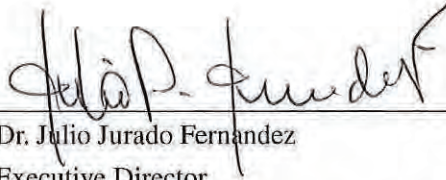
The joint review team (hereinafter referred to as “the Team”), composed of four representatives from JICA and one representative from the Republic of Costa Rica, conducted interview and field surveys during the mission. After a detailed analysis of the activities and achievements of the Project, the Team prepared the joint mid-term review report of the Project (hereinafter referred to as “the Report”).

The Team submitted the report to the relevant authorities at the Joint Coordinating Committee (hereinafter referred to as “JCC”) meeting on 4 November 2015. The authorities thoroughly examined the contents of the Report and took a note of the recommendations. The summary of the discussion is described in the document attached hereto. Costa Rican and Japanese officials agreed upon the contents of this Minutes of Meetings (MM) and subsequently report to their respective governments.

This Minutes of Meetings is prepared in duplicate in English and Spanish languages, both are equally authentic. In case of any divergence of interpretation, the English text shall prevail.

San José, 4 November 2015


 Ms. Kanako ADACHI
 Team Leader
 JICA Mid-Term Review Team
 Japan International Cooperation Agency (JICA)
 Japan


 Dr. Julio Jurado Fernandez
 Executive Director
 National System of Conservation Areas (SINAC)

Appendix: The Joint mid-term review report for Project for Promoting Participatory Biodiversity Conservation in Republic of Costa Rica

23

3

**The Joint Mid-term Review Report
For
Project for Promoting Participatory Biodiversity Conservation
In
Republic of Costa Rica**



Ms. Kanako ADACHI
Leader
JICA Mid-Term Review Team
Japan International Cooperation Agency



Ms. Cecilia Montero Vargas
Macro Process of Citizen's Participation
National System of Conservation Areas
(SINAC)

San José
4 November 2015



Table of contents

1. Introduction	1
1-1 Objective of the Mid-term Review	1
1-2 Members of the Mid-term Review Team	1
1-3 Schedule of the Mid-term Review	1
2. Outline of the Project	2
2-1 Background	2
2-2 Project Summary (at the time of signing the Record of Discussions in February 2013)	2
3. Methodologies of Evaluation	3
3-1 Process of the Mid-term Review	3
3-2 Data and Information Collection	4
4. Achievement and Implementation Process of the Project	4
4-1 Input	4
4-2 Achievement of Output	5
4-3 Achievement of Project Purpose	6
4-4 Achievement of Overall Goal	6
4-5 Implementation Process	6
4-5-1 Management and Implementing Structure	6
4-5-2 Implementation Method	7
5. Evaluation Results	7
5-1 Relevance	7
5-2 Effectiveness	8
5-3 Efficiency	8
5-4 Impact	8
5-5 Sustainability	9
6. Conclusion	9
7. Recommendations	10

Annexes

- Annex 1: Schedule of the Mid-term Review Team of JICA
- Annex 2: Project Design Matrix (Ver.1.1)
- Annex 3: Project Design Matrix (Proposed Ver.2.0)
- Annex 4: Evaluation Grid
- Annex 5: Assignment of Japanese Experts
- Annex 6: Training of Counterparts in Japan
- Annex 7: List of Equipment
- Annex 8: Assignment of Counterpart Personnel
- Annex 9: Local Operational Cost (Japanese side and Costa Rican side)
- Annex 10: List of Report Outputs
- Annex 11: List of Seminars and Events in Project Activities
- Annex 12: Achievement of Outputs, Project Purpose, and Overall Goal

Acronym and Abbreviation

ACto	Tortuguero Conservation Area
C/P	Counterpart
JCC	Joint Coordinating Committee
JICA	Japan International Cooperation Agency
MAG	Ministry of Agriculture and Livestock
MIDEPLAN	Ministry of National Planning and Economic Policy
MINAE	Ministry of Environment and Energy
ODA	Official Development Assistance
PDM	Project Design Matrix
PES	Payment for Environment Services
PO	Plan of Operation
R/D	Record of Discussions
R.N.V.S.B.C.	Barra del Colorado National Wildlife Reserve
SINAC	National System of Conservation Areas

1. Introduction

This report is to describe the results of the mid-term review for the “Project for Promoting Participatory Biodiversity Conservation” in Republic of Costa Rica (hereinafter referred to as “the Project”).

1-1 Objective of the Mid-term Review

The objectives of the evaluation are as follows:

- (1) To monitor the progress and results of the activities and to verify the accomplishments of the Project ;
- (2) To identify obstacles and/or facilitating factors that have affected the implementation process;
- (3) To analyze the Project in terms of the five evaluation criteria, namely Relevance, Effectiveness, Efficiency, Impact, and Sustainability;
- (4) To make recommendations for the necessary actions and measures (including modification of the Project Design Matrix (PDM)) in order to attain the project purpose by the end of the Project.

1-2 Members of the Mid-term Review Team

The review team consists of both Japanese and Costar Rican members as follows:

(1) Japanese side

No.	Assignment	Name	Position and Organization
1	Leader	Ms. Kanako Adachi	Director, Natural Environment Team 2, Forestry and Nature Conservation Group Global Environment Department, JICA
2	Biodiversity Conservation	Dr. Motohiro Hasegawa	Senior Advisor, JICA
3	Cooperation Planning	Mr. Wataru Honda	Associate Expert Natural Environment Team 2, Forestry and Nature Conservation Group Global Environment Department, JICA
4	Evaluation & Analysis	Ms. Mitsue Mishima	Consultant OPMAP, Co. Ltd.

(2) Costa Rican Side

No.	Assignment	Name	Position and Organization
1	Evaluation	Ms. Cecilia Montero Vargas	Macro Process of Citizen’s Participation National System of Conservation Areas (SINAC)

1-3 Schedule of the Mid-term Review

The mid-term review was conducted from 19 October to 4 November 2015. The detailed schedule is attached as Annex 1.

Beaky
3

2. Outline of the Project

2-1 Background

Costa Rica holds 95,000 species of flora and fauna, including 235 species of threatened species in the Red List of IUCN, which makes Costa Rica one of the mega-biodiversity countries in the world. Costa Rica has maintained environmental conservation as an important policy since the mid 1980's. Environmental conservation and sustainable development is prioritized as one of the major subjects in the National Development Plan for 2010-2014. Because of the efforts, the forest area increased to 52% of the land territory in 2010 and protected areas reached about 26% of the territory.

The Biodiversity Law in Costa Rica established SINAC as an independent and participatory institution. Hence, it promotes the joint participatory conservation with various stakeholders, creating Regional Local Councils and the National System of Conservation Areas. Thus, the participatory management needs to be improved in order to create capacities that allow the comprehensive integration of the communities in the biodiversity management.

Based on the above situation, SINAC-MINAE and JICA implemented the "Project for Participatory Management of Barra del Colorado National Wildlife Refuge" within the Tortuguero Conservation Area (ACTo)" from 2008 to 2011. This project strengthened the capacity of ACTo's staff for the participatory management of R.N.V.S.B.C., through promoting the Integrated Farms, environmental education and collaborative activities. However, there were still issues that required attention, like the impact analysis of the Integrated Farms and the revision of the current legislation that would allow more flexibilities in the permitted use of natural resources in the private farms within the R.N.V.S.B.C..

On the other hand, JICA recognized that experiences and efforts of Costa Rica for biodiversity is a useful reference for developing other countries, and JICA expected Costa Rica to be a leading partner to disseminate such experience on biodiversity conservation.

In this context, the Government of Costa Rica (GOCR) and the Government of Japan have agreed to formulate a new technical cooperation project which would support improving community-participation by local stakeholders in natural resources management in Costa Rica and share knowledge based on Costa Rican local experience in this field to other areas within Costa Rica and other countries, especially to those in Central America. This aim of the new project coincides with the country-based policy of the Government of Japan for Official Development Assistance (ODA) to Costa Rica, which is to support her sustainable development addressing environmental issues.

2-2 Project Summary (at the time of signing the Record of Discussions in February 2013)

(1) Duration:

April 2013~March 2018

(2) Counterpart

1. Project Director
2. Project Manager
3. Research Coordinator
4. Other officials involved in the project implementation

(3) Target Group

SINAC, MINAE, local residents of R.N.V.S.B.C., relevant agencies to the biodiversity conservation of Costa Rica and Central American countries.

Acacia
3

(4) Target areas:

Barra del Colorado National Wildlife Refuge and other Costa Rican protected areas and their surroundings

(5) Framework:

Overall Goal		The policy and systems of participatory biodiversity conservation will be strengthened making good use of the knowledge in Costa Rica and Central American countries.
Project Purpose		The knowledge of participatory biodiversity conservation in Costa Rica will be broadly shared within and outside of the country.
Output	1	The participatory management of the biodiversity in the R.N.V.S.B.C. will be strengthened and shared with other protected areas.
	2	Document the knowledge about the participatory biodiversity conservation of Costa Rica, by systematizing the successful experiences.
	3	Policies for improving participatory biodiversity conservation will be proposed.
	4	Share the knowledge on participatory biodiversity conservation within and out of the country.

3. Methodologies of Evaluation

3-1 Process of the Mid-term Review

The mid-term review was conducted in the following manner:

- (1) Assessed progress and achievements of the Project referring to the latest PDM Ver. 1.1 attached in Annex 2;
- (2) Assessed the implementation process of the Project and identified factors that facilitated or impeded the progress and achievements of the Project;
- (3) Evaluated the Project (i.e. progress, achievements and implementation process) from the viewpoints of five criteria; 'Relevance', 'Effectiveness', 'Efficiency', 'Impact', and 'Sustainability'; and
- (4) Made recommendation for activities in the remaining period.

The following table is a description about five criteria for the analysis and assessment of JICA-supported technical cooperation projects. Key evaluation questions are shown in the Evaluation Grid for the Mid-term Review attached as Annex 4.

Relevance	Relevance is assessed by the validity of the project purpose and overall goal in connection with the policy framework of the Government of Costa Rica and Japanese aid policy and the needs of beneficiaries. Project approach and design are also evaluated.
Effectiveness	Effectiveness is assessed by analyzing the probability to accomplish the project purpose by the end of the project period and the extent to which outputs contribute to the achievement of the project purpose.
Efficiency	Efficiency is assessed by analyzing productivity on how inputs are converted into outputs in terms of timing, quality and quantity.
Impact	Impact is an intended/unintended, direct/indirect and positive/negative changes that have been brought about as a result of the project.
Sustainability	Sustainability is assessed by analyzing the extent to which the achievement of the project will be sustained or expanded after the project ends. The analysis is made from institutional, organizational, technical, financial and other viewpoints.

3-2 Data and Information Collection

The team collected necessary data/information in the following manners: (1) collection of relevant documents from the Project and concerned organizations, (2) key information interviews for Costa Rican counterparts, Japanese experts and related Costa Rican institutions, (3) field visits to three Conservation Areas: Arenal Tempisque Conservation Area (regional office and Santa Elena Reserve), Huetar Norte Conservation Area (regional office) and Tortuguero Conservation Area (regional office and R.N.V.S.B.C.), in order to interview officers of SINAC as well as local communities.

4. Achievement and Implementation Process of the Project

Achievements of the Project are measured in terms of inputs, outputs, project purpose, and overall goal, all of which are in accordance with the PDM Ver.1.1 (see Annex 2)

4-1 Input

The following is the list of inputs provided for the Project implementation. More detailed information is described in Annex 5 to 9.

(1) Japanese Side

(As of October, 2015)

Items	Actual
Experts	3 long-term experts in charge of the following assignment - Chief advisor - Project coordinator/Participatory Monitoring - Project coordinator/Research Coordinator
Training of C/P in Japan	A total of 39 personnel participated in Training in Japan (3 in JFY 2013, 17 in JFY2014, 19 in JFY 2015)
Provision of Equipment	Approximately 15,980 thousand Japanese yen in total (Vehicles, Trap Camera, Binoculars, Computers, Projectors, etc.)
Operational Cost	Approximately 1,263 thousand US dollars (as of September, 2015)

(2) Costa Rican Side

(As of October, 2015)

Items	Actual
Assignment of C/P	A total of 59 SINAC personnel are directly involved in the Project. Research coordinator position C/P has been absent since February in 2015.
Budgetary allocation	99,124.71 US dollars
Provision of Land, Buildings and Facilities	Provision of offices and its facilities for Japanese Experts

4-2 Achievement of Output

The achievement of the expected outputs as of the time of the mid-term review, based on the project report and interview, is described as follows:

(Further details are described in Annex 10 to 12)

Output 1: The participatory management of the biodiversity in the R.N.V.S.B.C. will be strengthened and shared with other protected areas.

Strengthening the participatory management of biodiversity in the R.N.V.S.B.C. is evaluated to be positive in terms of the progress in the planned activities: support for Integrated Farms, agreement with intensive production farms for environmentally sustainable activities, land tenure and zoning progress, environmental education by trained teachers, participatory environmental monitoring with local residents on birds and animals by trap camera, establishment of a new local council, update the management plan with the Project experience.

However, the Team found that the project purpose is not well-reflected in Output 1. All indicators show progress of activities but do not indicate changes in the management capacity.

Output 2: Document the knowledge about the participatory biodiversity conservation of Costa Rica, by systematizing the successful experiences.

Output 2 is almost achieved. The research outputs are produced as scheduled generally. All planned reports such as those on the process of creation and development of SINAC, and 4 thematic reports will be finalized in 2016. However, it is very important to implement the process that SINAC analyzes these research outputs as part of capacity development process, and then integrates knowledge from the outputs. Thus this additional output should be added in Output 2.

Output 3: Policies for improving participatory biodiversity conservation will be proposed.

Regarding Output 3, 4 out of 6 planned policies including revision on the law, zoning guideline, and PES monitoring system design are already proposed; "unit" of Macro Process of Citizen's Participation and Governance was established in July 2015 and this "unit" will be in charge of activities of Output 3. To clarify the role of the "unit" in the Project, the activities and indicators for Output 3 are necessary to be redefined.

Output 4: Share the knowledge on participatory biodiversity conservation within and out of the country.

Achievement of Output 4 is conducted through 6 seminars and workshops held by the Project within and outside Costa Rica. Seminar participants evaluated the regional seminars positively with the result of approximately more than 80% of questionnaire respondents satisfied with the seminar. The content of the seminar were limited since all reports in Output 2 were not finalized yet. From 2016, it is expected to conduct seminars based on reports in Output 2. Other than seminars and workshops, there are several ways to share knowledge such as website and social networks. Therefore, it is necessary to determine other ways of sharing knowledge and implement them.

4-3 Achievement of Project Purpose

Project Purpose: The knowledge of participatory biodiversity conservation in Costa Rica will be broadly shared within and outside of the country.

Achievement of project purpose cannot be measured at the moment based on the current description of the progress. It is planned to be evaluated based on the number of policies proposed under Output 3 of the Project. Activities and indicators for Output 3 are necessary to be revised; therefore, the indicator for Project Purpose should be reconsidered. Other indicator “100 participants of the events create proposals for the action plans” are not a realistic figure, therefore, all these indicators should be revised for other indicators.

4-4 Achievement of Overall Goal

Overall Goal: The policy and systems of participatory biodiversity conservation will be strengthened making good use of the knowledge in Costa Rica and Central American countries.

According to the present indicators, achievement of overall goal cannot be measured yet. The indicators for overall goal are to be reviewed.

4-5 Implementation Process

4-5-1 Management and Implementing Structure

At this moment, there are several issues for reconsideration on the management and implementing structure of the Project.

(1) Vacant C/P position

- Research coordinator post has been vacant since February, 2015.
- Absence of C/P in charge of environment education and participatory monitoring after October, 2015 is likely to affect progress of the activities in R.N.V.S.B.C..

(2) Function of Research Advisory Committee

According to the interview with the Project concerned personnel, some member organizations addressed the necessity for clarifying the role and objective of the research advisory committee. Examining the meeting record, the contribution of the committee has been rather limited in terms of research methodology and result. Rather, consulting with individual member institution appears to have been more efficient.

(3) Policy and Organization Changes in SINAC

Other concern is impact from drastic institutional reorganization introduced in 2015. In July, 2015, the new organization of Executive Secretariat has incorporated the “unit” of Macro Process of Citizen’s Participation and Governance, which is expected to be the main counterpart of the Project. In September, 2015, SINAC announced a new regionalization of SINAC, which is consistent with MIDEPLAN’s regional division. As a result, 11 Conservation Areas will be integrated into 6 regions. This change is likely to affect the Project implementation. Further details on the new regionalization are scheduled to be announced in December, 2015.

Accilia
3

4-5-2 Implementation Method

While training and research outputs have been implemented efficiently by employing local consultants, quality control of the work is always the key issue. There are some issues pointed by interviewees for improvement on the consultant work, therefore, it is necessary to perform quality control more carefully.

In R.N.V.S.B.C., activities in collaboration with the Ministry of Agriculture (MAG), Ministry of Education, and other relevant organizations contributed to enhance the effectiveness of the Project. In addition, C/Ps in R.N.V.S.B.C. have already started to formulate model Integrated Farms with a view to increasing the number of Integrated Farms through model farms. This is expected to be a means of knowledge dissemination.

5. Evaluation Results

The evaluation results on the Project, using five criteria, are described below.

5-1 Relevance

Relevance is high in terms of policy and the National Development Plan 2015-2018 at the time of mid-term review. However, the project approach and design should be reviewed and revised in due course.

(1) Consistency with the Costa Rican Policy and National Development Plan 2015-2018

The Project is consistent with the National Development Plan 2015-2018 and policy on biodiversity conservation 2015-2030. A chapter for environment in the national development plan of Costa Rica emphasizes the importance of participation and governance by officially including social aspects and environmental activities. This chapter focuses on the three pillars out of the four pillars in the policy entails viewpoints related to participation of the people. The Strategic plan of SINAC also states that they implement sustainable use and management of biodiversity together with several social actors.

(2) Consistency with Regional Strategy in Central America

The Project is relevant to “2015-2020 Framework Regional Environmental Strategy” by the Central American Commission on Environment and Development (CCAD) under the Central American Integration System (SICA). One of the 5 results in the strategy is “Conservation of biodiversity has been promoted by participatory manner”. The Project can contribute to this aim by promoting the participation of the society in the biodiversity conservation.

(3) Consistency with Japanese ODA Policy

The Project is consistent with Japan’s ODA policy for Costa Rica in reference to the “Country Assistance Policy for Costa Rica” (April 2012) and “Rolling Plan for Costa Rica” (April 2015) by the Ministry of Foreign Affairs of Japan. One of the priorities in the policy and plan is environmental conservation with “Supporting for Sustainable Development Focusing on the Environment”. The policy also refers to promote assistance to the Central American region through bilateral assistance for Costa Rica, and the Project is also in line with this direction.

(4) Appropriateness of Project Approach and Design

In the Project approach, while it has been significant process for SINAC and other stakeholders to

Bealia
③

document their experiences on participatory biodiversity conservation, it is required further to clarify definition of “knowledge” and “systematization” and the goal of the Project. It is also needed to strengthen activities for dissemination of knowledge that is created in the Project. In addition, several activities in the current PDM should be moved to Plan of Operation (PO) because they are too detailed. In this regard, revision on the PDM is required. In the PDM, there is some output indicators at activity level, thus such indicators should also be reorganized and revised.

5-2 Effectiveness

The effectiveness of the Project cannot be prospected at this timing because some indicators for outputs and project purpose are not adequate to measure achievement. The effectiveness should be monitored and assessed after the revision of the PDM.

At this moment, through interview with C/Ps and local residents in R.N.V.S.B.C., it is revealed that experiences on systemization of information in each Conservation Area are effective to enhance the capacity of C/Ps, project liaison officers, in documentation and improvement for the future plan. Participatory process was undertaken for this work, including other local stakeholders such as representative resident organizations. In order to achieve the project purpose of knowledge dissemination, a comprehensive analysis on individual experiences is necessary. At least among interviewees, activities such as participatory environmental monitoring and environmental education seem to have been effective to enhance awareness of the participant local people on conservation of wildlife.

Regarding other outputs on policies and seminars, those should be reviewed and strengthened in the context of logical relation to contribute to the project purpose and overall goal.

5-3 Efficiency

Efficiency of the Project is fair in terms of input for implementation of activities. On the other hand, achievement seems to be insufficient mainly due to external factors or weakness of logical relations between activities and outputs.

Regarding the inputs from both Japanese and Costa Rican sides, those are basically provided as planned in terms of quantity and quality, except for the absence of C/Ps in some positions at the moment. In general, all inputs have been linked to the activities; however, the contribution of the activities to outputs likely to be constrained in some points: for example, changes of management structure of the Conservation Areas are likely to influence the assignment and/or communication of the project liaison officers in each area necessity for improvement of implementation structure described in “4-5-1 Management and Implementing Structure”.

5-4 Impact

At this moment, it is difficult to foresee future achievement of the overall goal. This can be analyzed after necessary revision of the PDM. Some positive impacts may be expected to emerge, such as strengthening interaction among stakeholders of local level towards biodiversity conservation through the project activities of systematizing experiences and participatory conservation activities.

Recilia
(3)

5-5 Sustainability

The sustainability of the Project in association with policy and institutional, organizational, financial and technical aspects is as follows.

(1) Policy and institutional aspects

The new “unit” Macro Process of Citizen Participation of SINAC emphasizes the citizen’s participation in the institutional operation. Under this new “unit”, it is expected to promote mutual collaboration with the Project activities.

(2) Organizational aspect

The new “unit” of Macro Process of Citizen’s Participation and Governance is already established. This “unit” is expected to have a role of sharing and disseminating knowledge on participatory biodiversity conservation, as the main counterpart of the Project. On the other hand, at each regional office level, it is critical to establish the system to link between this “unit” and the regional office, by assigning personnel in charge of sharing knowledge continuously.

(3) Financial aspect

Local operation cost has been allocated by the Costa Rican side. The current government has been undertaking budgetary cut for governmental organizations; however, other than regular budget of SINAC, funding for participatory conservation activities can be allocated partly through an arrangement of related government organizations and private agencies. At this moment, outstanding factor on financial aspect is not identified yet.

(4) Technical aspect

Skills of C/Ps in R.N.V.S.B.C. will be sustained, and it is expected to transfer their skills on inter-agency coordination and the local people’s mobilization to other areas. It is expected that the “unit” of Macro Process of Citizen’s Participation and Governance plays a key role as the important C/P in the management and implementation of the Project for the latter half of the Project period. It is crucial that the Project supports this new “unit” with focus on strengthening technical skills of the C/Ps assigned in the “unit” through project activities.

6. Conclusion

As a conclusion of the findings of Mid-term review, progress and its positive results on the activities are observed such as a series of activities in R.N.V.S.B.C., systemization of the information on the past experiences in each Conservation Area, and information sharing through international events. To achieve the project purpose of “knowledge sharing and dissemination,” it is required further to enhance the capacity of SINAC as well as the partnership with regional initiatives such as CCAD. In order to align all activities and outputs to achieve project purpose, readjustment and revision on the PDM is indispensable. It is expected that the new “unit” is to be strengthened by the Project so that participatory biodiversity conservation activities among others can be implemented in more consolidated manner. This collaboration would enhance systematization of knowledge on participatory conservation as an outcome of the Project.

Realia
③

7. Recommendations

On the ground of the above results, the Review Team made the following recommendations.

(1) Revision of PDM and PO

It is recommended that the PDM is revised in order to clarify the aim of the Project. Proposed PDM Ver. 2.0 is Annex 3. In narrative summary in the PDM, Project Purpose and Outputs are proposed to be revised in order to specify the meaning. Activities are to be rearranged. Objectively verifiable indicators for all indicators are proposed to be revised accordingly in order to measure the achievement.

Along with the revision on Proposed PDM Ver. 2.0, Plan of Operation (PO) is necessary to be revised.

(2) Analysis on lessons learned from the experiences

In order to verify useful participatory approaches for National Wildlife Refuge, experiences of R.N.V.S.B.C. should be analyzed and developed as a model case. R.N.V.S.B.C.'s approaches such as involvement of related organizations and measures and process of farmer supports can be a good reference for other National Wildlife Refuges. R.N.V.S.B.C.'s activities show several good results, but impact is still limited. Measures to expand activities and increase impact should be considered. For example, development of model farms, and provision of information such as national and/or international certification for agricultural products and regulations to large-scale land owners in order to raise their awareness; those principles or common elements that promote participatory conservation, obtained through the different systematized cases, must be examined and identified so that these can be shared. Moreover, local council and other similar committees should be utilized to promote cross-organizational cooperation.

Also, a series of reports produced by the Project for knowledge sharing and dissemination, information and lessons learned from each Conservation Area should be carefully analysed with a view to applying to other similar type of Conservation Areas in the future.

(3) Strategy for knowledge dissemination

In order to disseminate knowledge more efficiently, several tools should be used strategically depending on targets and purposes. For example, website of SINAC or Green Hub by FUNDECOR could be used for project's reports sharing. Social network services could be a good tool to making a network among persons who are engaged in conservation of protected areas.

(4) Cooperation with regional organizations, secretariat of international treaties and other donors

Strengthening information sharing with CCAD through the focal point of CCAD and other channels is important for dissemination of project results to Central America. For that purpose, results of the project should be related with CCAD's Regional Framework of Environmental Strategy. Also, knowledge of the Project should be linked with international conventions such as the CBD and Ramsar Convention. It is recommended to hold international seminars under cooperation with CCAD and related international convention secretariats.

In addition, collaboration with other donors such as Germany and Mexico which provide supports to Central American countries in a field of biodiversity conservation is recommended.

(5) Implementation structure

- SINAC's new "unit" is expected to play an important role to promote participatory approach and to

Acuña
③

accumulate and share lessons learned from participatory activities in each Conservation Area. It is recommended that the personnel of this “unit” participate in the execution of some of the activities of the Project as a counterpart to the Project.

- Vacant posts of CP should be filled as soon as possible for a smooth progress of the Project.
- Purpose and role of the Research Advisory Committee should be clarified. At present, these are vague and contribution of the Committee is limited. If other measures are more suitable to keep research quality, project implementation structure should be modified. If the Committee remains, it should be made clear that the Committee will exist after the Project or not and what is a role of the Committee in SINAC.
- Project liaison officers for the project activities should continue to be involved in the Project beyond the reorganization and regionalization of SINAC.

Schedule of the Mid-term Review Team of JICA

Date	Time	Activities	Stay at
18-Oct	Sun	6:40 :Arrival of Ms.Mishima/ Evaluation Consultant	San José
19-Oct	Mon	8:30-10:30 Meeting with the Japanese experts	San José
		11:00-12:00 Meeting in the JICA office	
		14:00-15:00 Briefing with SINAC for the midterm review Mr. Julio Jurado Fernandez, The Director of SINAC / Mr. Luis Roja, Project Manager / Ms. Laura Rivera, Director of ACTo / Ms. Lesbia Sevilla, Coordinator of International Cooperation of SINAC / Ms. Magally Castro, A person in charge of Public Participation and	
		15:00-16:00 Interview with C/P (Mr. Luis Rojas, Ms. Laura Rivera, Ms. Lesbia Sevilla)	
20-Oct	Tue	11:00-12:00 Interview with Ms. Carmen Roldan/FONAFIFO, A member of the Advisory Committee of the Project	Santa Elena
		13:30-14:30 Interview with Ms. Gidgett Ramirez / C/P of Wildlife Reserve Committee	
		14:45-15:20 Interview with Ms. Lesbia Sevilla / Coordinator of International Cooperation of SINAC	
		15:30 Departure for Santa Elena (Monteverde)	
		19:00 Arrival at Santa Elena (Monteverde)	
21-Oct	Wed	Site Survey : Interview with C/P of ACAT	La Fortuna
22-Oct	Thu	Site Survey : Interview with C/P of ACAHN	Guápiles
23-Oct	Fri	Site Survey : Interviews with Stakeholders in REBACO	Barro Colorado
24-Oct	Sat	Site Survey : Interviews with Stakeholders in REBACO	San José
25-Oct	Sun	Arrangement of Documentation	San José
26-Oct	Mon	10:00-11:00 Interviews with Ms. Yocelyn Rios and Mr. Gustavo Induni/ Persons in charge of Participatory environmental monitoring	San José
		AM Interviews with Ms. Jenny Ash, Mr. Gerardo Alavia and Ms. Sonia Lobo	
		13:30-14:30 Interview with Mr. Felipe Carazo/ FUNDECOR	
27-Oct	Tue	6:40 Arrival of the JICA Team	San José
		AM Meeting in the Hotel (JICA Team and Consultant)	
		13:30 Meeting in the JICA Office (JICA Team, Project experts, Consultant and the officials of JICA Costa Rica)	
28-Oct	Wed	8:00-9:00 Interview with Ms. Rodolfo Aguilar/ MAG, A member of the Advisory Committee of the Project	San José
		9:00-10:00 Courtesy Visit to w/ Ms. Saskia Rodriguez	
		10:00-12:00 Interviews with C/P of ACCVC, Mr. Rafael Gutierrez, Director of the ACCVC, Ex-director of SINAC Mr. Luis Rojas, Project Manager Ms. Aimara Espinoza, Director of the San José Office, Ex-project research coordinator	
		14:30 Courtesy Visit to Mr. Edgar Gutierrez, the Minister of the Environment (with the escort of Mr Julio Jurado, the Director of SINAC)	
29-Oct	Thu	7:00 Interview with Ms. Ana Maria Monge, former staff in charge of Participatory Environmental Monitoring and Environmental Education Program in ACTo	Guápiles
		All day Site Survey in REBACO	
30-Oct	Fri	All day Site Survey in REBACO	San José
31-Oct	Sat	All day Preparation for M/M	San José
1-Nov	Sun	All day Preparation for M/M	San José
2-Nov	Mon	AM Preparation for M/M	San José
		PM Conference for M/M (@ INBio)	
3-Nov	Tue	All day Conference for M/M (@ INBio)	San José
4-Nov	Wed	9:00-11:00 Sign and Seal the M/M (@ SINAC)	San José

Recibo (3)

Annex 2. Project Design Matrix Ver. 1.1
Project Title: Promotion of Participatory Biodiversity Conservation in Costa Rica

Target Group : MINAE, SINAC, local residents of the REBACO, Relevant Agencies to the Biodiversity Conservation of Costa Rica and other Central American countries.

Date : December 2013

Target Area : Barra del Colorado National Wildlife Refuge, and the other Costa Rican protected areas and their surroundings.

Period : April 2013 – March 2018

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicator	Means of Verification	Important Assumption
<p><u>Overall Goal</u> The policy and systems of participatory biodiversity conservation will be strengthened making good use of knowledge in Costa Rica and Central American countries.</p>	<ol style="list-style-type: none"> All policies proposed by the Project are already in execution. At least 5 proposals of the action plan, produced by the participants of the events, are already in execution. 	<ul style="list-style-type: none"> Monitoring Reports of the Project. 	<ul style="list-style-type: none"> The general public perceives the importance of the biodiversity in Central America.
<p><u>Project Purpose</u> The knowledge of the participatory biodiversity conservation in Costa Rica will be broadly shared within and outside the country.</p>	<ol style="list-style-type: none"> At least 3 approved policies by CONAC are already in execution. At least 100 participants in the events elaborate proposals for the action plan, incorporating the shared knowledge. 	<ul style="list-style-type: none"> Evaluation Reports of workshops and seminars. 	<ul style="list-style-type: none"> Participatory biodiversity conservation remains as a priority in government policy.. The participatory biodiversity conservation is an important policy in Central America.

Outputs

Review
 (3)

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicator	Means of Verification	Important Assumption
<p>Output 1. The participatory management of the biodiversity in the REBACO will be strengthened and shared with other protected areas.</p>	<p>¹ See footnote</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● Activity Report of REBACO. ● Income Registry of the Integrated Farm Group.. ● Activity reports of the Local Council. ● "Annual Activity Report" of SINAC. 	<ul style="list-style-type: none"> ● There are understandings and cooperation of local stakeholders.
<p>Output 2. Document the knowledge about the participatory biodiversity conservation of Costa Rica by systematizing the successful experiences.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● There will be at least 17 investigation reports by the end of 2015. <ul style="list-style-type: none"> ✓ 12 reports about the experience of SINAC (SE and 11 ACs) ✓ One report on the experience of formulating the BD law. ✓ 4 thematic reports. 	<ul style="list-style-type: none"> ● Research Reports of the Project. 	<ul style="list-style-type: none"> ● The Advisory Committee provides adequate advice to the research. ● Capable consultants should be selected.
<p>Output 3. Policies for improving participatory biodiversity</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● At least 6 policies will be approved by CONAC by the end of the Project. 	<ul style="list-style-type: none"> ● Activity Report of the Project. ● Minutes of CONAC. 	<ul style="list-style-type: none"> ● The Advisory Committee provides adequate advice to the research.

¹ Provisional Indicators of the Expected Outcome 1:

- 1-1: By the end of the Project, 33 producers affiliated to the organization under the Integrated Farming System will improve their income by 20%.
- 1-2: 5 intensive production farms apply at least one sustainable activity by the end of the Project .
- 1-3: 150 locals learn about the possession and use of land in the NWR BC per year from 2016 on.
- 1-4: Each trained teacher will teach at least 4 sessions on environmental education from the 2015 school year on, in schools in NWR BC and its area of influence.
- 1-5: A report on outcomes of Participatory Environmental Monitoring (MAP in Spanish) is published annually from 2015 .
- 1-6: Local Councils of NWR BC formulate and implement at least 2 proposals and/or events per year during the Project implementation from 2014 on.
- 1-7: There is a Management Plan approved and implemented in 2015 .
- 1-8: There is a manual of NWR participatory management with the experiences of NWR BC and other NWRs by the end of September 2017 .

Recovery

3

conservation will be proposed.			
<u>Output 4.</u> Share the knowledge on participatory biodiversity conservation within and out of the country.	<ul style="list-style-type: none"> ● At least 10 events for sharing knowledge of Costa Rica will be executed during the Project implementation. ● The participants positively evaluate the event. ● At least 10 reports per event will be prepared. 	<ul style="list-style-type: none"> ● Reports of workshops and seminars. 	<ul style="list-style-type: none"> ● Adequate networks will be effectively utilized for the international workshops and seminars.

Meeting
③

Activities

<p>1-1 Strengthen the activities of the Integrated Farms.</p> <p>1-2 Promote a sustainable production system for the intensive production farms (private farms of medium and large scale) in REBACO</p> <p>1-3 Promote a better management of land use and land ownership in REBACO .</p> <p>1-4 Improve Participatory Environmental Monitoring (MAP in Spanish) of REBACO.</p> <p>1-5 Strengthen the environmental education activities in REBACO .</p> <p>1-6 Improve the management of Local Councils in REBACO.</p> <p>1-7 Update REBACO's Management Plan.</p> <p>1-8 Carry out workshops and the exchange of experiences of the activities developed in REBACO and with other NWRs of SINAC².</p> <p>2-1 Establish the "Research Advisory Committee" of the Project.</p> <p>2-2 Perform the mandatory Committee meetings.</p> <p>2-3 Define the research topics in order to document knowledge with the consulting of the Advisory Committee of the Project.³</p>	<p>Inputs:</p> <p>JICA will assign the following:</p> <p>(a) Chief Advisor 12MMx 5 years</p> <p>(b) Project Coordinator for Research and Seminars: 12MM x 5 years</p> <p>(c) Field Coordinator for Participatory Management of the Protected Areas: 12MM x 5 years</p> <p>(d) Short-term experts for participatory environmental monitoring, wise-use of wetlands, protected area management and zoning for protected areas, GIS, etc.,</p> <p>Budget will be allocated for the following items:</p> <p>(a) Contracts for professional services for research, studies and the systematization of experiences.</p> <p>(b) National seminars and workshops.</p> <p>(c) International seminars.</p> <p>(d) Pilot activities for participatory management.</p>	<p>Important Assumptions:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Enough number of Costa Rican staff will be designated. ● Establishment of the Advisory Committee shall be agreed by the relevant organizations. ● Good relationship between the Central American countries is maintained.
---	--	---

² Possible events:

National : Refuge Gathering, MAP Gathering, local councils gathering (one or two events per year)

International : international congress, international seminars or courses (one or two events per year)

³ The topics are

> Background to the creation of the biodiversity law and SINAC

Reading
③

<p>2-3 Hire consultants for the research.</p> <p>2-4 Establish a network of liaison of the Conservation Areas.</p> <p>2-5 Establish the systematization methodologies.</p> <p>2-6 Outline the experiences concerning the topics to systematize .</p> <p>2-7 Train the liaisons.</p> <p>2-8 Define managers. among the liaisons, for each topic to systematize.</p> <p>2-9 Carry out the systematization with the support of the consultants.</p> <p>3-1 Develop a methodology for the monitoring of biophysical and socioeconomic impacts of PSA (payment of environmental services), with a participatory approach.</p> <p>3-2 Elaborate a proposal for other permitted uses within the Natural State Patrimony, within the National Wildlife Refuges.</p> <p>3-3 Establish the Local Management Program within the SINAC.</p> <p>3-4 Develop the participatory environmental monitoring at the national level.</p>	<p>(e) Project administrative costs.</p> <p>(f) Field and office equipment, and vehicles for the implementation of the Project.</p> <p>Costa Rica will assign the following:</p> <p>(a) Project Director: SINAC's Executive Director.</p> <p>(b) Project Manager.</p> <p>(c) Research Coordinator.</p> <p>(d) Participatory Management Coordinator: ACTo's Director.</p> <p>(e) Barra del Colorado Wildlife Refuge staff.</p> <p>(f) Other relevant staff for the Project activities.</p> <p>Costa Rica will secure the following:</p> <p>(a) Project offices and maintenance costs.</p> <p>(b) Transportation costs for the Project</p>	
--	--	--

- > Systematization and evaluation of the activities carried out by SINAC
- > Systems of councils and conservation areas
 - > Participatory management of protected areas utilizing the experiences of REBACO as a case
 - > Other participatory experiences within and out of ASPs (including the ACG, Guanacaste Conservation Area, experiences and the Program of Biological Corridor)
- > Participatory Conservation Cases implemented by NGOs.
- > Procedures to improve environmental awareness.
- > Methods of generating income consistent with the conservation of biodiversity.
- > Ecotourism.

The study contents will be: background, execution process, environmental impact, social and economic, conditions for success, issues considered for implementation in other areas, etc.

Review
 (3)

<p>3-5 Strengthen the Management Policy (Shared, participatory or governance) of ASP (wildlife protected areas).</p> <p>3-6 Develop the ASP zoning guide in a participatory manner with the involvement of personnel and councils .</p> <p>4-1 Define and adjust the topics for the workshops and seminars.⁴</p> <p>4-2 Develop the programs for the workshops and seminars.</p> <p>4-3 Make the materials for the workshops and seminars.</p> <p>4-4 Schedule and conduct the workshops and seminars.</p>	<p>counterpart staff, including fuel, vehicles and its maintenance.</p> <p>(c) Communication costs, such as phone and Internet.</p> <p>(d) Food and lodging costs for national workshops and seminars.*</p> <p>(e) Other necessary and feasible costs.</p> <p>*Meals during national events will be provided by JICA.</p>	
---	---	--

⁴ Topics of the events for sharing the knowledge generated by the Project

1. Governance to promote participatory management (Experience of SINAC . legal framework and its background) to the level of decision making and management.
2. Participatory management practices (for the operational level in the field)
3. The process of increasing environmental awareness to promote conservation.
4. Role of NGOs in promoting participatory management in the conservation of BD .
5. Participatory management as a means to promote alternative production systems . compatible with the conservation of BD.

Outline
(3)

Annex 3. Project Design Matrix (Proposed Version 2.0)
Project Title: Promotion of Participatory Biodiversity Conservation in Costa Rica

Target Group: SINAC, MINAE, Local Residents of the RNVS BC, Relevant Agencies to the Biodiversity Conservation of Costa Rica and Central American Countries*.
 (*Those agencies participated in the seminars held by the Project)

Date: 4 November 2015

Target Area: Barra del Colorado National Wildlife Refuge and the Conservation Areas


Period: April 2013 – March 2018

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicator	Means of Verification	Important Assumption
<p>Overall Goal The policy and systems of participatory biodiversity conservation will be strengthened making good use of the knowledge in Costa Rica and Central American countries.</p>	<p>1.Existence of projects and/or policies in Costa Rica and Central American countries that contributed to participatory biodiversity conservation.</p> <p>2.Network established by the Project in and outside Costa Rica will be sustained, with 50 participants and more and introduction of new issues on participatory biodiversity conservation.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● SICA-CCAD Reports ● SINAC Reports ● Interview to CCAD representative, focal person of CCAD Central American countries, SINAC CP and relevant agencies to the Biodiversity Conservation in other countries in Central America 	<ul style="list-style-type: none"> ● The general public perceives the importance of the biodiversity in Central America.
<p>Project Purpose A mechanism to share the knowledge of participatory approach of Costa Rica is established in and outside Costa Rica.</p>	<p>1. In each Conservation Area, at least one case of utilizing the knowledge consolidated by the Project</p> <p>2. At least 50 persons in relevant agencies to biodiversity participated in network established by the Project, exchanging the knowledge and discussing on the issues on participatory biodiversity conservation.</p> <p>3. A responsible section of SINAC for knowledge sharing is determined and develops a mechanism (e.g. homepage) to keep updating relevant data.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● SINAC Report ● Interview to counterparts, Japanese experts, and main stakeholders in each Conservation Area (interviewees selected by purposive sampling from various sectors) ● SINAC website ● CCAD website 	<ul style="list-style-type: none"> ● Participatory biodiversity conservation remains as a priority in government policy ● The biodiversity conservation is an important policy in Central America.

Reaching


	<p>4. The responsible section of SINAC for knowledge sharing with foreign countries develops a partnership and establish a mechanism (e.g. homepage linkage) to share knowledge with regional initiatives such as CCAD.</p>		
<p>Output 1. Participatory management approach of Wildlife Refuge is examined and verified in R.N.V.S.B.C., and empirical knowledge is extracted for dissemination.</p>	<p>1.1. Participatory Biodiversity Conservation Guideline in Wildlife Refuge based on the experiences in R.N.V.S.B.C. is published.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● Participatory Biodiversity Conservation Guideline ● Officially approved and published guideline on Participatory Biodiversity Conservation in the Wildlife Refuges. 	<ul style="list-style-type: none"> ● Counterpart personnel and other project related actors such as project liaison officers are continuously assigned.
<p>Output 2. Knowledge of participatory biodiversity conservation in Costa Rica is systematized.</p>	<p>2.1 Reports produced in Costa Rica in below are analyzed and empirical knowledge is integrated in a handbook for participatory biodiversity conservation under the initiative of SINAC.</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 12 reports about SINAC experience (SE and 11 ACs) ✓ One report about the creation and development process of SINAC, including formulation experience of the Biodiversity Law ✓ 4 thematic reports <p>2.2 SINAC has a guideline and the officially approved methodology for the systematization of experiences of the Participatory Biodiversity Conservation.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● Research reports of the Project ● Minute of meeting or official latter of guidelines and methodology 	

Activities
③

Participatory


<p>Output 3. Policies and tools for participatory biodiversity conservation are proposed in Costa Rica.</p>	<p>3.1 At least 1 policy and 4 tools for participatory biodiversity conservation are proposed.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● Activity Report of the Project ● Interview to counterparts ● Proposed policies or tools 	
<p>Output 4. Knowledge on participatory biodiversity conservation is shared in and outside Costa Rica.</p>	<p>4.1 At least 12 events are implemented in Costa Rica to share the knowledge about Participatory Biodiversity Conservation consolidated by the Project. 4.2 At least 20 reports, guidelines, and presentation materials of the Project are published on SINAC Website 4.3 Knowledge sharing network about Participatory Biodiversity Conservation inside Costa Rica and among Central American countries is established. 4.4 Costa Rica's experiences on participatory biodiversity conservation is shared to CCAD at least twice. 4.5 Costa Rica's knowledge on participatory biodiversity conservation is presented in international events or seminars at least 10 times. 4.6 More than 80% of respondents to the questionnaire understand the content of the national and international events/ seminars held by Costa Rica</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● Reports of seminars and workshops ● SINAC Website ● Plan and actual established network ● CCAD Reports ● Activity Reports of the Project 	
<p>Activities 1-1 Promote sustainable production in R.N.V.S.B.C.. 1-2 Promote awareness rising on participatory management of R.N.V.S.B.C..</p>	<p>Inputs Japanese side will assign following: A) Chief Advisor: 12 MM x 5 years B) Project Coordinator for Research and Seminar: 12 MM x 5 years</p>	<p>Pre-Conditions</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Enough number of Costa Rican Staff is designated. 	

<p>1-3 Promote participatory approaches through existing mechanisms such as Local Councils and Management Plan of R.N.V.S.B.C..</p> <p>1-4 Prepare participatory biodiversity conservation guideline in Wildlife Refuge based on R.N.V.S.B.C.'s experiences.</p> <p>2-1 Establish the Research Advisory Committee for the Project</p> <p>2-2 Define the research themes to document the knowledge with the advice of the Research Advisory Committee of the Project</p> <p>2-3 Conduct the research.</p> <p>2-4 Systematize research results</p> <p>3-1 Strengthen the "unit" of Citizen's Participation and Governance</p> <p>3-2 Conduct activities for improvement of policies and tools for participatory biodiversity conservation</p> <p>4-1 Hold national seminars and workshops in Costa Rica</p> <p>4-2 Put reports, guidelines, presentation materials, and other products of the Project on SINAC Web site or other relevant platform</p> <p>4-3 Build network among persons related to participatory biodiversity conservation in Costa Rica and Central American countries</p> <p>4-4 Present knowledge consolidated through project at CCAD</p> <p>4-5 Participate international events and hold international seminars and workshops</p>	<p>C) Field Coordinator for participatory management of the protected areas: 12 MM x 5 years</p> <p>D) Short-term Experts</p> <p>E) Budget will be allocated for the following items:</p> <p>A) Contracts for professional services for research, studies and the systemization of the experiences.</p> <p>B) National seminars and workshops</p> <p>C) International seminars</p> <p>D) Pilot activities for participatory management</p> <p>E) Project administrative costs</p> <p>F) Office and field equipment and vehicles for the Project implementation.</p> <p>Costa Rican side will assign following:</p> <p>a) Project Director: Executive Director of SINAC</p> <p>b) Project Manager</p> <p>c) Research Coordinator</p> <p>d) Participatory Management Coordinator: Director of ACTo</p> <p>e) Barra del Colorado National Wildlife Refuge staff</p> <p>f) Project liaison officers</p> <p>g) Coordinators of participatory environmental monitoring</p> <p>h) Other staff relevant to the Project activities</p> <p>Costa Rican side will secure the following:</p> <p>a) Project offices and costs for maintenance.</p> <p>b) Transportation costs for the project counterpart staff, including fuel, vehicles and its maintenance</p> <p>c) Costs for communication such as internet and telephone.</p> <p>d) Food and lodging costs for the national seminars and workshops</p> <p>e) Other necessary and feasible costs</p>	
---	--	--

Bealby
3

Evaluation Grid for Mid-term Review on Project for Promotion of Participatory Biodiversity Conservation

1. Achievement of the Project

Evaluation Questions		Basis for Judgment	Data required	Data Source / Data Collection Methods
Main Items	Sub Items			
Is the logic of PDM appropriate?	Is the logic of the latest PDM Ver.1.1 appropriate?	Verification on appropriateness of causal relation between each item in the PDM-Ver.1.1.	<ul style="list-style-type: none"> PDM Ver.1.1 	<ul style="list-style-type: none"> Detailed Planning Study Report review Project reports & references review Minutes of Meeting of JCC C/P interview Japanese experts interview
	Were the revisions of the PDM adequate?	Adequacy of the revisions in the PDM Ver 1.1	<ul style="list-style-type: none"> PDM Ver. 1 PDM Ver.1.1 	Ditto
Has been the inputs to the Project implemented as planned?	Has been the inputs from the Japanese side to the project implemented as the plan?	Difference between the plan and actual	<ul style="list-style-type: none"> Actual inputs 	<ul style="list-style-type: none"> Data and information provided by the Project
	Has been the inputs from the Costa Rican side to the project implemented as the plan?	Difference between the plan and actual	Ditto	Ditto
Has been outputs of the project produced as planned?		Indicators set in PDM Ver.1.1	<ul style="list-style-type: none"> Actual outputs 	Ditto
Is the Project Purpose expected to be achieved by the completion of the Project?		Indicators set in PDM Ver.1.1	<ul style="list-style-type: none"> Prospect of achievement of the Project outputs 	Ditto
Is the overall goal expected to be achieved?		Expectation of the achievement of the overall goal as a result of the achievement of the Project Purpose	<ul style="list-style-type: none"> Probability to apply to national and other countries' policies and schemes 	Ditto
What are factors affecting achievement of the outputs and the project purpose?		<ul style="list-style-type: none"> Fulfillment of important assumptions set in the PDM Other external factors 	<ul style="list-style-type: none"> Information and data on important assumptions and other factors 	Ditto

"Knowledge" in the Project is defined as "those which systematize the background where a policy, program or activity was implemented, its process of implementation, relationship between action and effects or results, biological and socio-economic impacts, related issues, lessons learned and points to improve" (Record of Discussion of the Project, signed on Feb. 4, 2013).

2. Implementation Process

Evaluation Questions		Criteria for Judgment	Necessary Data	Data Source / Data Collection Methods
Survey Items	Sub-Survey Items			
Have the Project activities been implemented as planned?		<ul style="list-style-type: none"> - Comparison of the planned activities indicated in PDM with the actual activities implemented - Existence of added or cancelled activities and their reasons 	<ul style="list-style-type: none"> - PDM Ver. 1.1 and PO - Implementation status of the planned activities 	<ul style="list-style-type: none"> - Project reports & references review - C/P Interview - Japanese Experts interview
Has the Project been managed properly?	Has been the current project implementation structure functioned effectively and efficiently?	<ul style="list-style-type: none"> - Adequacy of demarcation of roles and responsibilities taken by C/Ps and Japanese experts - Adequacy of demarcation of roles and responsibilities taken within C/Ps (head and local offices) - Adequacy of implementation structure of relevant organizations and committees 	<ul style="list-style-type: none"> - Project implementation structure/system - Decision making mechanism - Situation of project management 	Ditto
	Has Project been monitored appropriately?	<ul style="list-style-type: none"> - Effectiveness of the JCC monitoring the project progress - Effectiveness of the Research Advisory Committee monitoring the research plan and results 	<ul style="list-style-type: none"> - Evaluation and monitoring results and advices by JCC - Advises by Research Advisory Committees 	<ul style="list-style-type: none"> - Project reports & references review - Minutes of Meeting of JCC - Minutes of Meeting of Research Advisory Committee - C/P interview - Japanese experts interview
	Is there no problem in the communication between the C/P and Japanese experts?	Regular and enough communication between C/P and Japanese experts	Frequency of communication between experts and C/P	<ul style="list-style-type: none"> - Project reports & references review - C/P interview - Japanese experts interview
Have the Initiatives of the Costa Rican side been sufficient for the Project progress?	How has been the degree of participation/ownership of C/P sufficient for the Project progress?	<ul style="list-style-type: none"> - C/P's full understanding on the objectives, progress and issues to be improved of the project - C/P's initiatives in getting engaged in the project activities 	<ul style="list-style-type: none"> - C/P's level of understanding on the Project - C/P's level of participation to the Project activities - C/P's roles and responsibility of the project and daily job description 	Ditto
	Are appropriate post/personnel allocated as C/P?	Consistency of the Project objective and assignment of C/P in terms of	- Influence of absence of research coordinator of C/P (as	Ditto

Reality
③

Annex4

Evaluation Questions		Criteria for Judgment	Necessary Data	Data Source / Data Collection Methods
Survey Items	Sub-Survey Items			
		organization, department and personnel capacity	of Sep. 2015) - Existence of other organization, department and personnel necessary to cooperate in the project - Details of changes in personnel and responsibility of regional offices by current on-going organization reform	
	How has been the degree of participation/ownership of the target local government and residents in REBACO?	- Full understanding of the target local government and residents on the objectives, progress and issues to be improved of the project. - Initiatives of getting engaged in the project activities by the target local government and residents	Level of participation of the target local government and residents to the project activities	Ditto - Local government interview - Local residents interview
Are there any factors affecting the progress of the Project?	Are there any negative factors impeding the project implementation?		- Any specific problems and constraints causing delays	- Project reports & references review - C/P interview - Japanese experts interview
	Are there any positive factors promoting the project progress?		- Any specific issues which contributed to the project progress	Ditto

* REBACO:Refugio Nacional de Vida Silvestre Barra del Colorado

Meeting
③

3. Five Evaluation Criteria
Relevance

Evaluation Questions		Criteria for Judgment	Necessary Data	Data Source / Data Collection Methods
Survey Items	Sub-Survey Items			
Are the Project Purpose and overall goal still consistent with national strategy, policy and plan in Costa?		<ul style="list-style-type: none"> - Priority on the participatory biodiversity conservation in the policy and development plan of Costa Rica after the project started 	Costa Rican national development plan and related policies on participatory biodiversity conservation, such as: <ul style="list-style-type: none"> - Plano Nacional de Desarrollo (2015-2018) - Política Nacional de Biodiversidad (2015-2030) - Plan Estratégico SINAC 	<ul style="list-style-type: none"> - Governmental reports and development plans - Detailed Planning Study Report review
Are the Project Purpose and overall goal still consistent with regional strategy in Central America?		<ul style="list-style-type: none"> - Priority on the participatory biodiversity conservation in the policy and development plan of Central America 	Regional policy/ strategy related on participatory biodiversity conservation, such as "Estrategia Regional Ambiental Marco 2015-2020"	<ul style="list-style-type: none"> - Regional organizations' reports and development plans
Is the Project approach appropriate to meet the needs of target group*?	Is the Project appropriate as a strategy for producing an effect to dissemination of participatory biodiversity conservation in Costa Rica and other Central American countries?	<ul style="list-style-type: none"> - Appropriateness of the project approach/design as the means of achieving the project purpose and overall goal - Existence of inconsistency and problems of PDM 	<ul style="list-style-type: none"> - Evaluation on the project approach/design by stakeholders - PDM Ver. 1.1 	<ul style="list-style-type: none"> - Detailed Planning Study Report review - Japanese experts interview - Costa Rican Stakeholder interview (C/P and other target group organizations)
<p><i>*Target Group: MINAE, SINAC, Local residents of the REBACO, relevant agencies to the biodiversity conservation in Costa Rica and Central American Countries</i></p> <p><i>Target Area: the REBACO and other Costa Rican protected areas and their surroundings</i></p>	Is the selection of target area/group appropriate?	<ul style="list-style-type: none"> - Consistency of the needs of the target area/group and the project purpose and overall goals - Applicability or referential usability of the knowledge from REBACO experience to other areas/groups - Needs for exchanging the experience of participatory biodiversity conservation in other countries in Central America 	<ul style="list-style-type: none"> - Needs for systematizing and sharing the knowledge on participatory biodiversity conservation in Costa Rica and other countries - Needs of local government and residents for participatory biodiversity conservation - Current situation in other areas where requires participatory biodiversity conservation 	<ul style="list-style-type: none"> - Detailed Planning Study Report review - Japanese experts interview - Costa Rican Stakeholder interview (C/P and other target group organizations)

Annex4

Evaluation Questions		Criteria for Judgment	Necessary Data	Data Source / Data Collection Methods
Survey Items	Sub-Survey Items			
Is the project in line with the Japan's ODA policy?		Consistency of the project objective and Japan's ODA policy towards Costa Rica after the project started.	Japan's ODA policy towards Costa Rica - Country Assistance Policy for Costa Rica (April 2012) - Rolling Plan of the ODA projects for Costa Rica (April 2015)	- Detailed Planning Study Report review - Japan's ODA policy review
Is there any comparative advantage of Japan in implementing the Project?		Applicability or referential usability of the knowledge in the Japanese experiences	- Japanese ODA experiences in participatory biodiversity conservation - Participatory biodiversity conservation in Japan	- Detailed Planning Study Report review - References of similar Japanese experiences and ODA projects
Is there adequate coordination with other international donors?		Demarcation / coordination with other international donors to enhance efficiency and effectiveness	- Evaluation on the project approach/design by stakeholders	- International donor interview

Effectiveness

Evaluation Questions		Criteria for Judgment	Necessary Data	Data Source / Data Collection Methods
Survey Items	Sub-Survey Items			
Is there any achievement /prospect for achievement of the outputs ?		Achievement of the planned outputs	(Refer "1. Achievement of the Project")	(Refer "1. Achievement of the Project")
Is there any prospect for achieving project purpose by the end of the project?		Expectation of achievement of the Project Purpose	(Refer "1. Achievement of the Project")	(Refer "1. Achievement of the Project")
Are the Project Outputs expected to contribute to achievement of the Project Purpose as planned?		- Contribution of each output to achievement of the Project Purpose - Sufficiency of the Project Outputs to achievement of the Project Purpose	- Achievement level of outputs - Examples of contributing factors	- Japanese experts interview - C/P interview
Are there any other factors promoting or impeding for achievement of the Project Purpose?		- Fulfillment of important assumptions set in the PDM - Other external factors affecting achievement of the Project Purpose - Internal factors affecting achievement of the Project Purpose	(Refer "1. Achievement of the Project")	(Refer "1. Achievement of the Project")

Handwritten signature
3

Efficiency

Evaluation Questions		Criteria for Judgment	Necessary Data	Data Source / Data Collection Methods
Survey Items	Sub-Survey Items			
Appropriateness of the inputs for the Project activities	Are the inputs by Japanese side appropriate?	<p><Japanese experts></p> <ul style="list-style-type: none"> - Appropriateness of the number of experts dispatched, their fields of expertise, and timing and period of dispatch <p><Training in Japan></p> <ul style="list-style-type: none"> - Appropriateness of the number of trainees, their fields, training contents, training period and timing of overseas training <p><Consulting service contract></p> <ul style="list-style-type: none"> - Appropriateness of quality of consultants and timing of contract <p><Equipment></p> <ul style="list-style-type: none"> - Appropriateness of the type, quantity and timing of the installation of equipment 	<ul style="list-style-type: none"> - Plan of Operation (PO) - Allocation and assignment of experts - Past record of overseas training - List of equipment provided - Local costs amount by item 	<ul style="list-style-type: none"> - Japanese experts interview - C/P interview - Project reports & references review
	Are the inputs provided by the Costa Rican side appropriate?	<p><C/P></p> <ul style="list-style-type: none"> - Appropriateness of the number, assignment and skills <p><Facilities></p> <ul style="list-style-type: none"> - Appropriateness of the facilities provided by Costa Rican side <p><Local cost></p> <ul style="list-style-type: none"> - Appropriateness of the local costs from Costa Rican side 	<ul style="list-style-type: none"> - Plan of Operation (PO) - Allocation and assignment of C/P - Information on facilities provided (if any) - Local costs amount by item 	<ul style="list-style-type: none"> - Project reports & references review
Are the inputs and activities appropriate in achieving outputs?		<ul style="list-style-type: none"> - Necessity and sufficiency of the inputs for conducting the Project activities. - Necessity and sufficiency of the Project activities for the outputs 	<ul style="list-style-type: none"> - Plan of Operation (PO) - Actual inputs - Actual activities implemented 	<ul style="list-style-type: none"> - Project reports & references review - Refer "1. Achievement of the Project" and "2. Implementation Process"
Are there any impeding or facilitating factors in terms of efficiency?		<ul style="list-style-type: none"> - Constraints and driving forces for efficiency of the Project 	<ul style="list-style-type: none"> - Utilization of inputs for activities - Data related to important assumptions for the outputs 	<ul style="list-style-type: none"> - Project reports & references review - Refer "1. Achievement of the Project" and "2.

Annex4

Evaluation Questions		Criteria for Judgment	Necessary Data	Data Source / Data Collection Methods
Survey Items	Sub-Survey Items			
				Implementation Process

Impact (Prospect of Achieving the Overall Goal at the time of evaluation)

Evaluation Questions		Criteria for Judgment	Necessary Data	Data Source / Data Collection Methods
Survey Items	Sub-Survey Items			
Is the overall goal expected to be achieved?	Is the overall goal likely to be achieved as a result of the achievement of the Project Purpose?	Indicators of overall goal Logical adequacy of casual relationship between the Project Purpose and the overall goal	(Refer "1. Achievement of the Project")	(Refer "1. Achievement of the Project")
	Are important assumptions affecting or expected to affect the achievement of overall goals?	Fulfillment of important assumptions	Information related to important assumptions for the overall goal	Ditto - Japanese experts interview - C/P interview
Are there any unexpected positive / negative impacts?		Positive or negative changes on : - National and Institutional Aspects - Financial issues in target area - Social and cultural issues in target area	Examples of other positive and negative impacts	- Project reports & references review - Japanese experts interview - C/P interview - Local government interview - Local Resident interview

Sustainability (Future Prospect)

Evaluation Questions		Criteria for Judgment	Necessary Data	Data Source / Data Collection Methods
Survey Items	Sub-Survey Items			
Are the Project effects likely to be sustainable after the	(Political Aspect) Will the political support by the Costa Rican government be carried on?	- Continuous political and institutional support for placing importance on participatory biodiversity conservation	Opinions of relevant persons	- Japanese Experts interview - C/P interview

Reviewing ③

Annex4

Evaluation Questions		Criteria for Judgment	Necessary Data	Data Source / Data Collection Methods
Survey Items	Sub-Survey Items			
completion of the project?	(Institutional Aspect) Will the project effects will be sustainable and disseminated to other areas?	- Any development through the Project experiences in national policy, guidelines, regulations, future plan on participatory biodiversity conservation	Policies, guidelines, regulations or any plan for introducing and adopting the achievements and lessons learned in the REBACO to other area	Ditto
	(Organizational Aspect) Will the organizational support by Costa Rican side be carried on?	- Enforcement of the inter-agency coordination to implement participatory biodiversity conservation by SNIC - Appropriateness of involvement of stakeholders and allocation of roles and responsibilities of each stakeholder	Opinions of relevant persons	Ditto
	(Technical Aspect) Do project stakeholders have enough skills for sustaining the project effects?	- Management skills of SNIC personnel to appropriately implement the activities - Capacity of local government officers and local residents of REBACO to conduct the Project activities continuously	Opinions of relevant persons	- Japanese Experts interview - C/P interview - Local government interview - Local residents interview
	(Financial Aspect) Will MINAE and SINAC acquire fund and allocate the budget for sustaining the project effects?	- Funding mobilization capacity of MINAE and SINAC	Budget plan and actual allocation in recent years related to participatory biodiversity conservation	- MINAE/SINAC Annual report - Japanese Experts interview - C/P interview

Assignment of Japanese Experts

Long-term Experts

Name	Assignment	Period (Plan)
Mr. Masaki Osawa	Chief Advisor	2013.4.25—2016.4.24
Mr. Tadao Kikuchi	Project Coordinator/Participatory Protected Area Management	2013.6.5—2016.6.4
Ms. Keiko Ogawa	Project Coordinator/Research Seminar Coordination	2013.6.5—2016.6.4

Osawa (3)

Training of Counterparts in Japan

JFY 2013				
No.	Course Title	Period	Participants	Position
1	C/P training on 1st Asia Parks Congress	11/Nov - 23/Nov	Gustavo Induni Alfaro	Research Coordinator, Executive Secretariat, SINAC
2			Mauricio Arias Zumbado	ASP, ACCVC, SINAC Manager
3			Jeffrey Caatillo Machado	Tourism Officer, RNVS BC, ACTo, SINAC

JFY 2014				
No.	Course Title	Period	Participants	Position
1	Conservation and Sustainable Use of Biodiversity to the Wetland Ecosystems on Community Base	18/May - 7/Jul	Gilberto Chaves Matamoros	RNVS Maquenque, ACAHN, SINAC Administrator
2			Olman Mena Valverde	ACTo, SINAC Natural Resources Manager
3	Extension Methodologies of Organic Agricultural Techniques for Small Scale Farmers for Central America and Caribbean	22/Jun - 4/Oct	Artibaldo Enrique Chaves Corrales	Producer, RNVS BC, ACTo
4	Improvement of Environmental Education Technique for Biodiversity Conservation	23/Sep - 14/Oct	Yelmy María Cedeño Solís	ACT, SINAC
5			Miguel Angel Araya	ACTo, SINAC Natural Resources Manager
6	Protected Areas System in Japan and Zoning	22/Nov-9/Dic	Jenny Mayela Asch Corrales	SINAC
7			Luis Gerardo Artavia Zamora	ASP Management, Executive Secretary, SINAC
8			Evelyn Aguilar Méndez	Legal Adviser, ACOSA, SINAC
9			Gidgett Ramirez Hernandez	Legal Adviser, Executive Secretary, SINAC
10			Mariela Montero Leiton	Legal adviser, ACCVC, SINAC
11			Ana Cristina Méndez Esquivel	Legal Adviser, ACAHN, SINAC
12			Martha Elena Jiménez Carveja	Legal Adviser, ACLAP, SINAC
13			Aimara Espinoza Ulate	Research Coordinator / Head of Office in San José, ACCVC, SINAC
14			Gloria Elena Solano Martínez	Attorney General of the Republic
15			Marco Vinicio Sánchez Villalob	Comptroller General of the Republic
16	Sustainable Natural Resource Management through Collaborative Management of Protected Areas	25/Jan/2015 - 14/Feb/2015	Dlonni Palmer Brown	ACLA-C, SINAC
17			Dorlan Marcelo Méndez Guevara *	ACT, SINAC

* Participating in the open courses

JFY 2015				
No.	Course Title	Period	Participants	Position
1	Sustainable Use of Wetland Resources for Local Benefit	19/May - 8/Jul	Meryll Arias Quiros	Administrator, PN Tapanti, ACLAP, SINAC
2	GIS and Remote Sensing utilized for Biodiversity Information System and Participatory Approach toward Biodiversity Conservation Actions	1/Jun - 7/Aug	Waldy Medina Sandoval*	ACG, SINAC
3	Regional Development by Sustainable Use of Biodiversity	28/Jun - 26/Jul	Frank Alonso González Brenes *	ACLAP, SINAC
4	Eco-tourism for Sustainable Use of Natural and Cultural Resources(A)	21/Jul - 1/Sep	Carlos Rodríguez Vega*	ACTo, SINAC
5	Sustainable Natural Resource Management through Collaborative Management of Protected Areas	25/Aug - 28/Sep	Juan Carlos Carrillo Espino	ACG, SINAC
6	Improvement of Environmental Education Technique for Biodiversity Conservation	31/Aug - 3/Oct	Walter Esteban Bello Villalobos*	Santa Elena Cloud Forest Reserve
7			Joselin Rios Montero	Wildlife Coordinator, Executive Secretary, SINAC
8			Sebastian Bonilla Sanchez	Research manager, ACTo, SINAC
9			Jose Pablo Vasquez Badilla	PEB, ACG, SINAC
10			Miguel Antonio Jimenez Sales	Administrator, ZP Arenal Monteverde, ACAT, SINAC
11			Priscilla Castro Salazar	Natural Resource Management, ACOPAC, SINAC
12			Jose Joaquin Vargas Mora	Natural Resource Management, ACTo, SINAC
13			Jose Manuel Quiros Rodriguez	Wildlife Coordinator, ACAHN, SINAC
14			Jose Carlos Leal Rivera	RNVS Mala Redonda, ACT, SINAC
15			Esteban Mauricio Herrera Har	Research Coordinator, ACMIC, SINAC
16	Participatory Environmental Monitoring	14/Jun - 30/Jun	Gustavo Jimenez Blanco	Coordinator of Monitoring, Birds and Mammals, ACCVC,
17			Jorge Arturo Gonzalez Villalob	Research Coordinator, ACLAC, SINAC
18			Stephanie Mory Villaseñor	Tourism program, ACOSA, SINAC
19			Enzo Vargas Salazar	PN Chirripó, ACLAC, SINAC

Arce (3)

Annex 7

List of Equipment

No	Name of the Item	Model	Date of purchase	Price (A)	Currency	Price (B) (USD)	Location
1	Projector	V11H434021	2013/9/13	80,155	USD	817.57	Heredia
2	Vehicle (Land Cruiser)	1HZ0731468	2013/9/12	4,019,661	USD	41,000.00	Guápiles
3	Vehicle(Prado)	1KD2245775	2013/9/12	3,627,499	USD	37,000.00	Heredia
4	Safe	arca SEYMA: Modelo G-76D, LP 1033C	2013/10/30	97,796	USD	995.00	Heredia
5	Safe	arca SEYMA: Modelo G-76D, LP 1033C	2013/10/30	97,796	USD	995.00	Guápiles
6	Computer	CS702GNC5B	2013/10/11	89,441	USD	910.00	Guápiles
7	Projector	H553A PLx24+	2013/11/22	92,850	USD	945.00	Guápiles
8	Projector	H553A PLx24+	2013/11/22	92,850	USD	945.00	Guápiles
9	Computer	35MOXE118780	2013/10/8	92,203	CRC	463,098.50	Guápiles
10	Refrigerator	ATLAS-RAF260LPBBS0	2014/3/26	48,709	CRC	237,490.00	Heredia
11	Video Camara	Sony-DCR-SR21, P-02102063-S	2014/3/27	46,927	CRC	228,800.00	Heredia
12	Flat Screen TV Set	SAMSUNG60,UN60FH6003FXZA	2014/3/28	180,486	CRC	879,990.00	Heredia
13	Single Objective Reflex Camera	KCC-REI-NKR-D3200	2014/3/26	164,542	USD	1,610.00	Guápiles
14	Laptop Computer	28789528025	2014/2/17	91,178	CRC	438,988.00	Heredia
15	Laptop Computer	28509689089	2014/2/17	91,178	CRC	438,988.00	Heredia
16	Fotocopier	MX0137425	2014/2/17	790,735	USD	7,717.57	Heredia
17	Fotocopier	MX0138670	2014/2/17	790,735	USD	7,717.57	Guápiles
18	Laptop Computer	Satellite C45-ASP4311FL	2014/2/24	95,714	USD	934.17	Guápiles
19	Computer	M825125SH	2014/2/17	89,450	CRC	430,671.00	Heredia
20	Camera	Canon PowerShot SX50 HS/PC1817	2014/12/10	58,791	USD	500.00	Guápiles
21	Awning	MUNDITOLDOS 6X6 METROS	2015/2/11	134,520	CRC	600,000.00	Heredia
22	Laptop Computer	UX303L	2015/3/24	204,210	CRC	900,000.00	Guápiles
23	Sound Equipment	STAGEPAS150M	2015/1/20	64,480	USD	535.20	Heredia
24	Binoculars -5 units	Vortex Diamond back	2014/12/9	171,666	USD	1,460	Guápiles
25	Binoculars -35 Units	Bushnell H2O	2015/3/18	499,926	USD	4,200	Guápiles
26	Trap Camera - 20 Units	Bushnell TrophyCom HD	2015/1/12	570,304	USD	4,800	Guápiles
27	Digital Camera - 4 Units	Canon PowerShot SX170	2014/12/10	129,338	USD	1,100	Guápiles
28	Bird Guide - 40 Units	Birds of Costa Rica	2015/3/20	103,980	CRC	460,000	Guápiles
29	Bird Guide - 40 Units	Birds of Costa Rica	2015/3/5	180,000	CRC	800,000	Guápiles
30	UPS - 5 Units	Smartbit NB 1000	2013/10/23	42,145	CRC	212,855	Heredia
32	Trap Camera with Safety Chain and Memory Card - 78 Units	119678C Bushnell	2015/3/17	2,994,199	USD	25,155	Heredia
33	Portable Hard Drive - 11 Units	SUMSUNG2TB	2015/3/26	138335	CRC	612,106	Heredia

Assignment of Counterparts

Annex 8

As of October, 2015

Project Management/Execution Team

No.	Full Name	Function within the Project	Institutional Position	Period
1	Julio Jurado Fernández	Project Director	Executive Director, Executive Secretary, SINAC*	2014.10-
	Rafael Gutiérrez Rojas	Project Director	Executive Director, Executive Secretary, SINAC*	2013.4 - 2014.6
2	Luis Rojas Bolaños	Project Manager	Project Manager	2013.4-
3	Almará Espinoza (Currently in Leave of Absence)	Research Coordinator	Research Coordinator (Currently, Chief for San José Office, ACCVC**)	2013.4 - 2015.2
4	Laura Rivera	Participatory Management	ACTo Director	2013.4-

Barru del Colorado National Wildlife Refuge

No.	Full Name	Institutional Position	Period
1	María Elena Herrera*	ASP, ACTo Manager	2013.4-
2	Erick Herrera	RNVS BC Manager	2013.4-
3	Sonia Calvo	Community Management	2013.4-
4	Lorely Solo	Community Management	2013.4-
5	Ana María Monge	Environmental education	2013.4 - 2015.10
6	Mariana Jiménez	Government Natural Heritage	2013.4-
7	Sebastián Bonilla Sánchez	Research	2013.4-
8	Jeffrey Castillo	Tourism	2013.4-

*Also Member of RNVS Commission.

Project Liaison on Conservation Areas

No.	Full Name	Conservation Area	Institutional Position	Period
1	Gabriela Gutiérrez Ruiz	ACG (Guanacaste Conservation Area)	Biological Education Program Coordinator	2013.11-
2	José Pablo Vázquez Badilla	ACG (Guanacaste Conservation Area)	Biological Educator Coordinator of the Environment	2013.11-
3	German Aguilar	ACAT (Arenal-Tempisque Conservation Area)	Education Program and Biological Corridors Environmental Education	2013.11-
4	Lilrea Sancho Chacón	ACAHN (North Arenal Huelar Conservation Area)	Program Coordinator	2013.11-
5	Sonia Calvo	ACTo (Tortuguero Conservation Area)	Community Management	2013.11-
6	Yolany Cadeño	ACT (Tempisque Conservation Area)	Wildlife and Environmental Education Regional Coordinator	2013.11-
7	Olga Durán	ACCVC (Central Volcanic Cordillera Conservation Area)	Environmental Education Coordinator	2013.11-
8	Juan Pedro Jiménez Chávez	ACOPAC (Central Pacific Conservation Area)	Citizen Participation and Governance Manager	2013.11-
9	Gravín Vilegas Rodríguez	ACLAP (Pacific-La Amistad Conservation Area)	Chirripo National Park Manager	2013.11-
10	Oliver Morales	ACLAC (Caribbean-La Amistad Conservation Area)	Manager of Environmental Education in Implementing Indigenous Agenda and PILA	2013.11-
11	Laura Díaz	ACOSA (Osa Conservation Area)	Ardele's/Star Community Management Officer	2013.11-
12	Braulio Navarro	ACMIC (Marine Conservation Area Cocos Island)	Cooperation and Project Coordinator	2013.11-

MAP Coordinators

No.	Full Name	Conservation Areas	Institutional Position	Period
1	José Pablo Vázquez Badilla	ACG (Guanacaste Conservation Area)	Biological educator	2016.4-
2	Alfrael Jiménez Sales	ACAT (Arenal-Tempisque Conservation Area)	Arenal Protected Area Manager	2015.4-
3	José Manuel Quiros Rodríguez	ACAHN (North Arenal Huelar Conservation Area)	Wildlife Coordinator	2016.4-
4	Sandra Díaz Alvarado	ACAHN (North Arenal Huelar Conservation Area)	Research and Volunteer	2015.4-
5	José Joaquín Vargas	ACTo (Tortuguero Conservation Area)	Program Wildlife Officer	2015.4-
6	Sebastián Bonilla Sánchez	ACTo (Tortuguero Conservation Area)	Coastal Marine Program Manager	2015.4-
7	José Carlos Leal Rivera	ACT (Tempisque Conservation Area)	RNVS Mata Redonda y Palustrino Wetland Corral de Piedra Administrator	2016.4-
8	Gustavo Jimenez Blanco	ACCVC (Central Volcanic Cordillera Conservation Area)	Marketing and Tourism Program Manager	2015.4-
9	Priscilla Castro Salazar	ACOPAC (Central Pacific Conservation Area)	Technician in Forest Management and Wildlife	2015.4-
10	Enzo Vargas Salazar	ACLAP (Pacific-La Amistad Conservation Area)	Research Program Manager	2015.4-
11	Jorge Arturo González Villedobas	ACLAC (Caribbean-La Amistad Conservation Area)	Research Programme Manager of the Chirripo National Park	2015.4-
12	Stephanie Mory	ACOSA (Osa Conservation Area)	Sustainable Tourism Program ACOSA	2015.4-
13	Esteban Herrera	ACMIC (Marine Conservation Area Cocos Island)	Research Coordinator	2015.4-
14	Yocelyn Ríos	SE	Wildlife Management	2015.4-
15	José Joaquín Calvo	SE	Macroprocesses Conservation and Sustainable Use	2016.4-
16	Gustavo Induni	SE	Macroprocesses Conservation and Sustainable Use	2015.4-

Revisar (3)

Coordinators in the Development of Zoning Guide

No.	Full Name	Conservation Area	Institutional Position	Period
1	Jenny Ash	SE	Macroprocesses Conservation and Sustainable Use	2013.4-
2	Gerardo Aravia	SE	Macroprocesses Citizen Participation	2013.4-

Partners Involved in the Monitoring System Development of PES

No.	Full Name	Conservation Area	Institutional Position	Period
1	Sonia Lobo	SE-SINAC (National System of Conservation Areas)	Macroprocesses Conservation and Sustainable Use	2013.4-
2	Wilber Saqueira Vindas	SE-SINAC (National System of Conservation Areas)	Macroprocesses Conservation and Sustainable Use	2013.4-
3	Oscar Sanchez	FONAFIFO (Costa Rican National Forest Financial Fund)	Environmental Services Director	2013.4-
4	Gilmar Navarrete Chacon	FONAFIFO (Costa Rican National Forest Financial Fund)	Head of Department of Control and Monitoring	2013.4-

Partners of the Commission on National Wildlife Refuges

No.	Full Name	Institution	Institutional Position	Period
1	Eugenio Arguedas	SINAC Executive Secretary	Macroprocesses Conservation and Sustainable Use	2013.4-
2	Noirna Rodriguez	ACT (Tempisque Conservation Area)	Wild Protected Areas Manager	2013.4-
3	Gina Guza	ACLAC (Caribbean-La Amistad Conservation Area)	Wildlife Areas Manager ACLAC	2013.4-
4	Wilson Barrantes	ACAHN (North Arenal Huastar Conservation Area)	Assesor Legal ACAHN	2013.4-
5	Evelyn Aguilar	ACOSA (Osa Conservation Area)	Legal Adviser, ACOSA, SINAC	2013.4-
6	Jose Manuel Galvos	ACAHN (North Arenal Huastar Conservation Area)	Wildlife Manager	2013.4-
7	Jose Mastis	ACLAC (Caribbean-La Amistad Conservation Area)	Manager Wildlife Genética	2013.4-
8	Earl Junier Wade	ACLAC (Caribbean-La Amistad Conservation Area)	Manzanillo Refugio	2013.4-
9	Glenn Ramirez	Conservation Area	Wildlife Coordinator	2013.4-
		Executive Secretary, SINAC	Legal Advisory Secretariat	2013.4-

"Unit" of Citizen and Governance

No.	Nombre y Apellido	Institución	Posición en la Institución	Periodo
1	Magall Castro	Executive Secretary, SINAC	Manager	2015.7-
2	Cacilia Montero	Executive Secretary, SINAC	Macro Process Officer	2015.7-
3	Adolfo Sánchez	Executive Secretary, SINAC	Macro Process Officer	2015.7-
4	Cindy Sánchez	Executive Secretary, SINAC	Macro Process Officer	2015.7-
5	Gerardo Aravia	Executive Secretary, SINAC	Macro Process Officer	2015.7-
6	Jairo Bencho	Executive Secretary, SINAC	Macro Process Officer	2015.7-

SINAC
ACCVC**

Conservation Areas National System
Central Volcanic Cordillera Conservation Area

Revisado (3)

Local Operational Cost (Japanese side and Costa Rican side)

Currency: US Dollars

	JFY2013 (April / 2013- March 2014)	JFY2014 (April / 2014 - March 2015)	JFY2015 (April - September 2015)	Total
<i>Exchange Rate (JICA) (Colones)</i>	491.35	533.25	521.82	
Local consultants Contract	159,398.00	455,076.00	24,096.59	638,570.59
Courses Implementation costs	4,690.22	9,750.05	1,803.16	16,243.43
Expenses for implementation of activities	68,617.61	39,358.21	27,992.71	135,968.53
Costs for maintenance of official vehicles	8,758.14	15,912.77	8,748.69	33,419.60
Travel Expenses	45,795.83	117,775.47	24,291.82	187,863.12
Staff Use (Driver, Secretary, etc)	29,577.19	65,976.08	29,541.90	125,095.17
Overhead (Project Office, Telephone, Internet Service, Water, Electricity, Cleaning, Security Guard)	25,545.56	28,077.27	17,215.61	70,838.44
Publicity Expenses	12,808.16	41,590.45	547.60	54,946.21
Total	355,190.71	773,516.30	134,238.08	1,262,945.09

** Exchange rate: Average JICA official exchange rate during the period of Japan's fiscal year

Operation cost of the project to the Costa Rica Government

Local Operational Cost of Costarican Side

Monetary Unit: US dolar

	2013 (April to December 2013)	2014 (January to December 2014)	2015 (January to September 2015)	Total
Exchange Rate (JICA)	480.67	525.02	523.73	
Local consultants Contract	0.00	0.00	0.00	0.00
Courses Implementation costs	0.00	0.00	0.00	0.00
Expenses for implementation of activities	283.15	288.16	200.38	771.69
Costs for maintenance of official vehicles	2,496.78	2,931.46	2,128.68	7,556.91
Travel Expenses	1,163.10	1,228.70	810.89	3,202.70
Staff Use (Driver, Secretary, etc)	0.00	0.00	0.00	0.00
Overhead (Project Office, Telephone, Internet Service, Water, Electricity, Cleaning, Security Guard)	415.94	52,990.17	34,187.30	87,593.40
Publicity Expenses	0.00	0.00	0.00	0.00
Total	4,358.97	57,438.49	37,327.25	99,124.71

Bealys ③

List of Report Outputs

As of October, 2015

Output 1

Date	Title	Consultant
March, 2015	Research on the effects and impacts of the installation of integrated farms in the National Wildlife Refuge Barra del Colorado and the development of participatory monitoring system (Phase II)	National University (UNA)
March, 2015	Study on existing standards for the production of palm oil, rice and cattle ranching and based farms that meet the standards in the district Gaspar Plain and Linda Vista in the National Wildlife Refuge Barra del Colorado	Biosnergia Alternativa S.A.
March, 2015	Study of Land Tenure in Sector Gaspar Plain National Wildlife Refuge Barra del Colorado (Phase II)	Land and Seas Management consultants OTM S.A
September, 2014	Mapping of existing land use National Wildlife Refuge Barra del Colorado: Phase II)	National Biodiversity Institute (INBio)
March, 2015	Provision for identifying productive potential and marketing of system products integrated farms in the National Wildlife Refuge Barra del Colorado	Mayra López Jiménez

Output 2

Date	Title	Consultant
March, 2015	Systematization of participatory management in the conservation of biodiversity in the National System of Conservation Areas	SINAC Officials (including the liaisons of the project)
March, 2015	Manual for systematization of participatory management in the conservation of biodiversity in the National System of Conservation Areas	Carlos Brenes
March, 2015	Study report on the systematization of national experiences of ecotourism / sustainable tourism and analysis on the contribution of biodiversity in Costa Rica	Turismo & Conservación Consultores
March, 2015	Study report on the history, contribution and the present state of NGOs on biodiversity conservation of Costa Rica	Sociedad de Estudios para el Desarrollo Rural (SEDER) S.A.

Output 3

Date	Title	Consultant
March, 2013	Draft amendment to Article 82 of the law of conservation of wildlife	SINAC Officials
March, 2015	Draft policy and institutional strategy SINAC to promote citizen participation in the conservation of biodiversity	LATIN AMERICAN FACULTY OF SOCIAL SCIENCES (FLACSO)
March, 2015	Draft Implementation Guide Zoning in protected wilderness areas in Costa Rica	Tropical Agricultural Research and Higher Education (CATIE)
March, 2015	Report on the creation of database research with trap camera in Costa Rica	Adolfo Artavia Rodríguez
October, 2015	Design of an integrated information system for monitoring and evaluation program of payment for environmental services	National University (UNA)

Output 4

Date	Title	Consultant
March, 2015	Video of Wetlands of Costa Rica and "spot" for media wedges issued on television under the cooperation framework with MINAE	DOMINIO DIGITAL S.A. (under the Framework of Cooperation with MINAE)

Beating (3)

List of Seminars and Events in Project Activities

No.	Event name	Period	Place	Participants
1	National Forum: Wetlands and Agriculture	February 28, 2014	Earth University, Costa Rica	132(Costa Rica 132)
2	Mesoamerican Seminar Participatory Management of Protected Areas	March 15 to 22, 2014	San José, Costa Rica	28 (El Salvador 2, Guatemala 2, Nicaragua 2, Honduras 6, Panamá 4, Belice 2, Dominican Republic 2, México 2 y Costa Rica 6)
3	Official commemoration: World Wetlands Day	February 23, 2015	Santo Domingo, Costa Rica	113 (El Salvador 3, Nicaragua 2, Honduras 2, Panamá 2, Belice 2, Dominican Republic 2, México 2, Costa Rica 95, Swiss 1)
4	Wetlands for our future Regional Seminar: Join us!	February 23 to 27, 2015	Santo Domingo, Costa Rica	28 (El Salvador 2, Guatemala 2, Nicaragua 2, Honduras 2, Panamá 2, Belice 2, Dominican Republic 2, México 2 y Costa Rica 12)
5	National Forum: Participatory Experience of Biodiversity in Costa Rica	August 21, 2016	San Carlos, Costa Rica	60(Costa Rica 50)

List of events participated by the MAPCOBIO Project

No.	Event name	Period	Place	Participants
1	Asian Congress on Protected Areas	November 13-17, 2013	Sendai, Japan	Sr. Gustavo Induni Alfaro, Protected Wildlife Manager, Executive Secretariat, SINAC Sr. Mauricio Ariza Zumbado, Protected Wildlife Manager, ACCVC, SINAC Sr. Jeffrey Castillo Machado, RNVS BC, ACTO, SINAC
2	Environmental Fair 2014	June 4-6, 2014	San José, Costa Rica	Sr. Luis Rojas, Project Manager MAPCOBIO, SINAC Sra. Sonia Celvo, RNVS BC, ACTO, SINAC Sra. Elvia Comares, Producer, La Aldea Community Sr. Evaristo Chavarria, Producer, La Aldea Community Sra. María Luisa Fernández, Producer, Linda Vista Community
3	Parallel Event: "A Series of Reviews on International Collaboration for the Aichi Biodiversity Targets: A case of Japan and Partner Nations", CDB COP 12	October 14, 2014	Pyeongchang, Korea	Sra. Patricia Madrigal Cordero, Deputy Minister of Environment (MINAE, CR)
4	Parallel Event : (JICA & UNU-IAS) "The Satoyama Concept: Theory and Practice", Congreso Mundial de Parques	November 14, 2014	Sydney, Australia	Sr. Julio Jurado Fernández, Executive Director, SINAC
5	VII Iberoamerican Congress on Environmental Education	September 10-12, 2014	Lima, Perú	Sra. Gabriela Gutiérrez Ruiz, Biological Education Program, ACG, SINAC Sr. Pablo Vásquez Badilla, Biological Education Program, ACG, SINAC

Doc/103 (3)

Achievement of Outputs, Project Purpose, and Overall Goal

1. Achievement of Outputs

Output1: The participatory management of the biodiversity in the REBACO will be strengthened and shared with other protected areas.	
<u>Indicator 1-1:</u> 33 associated producers under the system of integrated farms improve their incomes by 20% at the end of the Project.	<u>Status:</u> Currently, 33 agriculture producers have been applying at least one and more activities learned from the system of integrated farms training course offered by the former project. Among them, 15 producers have different characteristics and have capacity to teach the method of integrated farm. Seven of the 15 producers are very actively engaged in method of the integrated farms as model farms. It is difficult for all 33 registered farms to conduct the activities due to difference in their financial capacity. Also, in order to increase their revenue, there are uncontrollable external factors by the project such as economic condition in the country; therefore, this indicator should be revised.
<u>Indicator 1-2:</u> 5 intensive production farms apply at least one sustainable activity at the end of the Project.	<u>Status:</u> Agreement was made with large scale farms' associations such as CORPFOGA, CONARROZ and large scale company Palma Tica, for promoting sustainable production techniques.
<u>Indicator 1-3:</u> 150 local inhabitants are attended by ACTo about land tenure and use in REBACO each year starting in 2016.	<u>Status:</u> Actual figure of this data is not available. It was envisaged that result of land survey would enable local residents to obtain correct information on the land tenure and use in REBACO, thus SINAC can manage REBACO with evidences to have better communication with local residents. The Project conducted the land survey in a part of the pilot area of integrated farm model area under the Project, Llanura del Gaspar. The survey has completed and the result information was shared with local residents there. According to the interview with C/P in SINAC, through this land survey, ACTo staff and local residents could have better knowledge on land division and management and apply for other area. As the result of this information sharing

	in Llanura del Gaspar, number of local residents' consultation with SINAC has increased.
<u>Indicator 1-4:</u> Each trained teacher will give at least 4 sessions of environmental education, starting during school year 2015 at REBACO local schools and its buffer zone.	<u>Status:</u> Actual figure of this data is not available. According to the record at the project office, trained teachers at 7 schools have conducted environmental education by 14 times until August 2015. Training courses on environmental education for teachers in primary and secondary ("colegio" in spanish) schools were conducted by 3 times in 2014 and 2 until August (March and August in 2015). Teachers in total 11 schools are trained out of target 16 schools in REBACO.
<u>Indicator 1-5:</u> A Report of Participatory Monitoring Results is published yearly starting 2015.	<u>Status:</u> Report is able to be compiled after 2015 since the monitoring activity has already started. In JFY 2013 and 2014, Birds Observation Events were held with cooperation by national NGOs. During JFY 2014, trainings for survey on identifying the bird were conducted by 11 times, with participation of 107 person/times of local resident volunteers. From year 2015, monitoring on birds and mammals and other animals by trap camera has been started.
<u>Indicator 1-6:</u> Local Councils from REBACO formulate and implement at least 2 proposals and/or events per year during the Project starting 2014.	<u>Status:</u> At present, two councils cover the area of REBACO. In November, 2014, Local Council in Llanura del Gaspar formulated the Activity Plan including the integrated farms activities. The other local council in Marino Costero was just established in August 2015. This new council will start to formulate the Activity Plan.
<u>Indicator 1-7:</u> There is a Management Plan approved and implemented in 2015.	<u>Status:</u> Management Plan for 5 years has been updated and it is expected to be completed in 2016, due to the waiting time for the decision on inclusion of the environment indicators, under requirement by Contraloria General de Republica. In this plan, participatory biodiversity conservation activities developed by the project will be incorporated into the Plan.
<u>Indicator 1-8:</u> There is a Participatory Management Manual of National Wildlife	<u>Status:</u> Activities related for this indicator were not scheduled in Plan of Operation. For the purpose to share

Refuge with the experiences in REBACO and other areas at the end of September, 2017.	the experience with REBACO, document on experiences on participatory biodiversity conservation is drafted in Output 2.
--	--

Output2: Document the knowledge about the participatory biodiversity conservation of Costa Rica, by systematizing the successful experiences.

<p>At least 17 research reports:</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 12 reports about SINAC experience (SE and 11 ACs) ✓ One report about the formulation experience of the Biodiversity Law ✓ 4 thematic reports 	<p><u>Status:</u> Following research reports were developed :</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 20 reports regarding the SINAC Experiences. (Experiences of SE and 11 ACs) ✓ One report about the process of creation and development of SINAC, including formulation experience of the Biodiversity Law ✓ Two thematic reports on NGO and Ecotourism are finalized in 2015.
---	--

Output3: Policies for improving participatory biodiversity conservation will be proposed.

<p>At least 6 policies will be approved by the CONAC at the end of the Project.</p>	<p><u>Status:</u> In relation to Output 3, following 5 items such as draft revision on law, policy, monitoring system are undertaken under the project as described below:</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ <u>Draft of revision on the clause 82 in "Wild Life Protection Law"</u> is already completed; however, a series of related law such as the Forest Law are prioritized and currently undergoing with the initiative of the environment minister; therefore, the process of approval was stopped. ✓ <u>Draft SINAC Policy and Institutional Strategy for Promoting Participatory Biodiversity Conservation</u> was already prepared and submitted to the SINAC authority in March, 2015. ✓ <u>Draft Zoning guideline in Protected Area (ASP)</u> was delayed due to the waiting time for the decision on inclusion of the environment indicators, under requirement by Contraloria General de Republica. ✓ <u>Report on basic data collection of investigation</u>
---	--

Recibido (3)

	<p>with <u>Trap Camera in Costa Rica</u> was done by the consultant. Training courses for participatory monitoring in each protected area are in the middle of implementation.</p> <p>✓ <u>Payment for Environment Service (PES)</u></p> <p><u>Impact Monitoring System</u>: Proposal for the system design was finalized in Oct. 2015. The system will be established hereafter based on the proposal.</p>
--	---

Output4: Share the knowledge on participatory biodiversity conservation within and out of the country.	
<u>Indicator 4-1</u> : At least 10 events will be implemented to share Costa Rican knowledge during the Project.	<p><u>Status</u>: The Project conducted 6 events:</p> <ul style="list-style-type: none"> - 3 national forums - 2 regional seminars - 1 international seminar <p>Also, the Project participated in 5 regional and international seminars held by other organizations. In these seminars, the experience in Costa Rica was shared with participants.</p>
<u>Indicator 4-2</u> : The results of the evaluations from the participants in the events are positive.	<p><u>Status</u>: From the result of questionnaire in two regional seminars, approximately 80% ~90% of respondents satisfies with the content of the seminar. It is judged that the participants evaluated positively on these two seminars.</p>
<u>Indicator 4-3</u> : At least 10 reports are prepared, one for each event	<p><u>Status</u>: There are reports on two regional seminars. This indicator is, however, not direct evidence to share knowledge.</p>

2. Achievement of Project Purpose

Project Purpose: The knowledge of participatory biodiversity conservation in Costa Rica will be broadly shared within and outside of the country.	
<u>Indicator 1</u> : At least 3 policies approved by the CONAC are implemented.	<p><u>Status</u>: Any of policies and revised law prepared in Output 3 have not been completed nor approved yet, thus, no policy or revised laws are not implemented. This indicator is not direct evidence to show the achievement of Project Purpose. Also, given the current progress of the policy and revision on the</p>

Annex 12

	law, this indicator should be reconsidered.
<p><u>Indicator 2:</u> At least 100 participants of the events create proposals for the action plans that incorporate the shared knowledge.</p>	<p><u>Status:</u> Participants in the events have shared the knowledge; however, they do not necessarily apply the knowledge to drafting the action plan, because seminar content has not covered yet the method of drafting action plan. Basis of target number 100 at least within and out of Costa Rica could not be justified.</p> <p>It is necessary to reconsider this indicator.</p>

3. Achievement of Overall Goal

<p>Overall Goal: The policy and systems of participatory biodiversity conservation will be strengthened making good use of the knowledge in Costa Rica and Central American countries.</p>	
<p><u>Indicator 1:</u> All proposed policies by the Project will be implemented in Costa Rica</p>	<p><u>Status:</u> No activities and outcome are conducted in relation to the indicators for Overall Goal. If the indicators for project purpose are revised, this indicator is also required to be revised accordingly.</p>
<p><u>Indicator 2 :</u> At least 5 proposals of the action plans made by the participants are implemented.</p>	<p><u>Status:</u> The same as the above.</p>

maulig ③

コスタリカ国「参加型生物多様性保全推進プロジェクト」中間レビュー 評価グリッド

1. プロジェクトの達成度

評価設問		判断基準	必要なデータ	情報源/データ収集方法
大項目	小項目			
PDM のロジックは適切であるか。	最新の PDM Ver.1.1 のロジックは適切であるか。	PDM ver.1.1 の各項目との因果関係、論理的関連性の適切性の検証	<ul style="list-style-type: none"> PDM ver.1.1 	<ul style="list-style-type: none"> 詳細計画策定調査レビュー プロジェクト報告書・関連資料レビュー JCC の議事録 C/P インタビュー 日本人専門家インタビュー
	PDM の修正は適切であったか?	PDM ver. 1.1 の修正の適切性	<ul style="list-style-type: none"> PDM ver. 1 PDM ver.1.1 	同上
プロジェクトへの投入は計画通り実施されたか。	日本側の投入は計画どおり実施されてきたか。	計画・実績の差異分析	<ul style="list-style-type: none"> 投入実績 	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトから提供されたデータ・情報
	コスタリカ側からの投入は計画どおり実施されてきたか。	計画・実績の差異分析	同上	同上
プロジェクトのアウトプット（成果）は計画どおり達成されつつあるか。		PDM ver.1.1 の指標	<ul style="list-style-type: none"> アウトプットの実績 	同上
プロジェクト終了時まで目標*は達成される見込みであるか。		PDM ver.1.1 の指標	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトのアウトプットと目標指標の達成見込み 	同上
プロジェクト上位目標は達成される見込みであるか。		プロジェクト目標の達成の結果としての上位目標の達成見込み	<ul style="list-style-type: none"> (プロジェクトの成果物の) コスタリカ国内及び他国の政策やスキームへの適用の見込み 	同上
プロジェクトのアウトプットと目標達成に影響する要因はなにか。		<ul style="list-style-type: none"> -PDM の外部条件の充足 -その他外部状況 	外部条件その他の事項に関するデータ・情報	同上

*プロジェクト目標：「コスタリカにおける参加型生物多様性保全のための知識 (Knowledge) がコスタリカ国内外に広く共有される」。プロジェクトにおける「知識 (Knowledge)」とは、「生物保全にかかる政策や取り組みが実施されるに至った背景、その後の実施プロセス、実施状況とその結果の関連性、生物・社会・経済的効果・影響、課題、教訓、今後の改善の方向性などを体系的に整理したもの」と定義されている (2013年2月4日に締結の Record of Discussion of the Project)。

2. 実施プロセス

評価設問		判断基準	必要なデータ	情報源/データ収集方法
大項目	小項目			
プロジェクト活動は計画どおり実施されたか。		<ul style="list-style-type: none"> - PDM の活動計画と実績の比較 - 追加あるいは中止された活動の有無 	<ul style="list-style-type: none"> - PDM ver. 1.1 と活動計画 (PO) - 活動実績 	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト報告書・関連資料レビュー - C/P インタビュー - 日本人専門家インタビュー
プロジェクトは適切に運営されているか。	現在の実施体制は効果的かつ効率的に機能してきたか。	<ul style="list-style-type: none"> - C/P と日本人専門家との責務・役割分担の適切性 - C/P の間 (本部・地方支所) での責務・役割分担の適切性 - 関係する組織や委員会の実施体制の適切性 	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト実施体制・システム - 意思決定のメカニズム - プロジェクト運営状況 	同上
	プロジェクトは適切にモニタリングされてきているか。	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクトの進捗に関する JCC によるモニタリングの効果 - 調査諮問委員会の研究計画・結果のモニタリングの効果 	<ul style="list-style-type: none"> - JCC による評価モニタリング結果及び提言 - 調査諮問委員会のアドバイス 	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト報告書・関連資料レビュー - JCC 議事録 - 調査諮問委員会議事録 - C/P インタビュー - 日本人専門家インタビュー
	C/P と日本人専門家間のコミュニケーションは問題ないか。	専門家と C/P の間での定期的かつ十分なコミュニケーション	日本人専門家と C/P とのコミュニケーションの頻度	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト報告書・関連資料レビュー - C/P インタビュー - 日本人専門家インタビュー
プロジェクトの進捗に関し、コスタリカ側のイニシアティブは十分であったか。	C/P のプロジェクトへの参加、主体性はどの程度であるか。	<ul style="list-style-type: none"> - C/P のプロジェクト目標、進捗状況、課題の十分な理解 - C/P のプロジェクト活動に関与への主体性 	<ul style="list-style-type: none"> - C/P のプロジェクトへの理解度 - C/P のプロジェクト活動への参加度合い - C/P のプロジェクトでの役割・責任と日常業務内容 	同上
	適切な職位/人員が C/P として配置されているか。	プロジェクト目標と C/P の配置の整合性 (組織、部署、人員キャパシティの点において)	<ul style="list-style-type: none"> - C/P 側の調査コーディネーターの不在の影響 (2015 年 9 月時点) - プロジェクトにおいて協力が必要な他の組織、部署、人員の有無 - 現在進行中の組織改編による地域事務所の人員・権限の変更 	同上

評価設問		判断基準	必要なデータ	情報源/データ収集方法
大項目	小項目			
	REBACO*において対象となる地方政府及び地域住民の参加や垂体性の程度はどうであるか。	<ul style="list-style-type: none"> - 地方政府及び地域住民のプロジェクト目標、進捗状況、課題についての理解 - 対象となる地方政府及び地域住民によるプロジェクト活動への参加へのイニシアティブ 	プロジェクト活動における地方政府と地域住民の参加の程度	同上 <ul style="list-style-type: none"> - 地方政府インタビュー - 地域住民へのインタビュー
プロジェクトの進捗に影響を及ぼす要因はあるか。	プロジェクト実施を阻害する要因はあるか。		<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクトの遅延の要因となった問題・制約 	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト報告書・関連資料レビュー - C/Pインタビュー - 日本人専門家インタビュー
	プロジェクト実施を促進する要因はあるか。		<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクトの進捗に貢献した事項 	同上

* REBACO:Refugio Nacional de Vida Silvestre Barra del Colorado (バラ・デル・コロラド野生生物保護区)

3. 5 項目評価
妥当性

評価設問		判断基準	必要なデータ	情報源/データ収集方法
大項目	小項目			
プロジェクト目標と上位目標は現在の国家戦略、政策、計画と一致しているか。		- プロジェクト実施後のコスタリカの政策や開発計画における参加型生物多様性保全の優先度	コスタリカの参加型生物多様性保全に関する国家計画と政策。例えば、 - Plano Nacional de Desarrollo (2015-2018) - Política Nacional de Biodiversidad (2015-2030) - Plan Estratégico SINAC	- 政府報告書、開発計画 - 詳細計画策定調査報告書
プロジェクト目標と上位目標は中米における地域戦略と一致しているか。		- 中米の政策や開発計画における参加型生物多様性保全の優先度	参加型生物多様性保全に関する地域政策/計画。例えば、“Estrategia Regional Ambiental Marco 2015-2020”	- 地域組織の報告書、開発計画
プロジェクトアプローチはターゲットグループ*のニーズと一致しているか。 *ターゲットグループ: MINAE, SINAC, REBACO の地域住民、コスタリカ及び中米における生物多様性関連機関 対象地域: REBACO とコスタリカの他の保全地域とその周辺	プロジェクトアプローチはコスタリカとその他の中米の国々における参加型生物多様性保全の普及に効果がある戦略であるか。	- プロジェクト目標と上位目標を達成する手段としてのプロジェクトアプローチ/デザインの適切性 - PDM 上の矛盾、問題の有無	- 関係者のプロジェクトアプローチ/デザインの評価 - PDM ver. 1.1	- 詳細計画策定調査報告書 - 日本人専門家インタビュー - コスタリカの関係者へのインタビュー (C/P とその他のターゲットグループ組織)
	対象地域、ターゲットグループの選定は適切であるか。	- プロジェクト目標と上位目標から対象地域とターゲットグループの整合性 - REBACO の経験の他の地域・グループへの適用可能性あるいは参照性 - 中米の他国における参加型生物多様性保全の経験の交流へのニーズ	- コスタリカ及び他国における参加型生物多様性保全に関する知識の体系化と共有の必要性 - 地方政府及び地域住民の参加型生物多様性保全へのニーズ - 参加型生物多様性保全が必要な他の地域の現状	- 詳細計画策定調査報告書 - 日本人専門家インタビュー - コスタリカの関係者へのインタビュー (C/P 組織とその他のターゲットグループ組織)
プロジェクトは日本の ODA 政策に合致しているか。		プロジェクト目標とプロジェクト開始後の日本の ODA 政策との整合性	対コスタリカの日本の ODA 政策 - 「対コスタリカ国別援助方針」(2012年4月) - 「対コスタリカ事業展開計画」(2015年4月)	- 詳細計画策定調査報告書 - 日本の ODA 政策レビュー
プロジェクトの実施におい		日本の経験の適用性あるいは参照性	- 参加型生物多様性保全についての	- 詳細計画策定調査報告

評価設問		判断基準	必要なデータ	情報源/データ収集方法
大項目	小項目			
て日本の比較優位はあるか。			他国における日本の ODA の経験 - 日本における参加型生物多様性保全	書 - 類似の日本の経験、日本の ODA の経験の資料
他の国際援助との適切な調整は行われているか。		プロジェクトの効率性、有効性を向上させるような他ドナーの援助との調整	- プロジェクトアプローチ、デザインに関する関係者の評価	- 国際援助ドナーへのインタビュー

有効性

評価設問		判断基準	必要なデータ	情報源/データ収集方法
大項目	小項目			
プロジェクトのアウトプットの達成見込みはあるか。		アウトプットの達成	(「1. プロジェクト達成度」を参照)	(「1. プロジェクト達成度」を参照)
プロジェクト目標は終了までに達成される見込みか。		プロジェクト目標の達成見込み	(「1. プロジェクト達成度」を参照)	(「1. プロジェクト達成度」を参照)
- プロジェクトのアウトプットは、計画通りプロジェクト目標の達成に貢献する見込みであるか。	-	- アウトプットのプロジェクト目標達成への貢献 - プロジェクト目標達成におけるアウトプットの充足度	- アウトプットの達成度 - アウトプットのプロジェクト目標達成への貢献の例	- 日本人専門家インタビュー - C/P インタビュー
プロジェクト目標達成に向け、促進/阻害要因はあるか。		- PDM の外部条件の充足 - プロジェクト目標達成に影響する他の外部要因 - プロジェクト目標達成に影響する内部要因	(「1. プロジェクト達成度」を参照)	(「1. プロジェクト達成度」を参照)

効率性

評価設問		判断基準	必要なデータ	情報源/データ収集方法
大項目	小項目			
プロジェクト活動への投入の適切性	日本側の投入は適切であるか。	<日本人専門家> - 人数、専門性、タイミング、期間の適切性 <本邦研修> - 研修生の人数、専門性、研修内容、期間、タイミングの適切性 <コンサルティングサービス契約>	- 活動計画 (PO) - 専門家の配置 - 海外研修の記録 - 供与機材リスト - 項目別ローカルコスト	- 日本人専門家インタビュー - C/P インタビュー - プロジェクト報告書・関連資料レビュー

評価設問		判断基準	必要なデータ	情報源/データ収集方法
大項目	小項目			
		<ul style="list-style-type: none"> - コンサルタントの質と契約のタイミング <機材> <ul style="list-style-type: none"> - 型、質、設置のタイミングの適切性 		
	<ul style="list-style-type: none"> - コスタリカ側の投入は適切であるか。 	<ul style="list-style-type: none"> - <C/P> - 人数、配置、担当者のスキルの適切性 - <施設> - コスタリカ側から提供された施設の適切性 - <ローカルコスト> - コスタリカ側からのローカルコスト負担の適切性 	<ul style="list-style-type: none"> - 活動計画 (PO) - C/P の配置 - 提供された施設状況 (もしあれば) - 項目別ローカルコスト 	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト報告書・関連資料レビュー
投入と活動はアウトプットを達成するために適切であったか。		<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト活動実施のための投入の充足度 - アウトプットのためのプロジェクト活動の必要性、充足度 	<ul style="list-style-type: none"> - 活動計画 (PO) - 投入実績 - 活動実績 	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト報告書・関連資料レビュー - (「1. プロジェクト達成度」と「2. 実施プロセス」を参照)
<ul style="list-style-type: none"> - 効率性の観点からプロジェクト実施を阻害あるいは推進する要因はあるか。 		<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクトの効率性に関し、制約と推進力となる事項 	<ul style="list-style-type: none"> - 活動における投入の利用状況 - アウトプット達成への外部条件に関する情報 	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト報告書・関連資料レビュー - (「1. プロジェクト達成度」と「2. 実施プロセス」を参照)

インパクト (評価時の上位目標達成の見込み)

評価設問		判断基準	必要なデータ	情報源/データ収集方法
大項目	小項目			
<ul style="list-style-type: none"> - 上位目標は達成される見込みがあるか。 	<ul style="list-style-type: none"> - 上位目標はプロジェクト目標達成の結果として達成されそうであるか。 	<ul style="list-style-type: none"> - 上位目標の指標 - プロジェクト目標と上位目標の因果関係の論理性 	<ul style="list-style-type: none"> - (「1. プロジェクト達成度」を参照) 	<ul style="list-style-type: none"> - (「1. プロジェクト達成度」を参照)
	<ul style="list-style-type: none"> - 上位目標達成のための外部条件の影響がありそうか。 	<ul style="list-style-type: none"> - 外部条件の充足 	<ul style="list-style-type: none"> - 上位目標への外部条件に関する情報 	同上 <ul style="list-style-type: none"> - 日本人専門家インタビュー - C/P インタビュー

評価設問		判断基準	必要なデータ	情報源/データ収集方法
大項目	小項目			
- 予測されなかった正・負のインパクトはあるか。	-	- 例えば、以下の点における正・負の変化等 - 全国的あるいは制度的な事項 - 対象地域の財政的事項 - 対象地域の社会文化的事項	- 正・負のインパクトの例	- プロジェクト報告書・関連資料レビュー - 日本人専門家インタビュー - C/P インタビュー - 地方政府インタビュー - 地域住民インタビュー

持続性（将来の見込み）

評価設問		判断基準	必要なデータ	情報源/データ収集方法
大項目	小項目			
プロジェクトの効果はプロジェクト終了後も継続する見込みがあるか。	（政策面） コスタリカ政府の政策支援は継続されそうか。	- 参加型生物多様性保全に対する継続的な政治的・制度的支援	関係者の意見	- 日本人専門家インタビュー - C/P インタビュー
	（制度面） プロジェクトの成果は他地域に普及し、持続的に活用されるか。	- プロジェクトの参加型生物多様性保全の経験を通じた知見の国家政策、ガイドライン、規則、将来計画への反映	REBACO の実績・教訓の他地域への適用に関する政策、ガイドライン、規則、あるいは計画	同上
	（組織面） コスタリカにおいて組織的な支援は継続するか。	- SINAC による参加型生物多様性保全実施のための関係機関間の調整強化 - 関係者(組織)の関与の仕方と役割分担の適切性	関係者の意見	同上
	（技術面） プロジェクト関係者はプロジェクトの効果を持続するために十分なスキルがあるか。	- 適切な活動実施のための SINAC 職員のマネージメントスキル - 継続的に活動を実施するための REBACO の地方政府職員や地域住民のキャパシティ	関係者の意見	- 日本人専門家インタビュー - C/P インタビュー - 地方政府インタビュー - 地域住民インタビュー
	（財政面） MINAE/SINAC はプロジェクトの効果を持続するための資金を調達し、予算配分できる見込みがあるか。	- MINAE と SINAC の予算調達の能力	参加型生物多様性保全活動に関する近年の予算配分計画と実績	- MINAE/SINAC 年次報告書 - 日本人専門家インタビュー - C/P インタビュー

「コスタリカ・参加型生物多様性保全推進プロジェクト」中間レビュー時の PDM の改訂（プロジェクトの要約）

項目	現行 PDM	改訂案（下線部が主要修正箇所）	改訂理由
Target Group 対象者	MINAE, SINAC, local residents of the REBACO, Relevant Agencies to the Biodiversity Conservation of Costa Rica and other Central American countries. 環境エネルギー省（MINAE）、国家保全地域システム庁（SINAC）、バラ・デル・コロラド 野生生物保護区内の住民、コスタリカ及び中米諸国の生物多様性保全に関する組織	SINAC, MINAE, Local Residents of the RNVS BC, Relevant Agencies to the Biodiversity Conservation of Costa Rica and Central American Countries*. <u>(*Those agencies participated in the seminars held by the Project)</u> 環境エネルギー省（MINAE）、国家保全地域システム庁（SINAC）、バラ・デル・コロラド 野生生物保護区内の住民、コスタリカ及び中米諸国の生物多様性保全に関する組織（プロジェクトの実施したセミナーに参加した組織）	中米諸国の生物多様性保全に関する組織という表現では、範囲が不明瞭であり、ターゲットが際限なく広がってしまう。よって対象者をより明確な上限で表した。
Target Area 対象地域	Barra del Colorado National Wildlife Refuge, and the other Costa Rican protected areas and their surroundings. バラ・デル・コロラド 野生生物保護区と、その他のコスタリカの保護区とその周辺地域。	Barra del Colorado National Wildlife Refuge and <u>the Conservation Areas.</u> バラ・デル・コロラド 野生生物保護区と保全地域	現行 PDM の“その周辺地域”がどこまでを指すのか不明瞭であった。よってより明確な表現で表した。
Overall Goal 上位目標	The policy and systems of participatory biodiversity conservation will be strengthened making good use of knowledge in Costa Rica and Central American countries. コスタリカ及び中米各国における参加型生物多様性保全に関する政策とシステムが、知識の適切な利用により強化される。	The policy and systems of participatory biodiversity conservation will be strengthened making good use of knowledge in Costa Rica and Central American countries. コスタリカ及び中米各国における参加型生物多様性保全に関する政策とシステムが、知識の適切な利用により強化される。	変更なし
Project Purpose プロジェクト目標	The knowledge of the participatory biodiversity conservation in Costa Rica will be broadly shared within and outside the country. コスタリカにおける参加型生物多様性保全のための知識が、コスタリカ国内外に広く共有される。	<u>A mechanism to share the knowledge of participatory approach of Costa Rica is established in and outside Costa Rica.</u> コスタリカにおける参加型手法の知識を共有するメカニズムがコスタリカ国内外で構築される	現行 PDM では知識が共有されるというところで終わっており、継続性が担保されない記載振りとなっている。継続的な知識共有を行っていく体制づくりが重要との判断の下、知識の共有のためのメカニズム構築をプロジェクト目標とした。
OUTPUT1 成果 1	The participatory management of the biodiversity in the REBACO will be strengthened and shared with	<u>Participatory management approach of Wildlife Refuge is examined and verified in R.N.V.S.B.C., and empirical</u>	現行 PDM ではバラ・デル・コロラド野生生物保護区での取り組みのプロジェクトにおける位置づけが

	<p>other protected areas. バラ・デル・コロラド野生生物保護区における参加型生物多様性保全が強化され、他の保護区と共有される。</p>	<p><u>knowledge is extracted for dissemination.</u> 野生生物保護区における参加型管理手法がバラ・デル・コロラド野生生物保護区で実施・検証され、それを普及するための経験的な知識が引き出される</p>	<p>明確ではなかった。同保護区で実施しているのは野生生物保護区における参加型管理手法であり、他の野生生物保護区における参加型管理手法のモデルのケースとしての位置づけを明確にした。</p>
<p>Activities 活動</p>	<p>1-1 Strengthen the activities of the Integrated Farms 統合農家の活動を強化する 1-2 Promote a sustainable production system for the intensive production farms (private farms of medium and large scale) in REBACO バラ・デル・コロラド野生生物保護区内の集約型農牧業に対する持続的生産システムを促進する。 1-3. Promote a better management of land use and land ownership in REBACO バラ・デル・コロラド野生生物保護区内の土所有制度とその利用について改善する。 1-4. Improve Participatory Environmental Monitoring (MAP in Spanish) of REBACO. 参加型モニタリングを改善する。 1-5 Strengthen the environmental education activities in REBACO . 環境教育活動を改善する。 1-6 Improve the management of Local Councils in REBACO 地方評議会の活動を改善する。 1-7 Update REBACO's Management Plan. 管理計画を見直す。 1-8 Carry out workshops and the exchange of experiences of the activities developed in REBACO and with other NWRs of SINAC バラ・デル・コロラド野生生物保護区内の経験を他の野生生物保護区と情報交換するためのワー</p>	<p><u>1-1 Promote sustainable production in R.N.V.S.B.C..</u> バラ・デル・コロラド野生生物保護区における持続可能な生産を促進する。 <u>1-2 Promote awareness rising on participatory management of R.N.V.S.B.C..</u> バラ・デル・コロラド野生生物保護区における参加型マネージメントの意識を向上する。 <u>1-3 Promote participatory approaches through existing mechanisms such as Local Councils and Management Plan of R.N.V.S.B.C..</u> 地方評議会や管理計画といった既存のメカニズムを活用して参加型アプローチを促進する。 <u>1-4 Prepare participatory biodiversity conservation guideline in Wildlife Refuge based on R.N.V.S.B.C.'s experiences.</u> バラ・デル・コロラド野生生物保護区での経験に基づいた野生生物保護区の参加型生物多様性保全ガイドラインを作成する。</p>	<p>現行 PDM の成果 1 の活動の表現が個々の活動となっており、各活動の目的が不明確であるため、目的に応じた書き振りとした。また、他の野生生物保護区への普及を目的としているため、野生生物保護区の参加型生物多様性保全ガイドラインを作成するという活動を追記した。</p>

	クシヨップを行う。		
OUTPUT 2 成果 2	Document the knowledge about the participatory biodiversity conservation of Costa Rica by systematizing the successful experiences. コスタリカにおける参加型生物多様性保全に関する知識が、成功事例の体系化を通して、記録される。	Knowledge of participatory biodiversity conservation in Costa Rica is systematized. コスタリカにおける参加型生物多様性保全の知識が体系化される。	現行 PDM では記録することが目的化しているが、知識の体系化が目的であるため、表現を修正した。
Activities 活動	2-1 Establish the “Research Advisory Committee” of the Project. 調査諮問機関を設立する。 2-2 Perform the mandatory Committee meetings. 諮問機関の会合を定期的に開催する。 2-3 Define the research topics in order to document knowledge with the consulting of the Advisory Committee of the Project. コスタリカの経験を体系化するためのテーマを調査諮問委員会のアドバイスの下、確定する。 2-4 Hire consultants for the research. 体系化を行うためのコンサルタントを契約する。 2-5 Establish a network of liaison of the Conservation Areas. 各保全地域の連絡員ネットワークを構成する 2-6 Establish the systematization methodologies. 知識の体系化の手法を確立する 2-7 Outline the experiences concerning the topics to systematize. 体系化のため、懸案テーマの経験についてアウトラインを示す。 2-8 Train the liaisons. 連絡員を訓練する。 2-9. Define managers, among the liaisons, for each topic to systematize. 体系化する各テーマごとに	2-1 Establish the Research Advisory Committee for the Project. 調査諮問委員会を設立する。 2-2 Define the research themes to document the knowledge with the advice of the Research Advisory Committee of the Project コスタリカの経験を体系化するためのテーマを調査諮問委員会のアドバイスの下、確定する。 2-3 <u>Conduct the research. 調査を実施する。</u> 2-4 <u>Systematize research results</u> <u>調査結果を体系化する。</u>	現行 PDM の成果 2 の活動に係る部分の表現は PO レベルで記載すべき内容のため、これらの活動を統合した表現に改めた。実質的な活動内容に変化はない。活動の細部については PO に書き出すこととした。

	<p>連絡員の中からマネージャーを決める。</p> <p>2-10 Carry out the systematization with the support of the consultants. コンサルタントのサポートを受けながら、体系化を図る。</p>		
Output 3 成果 3	<p>Policies for improving participatory biodiversity conservation will be proposed.</p> <p>参加型生物多様性保全を強化するための政策が提案される。</p>	<p>Policies and tools for participatory biodiversity conservation are proposed in Costa Rica.</p> <p>参加型生物多様性保全の政策とツールが、コスタリカにおいて提案される。</p>	<p>現行PDMでは提案内容が政策だけとなっているが、実際には政策以外の参加型アプローチを促進するためのツールが活動として含まれているため、実態に合わせてツールを含める表現とした。</p>
Activities 活動	<p>3-1 Develop a methodology for the monitoring of biophysical and socioeconomic impacts of PSA (payment of environmental services), with a participatory approach.</p> <p>参加型を焦点にした「環境サービスへの支払い」制度の生物学的、社会経済的インパクトモニタリング方法を作成する。</p> <p>3-2 Elaborate a proposal for other permitted uses within the Natural State Patrimony, within the National Wildlife Refuges.</p> <p>自然保護区内にある国家自然財産における他の利用許可に関する提言を作成する。</p> <p>3-3 Establish the Local Management Program within the SINAC.</p> <p>SINAC の中に地域活動プログラムを設立する。</p> <p>3-4 Develop the participatory environmental monitoring at the national level. 全国レベルで参加型環境モニタリングを実施する。</p> <p>3-5 Strengthen the Management Policy (Shared, participatory or governance) of ASP (wildlife protected areas) .野生生物保護区の管理政策が強化される。</p> <p>3-6 Develop the ASP zoning guide in a participatory</p>	<p>3-1 <u>Strengthen the “unit” of Citizen’s Participation and Governance</u></p> <p>SINAC に新設される市民参加ガバナンスのユニットを強化する。</p> <p>3-2 <u>Conduct activities for improvement of policies and tools for participatory biodiversity conservation</u></p> <p>参加型生物多様性の政策やツールの改善につながる活動を実施する。</p>	<p>現行 PDM の成果 3 の活動に係る部分の表現は PO レベルで記載すべき内容のため、これらの活動を統合した表現に改めた。実質的な活動内容に変化はない。</p>

	manner with the involvement of personnel and councils. 野生生物保護区のゾーニングガイドが、参加型の手法によって作成される。		
Output 4 成果 4	Share the knowledge on participatory biodiversity conservation within and out of the country. 参加型生物多様性保全に関する知識が国内外で共有される。	<u>Knowledge on participatory biodiversity conservation is shared in and outside Costa Rica.</u> 参加型生物多様性保全の知識がコスタリカ国内外で共有される	英語の表現の微修正で、内容的に変更はない。
Activities 活動	4-1 Define and adjust the topics for the workshops and seminars. セミナー、ワークショップのテーマを決める。 4-2 Develop the programs for the workshops and seminars. セミナー、ワークショップのプログラムを確定する。 4-3 Make the materials for the workshops and seminars. セミナーワークショップのためのマテリアルを作成する。 4-4 Schedule and conduct the workshops and seminars. セミナー、ワークショップを実施する。	4-1 <u>Hold national seminars and workshops in Costa Rica</u> コスタリカ国内でセミナーやワークショップを実施する。 4-2 <u>Put reports, guidelines, presentation materials, and other products of the Project on SINAC Web site or other relevant platform.</u> SINAC の HP やその他関係のあるプラットフォームに、プレゼンテーション資料や、ガイドライン、レポートなどを掲載する。 4-3 <u>Build network among persons related to participatory biodiversity conservation in Costa Rica and Central American countries.</u> コスタリカや中米諸国の参加型生物多様性保全に関わる人々のネットワークを構築する。 4-4 <u>Present knowledge consolidated through project at CCAD.</u> プロジェクトの実施でまとめられた知識を CCAD (中米統合機構 中米環境・開発委員会) に提供する。 4-5 Participate international events and hold international seminars and workshop. 国際的なイベントに参加したり、国際的なセミナーやワークショップを開催する。	現行 PDM では知識共有の手段としてセミナー、ワークショップしか記載がなかったが、他の手段もあるため、追記した。

コスタリカ・参加型生物多様性保全推進プロジェクト PDM の改訂（指標の修正）

PDM 指標の修正点	設定理由・根拠等
<p>Overall Goal The policy and systems of participatory biodiversity conservation will be strengthened making good use of the knowledge in Costa Rica and Central American countries. コスタリカ及び中米各国における参加型生物多様性保全に関する政策とシステムが、知識の適切な利用により強化される。</p>	<p>1. Existence of projects and/or policies in Costa Rica and Central American countries that contributed to participatory biodiversity conservation. コスタリカあるいは中米各国における参加型生物多様性保全のプロジェクトあるいは政策がある</p> <p>2. Network established by the Project in and outside Costa Rica will be sustained, with 50 participants and more and introduction of new issues on participatory biodiversity conservation. プロジェクトによって設立されたコスタリカ国内外のネットワークが参加者 50 人以上で新たな課題の提示がなされており、維持されている。</p>
<p>Project Purpose A mechanism to share the knowledge of participatory approach of Costa Rica is established in and outside Costa Rica. コスタリカにおける参加型手法の知識を共有するメカニズムがコスタリカ国内外で構築される。</p>	<p>1. In each Conservation Area, at least one case of utilizing the knowledge consolidated by the Project. 各保全地域で、プロジェクトによって集約された知識（ナレッジ）を利用した事例が 1 つ以上ある。</p> <p>2. At least 50 persons in relevant agencies to biodiversity participated in network established by the Project, exchanging the knowledge and discussing on the issues on participatory biodiversity conservation. プロジェクトによって設立されたネットワーク</p>
	<p>プロジェクト活動がプロジェクト終了後も継続した結果、プロジェクト終了後 5 年以内に達成され得る状況として、1.コスタリカと中米各国において、「本プロジェクトによって共有された知識を参考にした」プロジェクトや政策あること、2.プロジェクトによって設立されたネットワークの参加者数がプロジェクト終了時と同数以上が維持され、プロジェクト終了後にも新たな課題が提示され、活発な議論がネットワークでなされている状況であることを挙げた。</p> <p>コスタリカ国内、中米統合機構（SICA）の環境開発委員会（CCAD）の関係者、中米各国の関係者へのアンケートあるいはインタビュー、そして、国内外のネットワークの内容を確認することによって評価可能である。</p> <p>中間レビュー時点で、コスタリカ国内の各保全地域の中での参加型生物多様性の経験がとりまとめられ、見直されている段階であった。2016 年以降にこれらの報告書の横断分析がなされ、国内のワークショップで集約された知識の共有活動が行われる予定である。ワークショップを通じて知識が共有され、さらにそれらの知識を利用して各保全地域で参加型生物多様性保全活動が改善につながるように推進し、SINAC 本部の市民参加担当の部署がモニタリングすることが考えられる。</p> <p>知識の共有のワークショップの際には各参加者がワークショップで学んだことを担当地域での参加型生物多様性保全活動へどのように反映していくのか議論し、プロジェクト終了時まで実際に各保全地域でどのように活動計画の改善に結びつけたかを確認する。本プロジェクトの残りの実施期間が 2 年半であることを考慮すると、少なくとも活動計画の改善までなされていればよいと考えられる。</p> <p>中米各国とのネットワークを構築する場合、CCAD をプラットフォームとすることが妥当と考えられることから、ベリーズ、コスタリカ、グアテマラ、ホンジュラス、エルサルバドル、ニカラグア、パナマ、ドミニカ共和国の 8 カ国が特にターゲットとなる。今後少なくとも 4 回の国際セミナーが予定されており、それぞれ各国少なくとも 2 名が参加すると想定し、50 名以上を目標とし</p>

	<p>に生物多様性関係機関の 50 人以上が参加し、知識の交流や参加型生物多様性保全の議論を行っている。</p>	<p>た。また、上記の国以外にも、CCAD のような地域機関の事務局の担当者のネットワークへの参加もあると想定される。</p>
	<p>3. A responsible section of SINAC for knowledge sharing is determined and develops a mechanism (e.g. homepage) to keep updating relevant data. 知識共有のための SINAC の責任部署が決定され、関連データの更新を行うメカニズム（ホームページ等）を開発する。</p>	<p>SINAC 内で参加型生物多様性保全に関する知識の共有推進をどの部署が担うかという点については、内容的には市民参加とガバナンスの部署が考えられるが、情報共有の技術面では情報システム担当部署等と協働で進めることになるとみられる。SINAC の組織体制、現在の組織改編の状況も見つつ、関係者で協議して決めることになると考えられる。本プロジェクトによって集約した知識（調査レポート等含む）の WEB 等を利生した共有方法、情報データのアップデートの内容と頻度などを決め、プロジェクト終了までに何等かの形で公式文書として残すことが想定される。</p>
	<p>4. The responsible section of SINAC for knowledge sharing with foreign countries develops a partnership and establishes a mechanism (e.g. homepage linkage) to share knowledge with regional initiatives such as CCAD. 外国との知識共有のための責任部署がパートナーシップを発展させ、CCAD のような地域イニシアティブとの知識共有のためのメカニズムを構築する。</p>	<p>上記と同様、内容的には市民参加とガバナンス部署が管轄となると想定されるが、外国機関との交流という意味では、国際関係の窓口部署も関係することになるとみられる。どのような形で進めるか、プロジェクト終了までに決定し、プロジェクト終了までに何等かの形で公式文書として残すことが想定される。</p>
<p>Output 1 Participatory management approach of Wildlife Refuge is examined and verified in R.N.V.S.B.C., and empirical knowledge is extracted for dissemination. 野生生物保護区における参加型管理手法がバラ・デル・コロラド野生生物保護区で実施・検証され、それを普及するための経験的な知識が引き出される。</p>	<p>1.1.Participatory Biodiversity Conservation Guideline in Wildlife Refuge based on the experiences in R.N.V.S.B.C. is published. バラ・デル・コロラド野生生物保護区の経験に基づいた、野生生物保護区参加型生物多様性保全のガイドラインが公表される。</p>	<p>バラ・デル・コロラド野生生物保護区における経験を基に分析を行い（SINAC の各保全地域で野生生物保護区の参加型生物多様性保全の経験がある場合は、それらとの比較分析も含む）、野生生物保護区における参加型生物多様性保全のガイドラインを作成することを想定。「バラ・デル・コロラド生物保護区における住民参加型管理プロジェクト」（2008 年 10 月～2011 年 10 月）の実施時にマニュアルがまとめられているが、本プロジェクトでの取り組みを含めて、情報をアップデートしてまとめる。本プロジェクト活動で行ってきた、統合農家（個人）への支援、集約的農業の協会あるいは企業に対する環境に配慮した持続可能な生産活動の推進、土地所有に関する取り組み、環境教育、参加型環境モニタリング、地方委員会との取り組み、管理計画への反映等、複数テーマを網羅した内容となる。類似の活動を他の野生生物保護区で行う場合の、指針及び留意点について、実施体制の構築や担当職員の能力強化の観点にも言及する。</p>
<p>Output 2 Knowledge of participatory biodiversity</p>	<p>2.1 Reports produced in Costa Rica in below are analyzed and empirical knowledge is integrated in a handbook for</p>	<p>SINAC の参加型生物多様性保全の経験を記録するのみならず、それらの記録を横断分析し、経験から得られた知識を集約してハンドブックとしてまとめる</p>

<p>conservation in Costa Rica is systematized. コスタリカにおける参加型生物多様性保全の知識が体系化される。</p>	<p>participatory biodiversity conservation under the initiative of SINAC. -12 reports about SINAC experience (SE and 11 ACs) -One report about the creation and development process of SINAC, including formulation experience of the Biodiversity Law -4 thematic reports コスタリカにおいて作成した下記のレポートが分析され、SINAC のイニシアティブで参加型生物多様性保全のハンドブックとして実証的な知識を集約する。 -SINAC の経験に関する 12 の報告書（保全地域の報告書 11+SINAC 本部の事務局の報告書 1） -生物多様性法の策定経験も含め、SINAC 創設及び発展過程についての報告書 -4 つのテーマの報告書</p>	<p>ころまでを体系化の作業とする。</p>
	<p>2.2 SINAC has a guideline and the officially approved methodology for the systematization of experiences of the Participatory Biodiversity Conservation. SINAC が参加型生物多様性保全の経験の体系化のガイドライン及び公的に認められた方法論を有する。</p>	<p>参加型生物多様性保全の経験の体系化については、プロジェクトの活動期間のみにとどまらず、その後も定期的に情報追加、更新作業を行うことを目指し、どのような頻度、方法、まとめる内容についての指針をとりまとめる。その指針は、なんらかの形で SINAC 組織として取り組む業務としての位置づけを確保できるところまで目指せるとよい。</p>
<p>Output 3 Policies and tools for participatory biodiversity conservation are proposed in Costa Rica. 参加型生物多様性保全の政策とツールが、コスタリカにおいて提案される。</p>	<p>3.1 At least 1 policy and 4 tools for participatory biodiversity conservation are proposed. 参加型生物多様性保全に関する 1 政策、4 ツール以上が提案される。</p>	<p>想定されている政策及びツールは以下の通り。参加型生物多様性保全政策、野生生物保護法第 82 条改定案、PES インパクトモニタリングシステム、参加型環境モニタリング、そして自然保護区ゾーニングガイドライン。 このうち、中間レビュー時点までに、参加型政策案を作成し、環境副大臣へ提出、住民参加推進に向けての野生生物法第 82 条の改正案は策定された。プロジェクトから提案した参加型政策案は、市民参加とガバナンスの新ユニットが創設される前のものであるので、本プロジェクト活動を同ユニットとともに実施していくとともに、必要に応じ政策案の見直しも必要に応じて提案することも考えられる。 PES インパクトモニタリングシステムについては、システムデザインのための基本指標案に関する報告書はまとめられている。コンサルタントと相談しつつ、具体的なシステム設計を行っていく予定であり、そこまでがプロジェクトのアウトプットの到達点である全国参加型環境モニタリングについてはすでに</p>

		<p>取り組まれつつあるが、実施を通じて今後の継続的取り組みの指針案まで策定されるところまでなされることが目指される。</p> <p>ゾーニングガイドライン案は概案はまとめられているが、これらについて見直され、より詳細化を図り、完成されるところまでを指標達成目標とする。</p>
<p>Output 4 Knowledge on participatory biodiversity conservation is shared in and outside Costa Rica. 参加型生物多様性保全に関する知識が国内外で共有される。</p>	<p>4.1 At least 12 events are implemented in Costa Rica to share the knowledge about Participatory Biodiversity Conservation consolidated by the Project. コスタリカにおいて、プロジェクトによって集約された参加型生物多様性保全の知識共有のために12のイベントが開催される。</p>	<p>中間レビュー時点までに、2013年度に1回、("National Forum : Wetlands and Agriculture") 2015年度に1回(国立公園の日における"National Forum: Participatory Experience of Biodiversity in Costa Rica")、コスタリカ国内において、プロジェクトで集約した経験の共有を行った。今後、2015年から2016年度において、各保全地域において集約された経験の共有セミナーが計画されており(合計10回)、プロジェクト終了時まで少なくとも12回のイベントが実施される予定である。</p>
	<p>4.2 At least 20 reports, guidelines, and presentation materials of the Project are published on SINAC Website. プロジェクトにおいて、20以上の報告書、ガイドライン、プレゼンテーション資料がSINACのウェブサイト公表される。</p>	<p>中間レビュー時点で、各保全地域の経験の報告書は20ある。その他、アウトプット1、2で作成されるガイドライン、ハンドブック、あるいは、セミナー・ワークショップで使用したプレゼンテーション資料についてもSINACのウェブサイトで公表される状況を指標とした。</p>
	<p>4.3 Knowledge sharing network about Participatory Biodiversity Conservation inside Costa Rica and among Central American countries is established. コスタリカ国内及び中米各国との参加型生物多様性保全の知識共有のネットワークが設立される。</p>	<p>中間レビュー時点では、ネットワーク構築については、コストをかけず、なんらかの既存のソーシャルネットワーク(Linkin、Facebook、Whats App等)を利用し、国内外の関係者の情報共有体制、議論の場を形成することを想定している。</p>
	<p>4.4 Costa Rica's experiences on participatory biodiversity conservation is shared to CCAD at least twice. コスタリカの参加型生物多様性保全の経験がCCADに2回以上共有される。</p>	<p>プロジェクト後半期間の2.5年の間に、年間1回程度はCCADへの情報共有のミーティングの機会を設けることを目標指標とした。</p>
	<p>4.5 Costa Rica's knowledge on participatory biodiversity conservation is presented in international events or seminars at least 10 times. コスタリカの参加型生物多様性保全の知識が国際イベントやセミナーで10回以上紹介される。</p>	<p>中間レビュー時点までで、プロジェクトが主催し、中米地域及びその他の地域の他国を招待して行ったセミナーは3回、他機関が開催するセミナー出席は4回であった。</p> <p>2016年以降、国際イベント3回出席予定(CBD-COP13 サイドイベント、メソアメリカ生物学会、JICA主催のコスタリカで実施予定の生物多様性保全分野の地域研修1回/年、IUCN会議参加予定等)であること計画も含め、プロジェク</p>

		ト実施期間中に 10 回以上は紹介される見込みがあり、また、プロジェクト実施中に最低でもその程度の回数は、国際セミナーにて情報発信を行うべきであると思われる。
	4.6 More than 80% of respondents to the questionnaire understand the content of the national and international events/ seminars held by Costa Rica. コスタリカ開催の国内・国際イベント/セミナーの内容をアンケート回答者の 80%以上が理解している。	各セミナーでのアンケートを実施し、参加者がセミナー内容を理解したか否かを確認することで知識が共有されたとみなす。

